

令和3年度
障害者芸術文化活動
普及支援事業報告書

障害者芸術文化活動普及支援事業報告書

2022年3月

令和3年度

障害者芸術文化活動
普及支援事業報告書

令和3年度

障害者芸術文化活動

普及支援事業報告書

はじめに

「障害者芸術文化活動普及支援事業」は、2017（平成29）年度からスタートして、今年度で5年目の実施となりました。

今年度は各都道府県で本事業を実施する「障害者芸術文化活動支援センター（以下、支援センター）」は40ヶ所となりました。また、それら支援センターをブロック単位でサポートする「障害者芸術文化活動広域支援センター（以下、広域センター）」も全7ブロックすべてで展開しました。

令和3年度もコロナ禍という困難な状況は続きましたが、各センターが工夫を凝らし、事業を進めることができました。

本書が、本事業の取り組みを知っていただくきっかけになるとともに、各地での障害のある人の芸術文化活動支援の参考になれば幸いです。

最後になりましたが、本書の発行にご協力を頂いたすべての皆さまへお礼を申し上げます。

障害者芸術文化活動普及支援事業
連携事務局
(特定非営利活動法人アートNPOリンク、株式会社precog)

目次

02 はじめに

03 目次

04 障害者芸術文化活動普及支援事業とは

06 支援センター・広域センター一覧

08 支援センター・広域センターの取り組み

10 北海道・北東北ブロック

12 広域センター アールブリュット推進センター Gently（ジェントリー）

14 青森県 青森アール・ブリュットサポートセンター（AASC）

16 岩手県 岩手県障がい者芸術活動支援センター かだあると

18 南東北・北関東ブロック

20 広域センター 南東北・北関東ブロック広域センター

22 宮城県 障害者芸術活動支援センター@宮城（愛称：SOUP）

24 山形県 やまがたアートサポートセンターら・ら・ら

26 福島県 はじまりの美術館

28 栃木県 とちぎアートサポートセンター TAM [タム]

30 南関東・甲信ブロック

32 広域センター 南関東・甲信障害者アートサポートセンター

34 埼玉県 埼玉県障害者芸術文化活動支援センター

アートセンター集（基幹型）

36 埼玉県 ART（s）さいほく（特色型）

38 千葉県 千葉アール・ブリュットセンター うみのもり

40 東京都 東京アール・ブリュットサポートセンター Rights（ライツ）

42 神奈川県 神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター

44 山梨県 YAN 山梨アール・ブリュットネットワークセンター

46 東海・北陸ブロック

48 広域センター 東海・北陸ブロック

障害者芸術文化活動広域支援センター

50 新潟県 新潟県障害者芸術文化活動支援センター

52 富山県 富山県障害者芸術活動支援センター

ばーと◎とやま（BE=ART ◎ TOYAMA）

54 石川県 文化・芸術活動支援センターかける

56 福井県 福井県障がい者芸術文化活動支援センター

58 岐阜県 岐阜県障がい者芸術文化支援センター（TASC ぎふ）

60 静岡県 静岡県障害者文化芸術活動支援センターみらーと

62 愛知県 Aichi Artbrut Network Center

64 三重県 三重県障がい者芸術文化活動支援センター

66 近畿ブロック

68 広域センター 障害とアートの相談室

70 滋賀県 アール・ブリュットインフォメーション & サポートセンター

72 京都府 art space co-jin

74 大阪府 国際障害者交流センター ビッグ・アイ

76 兵庫県 ひょうご障害者芸術文化活動支援センター

78 和歌山県 和歌山県福祉保健部福祉保健政策局障害福祉課

80 和歌山県 和歌山県障害者芸術文化

活動支援センターわがらあと

82 和歌山県 ゆめ・やりたいこと実現センター

84 中国・四国ブロック

86 広域センター 中国・四国 Artbrut Support Center passerelle

88 鳥取県 あいサポート・アートセンター

90 島根県 島根県障がい者文化芸術活動支援センター

アートベースしまねいろ

92 広島県 広島県アートサポートセンター

94 徳島県 徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

96 香川県 香川みんなのアート活動センター KAGAWA MOVES

98 愛媛県 愛媛県障がい者アートサポートセンター

100 高知県 薬工ミュージアム 分室

102 九州ブロック

104 広域センター 九州障害者アートサポートセンター

106 福岡県 FACT（福岡県障がい者文化芸術活動支援センター）

108 佐賀県 佐賀県障がい者芸術文化活動支援センター SANC

110 長崎県 長崎県障害者芸術文化活動支援センター

112 熊本県 障害者芸術文化活動支援センター@熊本 愛隣館

114 大分県 おおいた障がい者芸術文化支援センター

116 宮崎県 宮崎県障がい者芸術文化支援センター

118 連携事務局の取り組み

125 数値でみる実績

障害者芸術文化活動普及支援事業とは

障害のある人が芸術文化を享受し、多様な芸術文化活動を行うことができるように、地域における支援体制を全国に展開し、障害のある人の芸術文化活動の振興を図るとともに、自立と社会参加を促進することをねらいとした中間支援事業です。

2014（平成26）年度から3年間を通じて全国12ヶ所で行った「障害者の芸術活動支援モデル事業」の成果やノウハウをもとに、2017（平成29）年度から支援の対象を「絵画や陶芸などの美術分野」に加えて、「演劇や音楽、舞踊などの舞台芸術分野」にも広げ、2020（令和2）年度からは「美術、音楽、演劇、舞踊などの多様な芸術文化活動」を対象として実施しています。

活動地域に応じて、都道府県「障害者芸術文化活動

支援センター（支援センター）」、ブロック「障害者芸術文化活動広域支援センター（広域センター）」、全国「連携事務局」といった支援拠点を設置しています。

同時に、これらの支援センター、広域センター、連携事務局のネットワークを構築し、県境を越えて広域でも連携しつつ、地域での振興を図りながら全国規模で本事業を推進しています。

また、毎年都道府県が持ち回りで開催する「全国障害者芸術・文化祭」や、同芸術・文化祭と連携する各自治体の「障害者芸術・文化祭のサテライト開催事業」、障害者総合福祉推進事業といった厚生労働省の他事業との連携で、障害のある人の芸術文化活動の振興を相乗的に図っています。

主な事業支援

障害者芸術文化活動普及支援事業では、支援センターが都道府県の支援拠点として相談支援や人材育成、関係者のネットワークづくり、発表の機会の確保、情報収集発信など多様なサポートを展開しています。さらに障

害者芸術文化活動広域支援センター（以下、広域センター）は、全国を7つのブロックに分け、ブロック内の支援センターや支援センターが設置されていない都道府県のサポートを行っています。



1 都道府県における活動支援

「障害者芸術文化活動支援センター（支援センター）」

- 1-1 都道府県内における相談支援
- 1-2 芸術文化活動を支援する人材の育成等
- 1-3 関係者のネットワークづくり
- 1-4 発表の機会の確保
- 1-5 情報収集・発信
- 1-6 事業評価及び成果報告のとりまとめ

2 ブロックにおける活動支援

「障害者芸術文化活動広域支援センター（広域センター）」

- 2-1 都道府県の支援センターに対する支援
- 2-2 支援センター未設置の都道府県の事業所等に対する支援
- 2-3 芸術文化活動に関するブロック研修の開催
- 2-4 ブロック内の連携の推進
- 2-5 発表の機会の確保
- 2-6 自治体における基本計画策定の推進
- 2-7 事業評価及び成果報告のとりまとめ

3 全国レベルにおける活動支援

「連携事務局」

- 3-1 広域センター等に対する支援
- 3-2 全国連絡会議の実施
- 3-3 全国の情報収集・発信
- 3-4 全国のネットワーク体制の構築、成果のとりまとめ、公表等
- 3-5 障害者団体、芸術団体等との連携

支援センター・広域センター一覧

支援センター 40 ヶ所には数字、広域センター 7 ヶ所にはアルファベットを振った。

北海道・北東北ブロック

- A北海道 アールブリュット推進センター Gently (ジェントリー)
- 01青森県 青森アール・ブリュットサポートセンター (AASC)
- 02岩手県 岩手県障がい者芸術活動支援センター かだあと

南東北・北関東ブロック

- B宮城県 南東北・北関東ブロック広域センター
- 03宮城県 障害者芸術活動支援センター@宮城 (愛称: SOUP)
- 04山形県 やまがたアートサポートセンターら・ら・ら
- 05福島県 はじまりの美術館
- 06栃木県 とちぎアートサポートセンター TAM [タム]

南関東・甲信ブロック

- C埼玉県 南関東・甲信障害者アートサポートセンター
- 07埼玉県 埼玉県障害者芸術文化活動支援センター
アートセンター集 (基幹型)
- 08埼玉県 ART (s) さいほく (特色型)
- 09千葉県 千葉アール・ブリュットセンター うみのもり
- 10東京都 東京アール・ブリュットサポートセンター Rights (ライツ)
- 11神奈川県 神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター
- 12山梨県 YAN 山梨アール・ブリュットネットワークセンター

東海・北陸ブロック

- D新潟県 東海・北陸ブロック障害者芸術文化活動広域支援センター
- 13新潟県 新潟県障害者芸術文化活動支援センター
- 14富山県 富山県障害者芸術活動支援センター ぱーと◎とやま
(BE=ART◎TOYAMA)
- 15石川県 文化・芸術活動支援センターかける
- 16福井県 福井県障がい者芸術文化活動支援センター
- 17岐阜県 岐阜県障がい者芸術文化支援センター (TASC ぎふ)
- 18静岡県 静岡県障害者文化芸術活動支援センターみらーと
- 19愛知県 Aichi Artbrut Network Center
- 20三重県 三重県障がい者芸術文化活動支援センター

近畿ブロック

- E奈良県 障害とアートの相談室
- 21滋賀県 アール・ブリュット インフォメーション&サポートセンター
- 22京都府 art space co-jin
- 23大阪府 国際障害者交流センター ビッグ・アイ
- 24兵庫県 ひょうご障害者芸術文化活動支援センター
- 25和歌山県 和歌山県 福祉保健部福祉保健政策局障害福祉課
- 26和歌山県 和歌山県障害者芸術文化活動支援センターわがらあと
- 27和歌山県 ゆめ・やりたいこと実現センター

中国・四国ブロック

- F高知県 中国・四国 Artbrut Support Center passerelle
- 28鳥取県 あいサポート・アートセンター
- 29島根県 島根県障がい者文化芸術活動支援センター
アートベースしまねいろ
- 30広島県 広島県アートサポートセンター
- 31徳島県 徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター
- 32香川県 香川みんなのアート活動センター KAGAWA MOVES
- 33愛媛県 愛媛県障がい者アートサポートセンター
- 34高知県 藁工ミュージアム 分室

九州ブロック

- G福岡県 九州障害者アートサポートセンター
- 35福岡県 FACT (福岡県障がい者文化芸術活動支援センター)
- 36佐賀県 佐賀県障がい者芸術文化活動支援センター SANC
- 37長崎県 長崎県障害者芸術文化活動支援センター
- 38熊本県 障害者芸術文化活動支援センター@熊本 愛隣館
- 39大分県 おおいた障がい者芸術文化支援センター
- 40宮崎県 宮崎県障がい者芸術文化支援センター

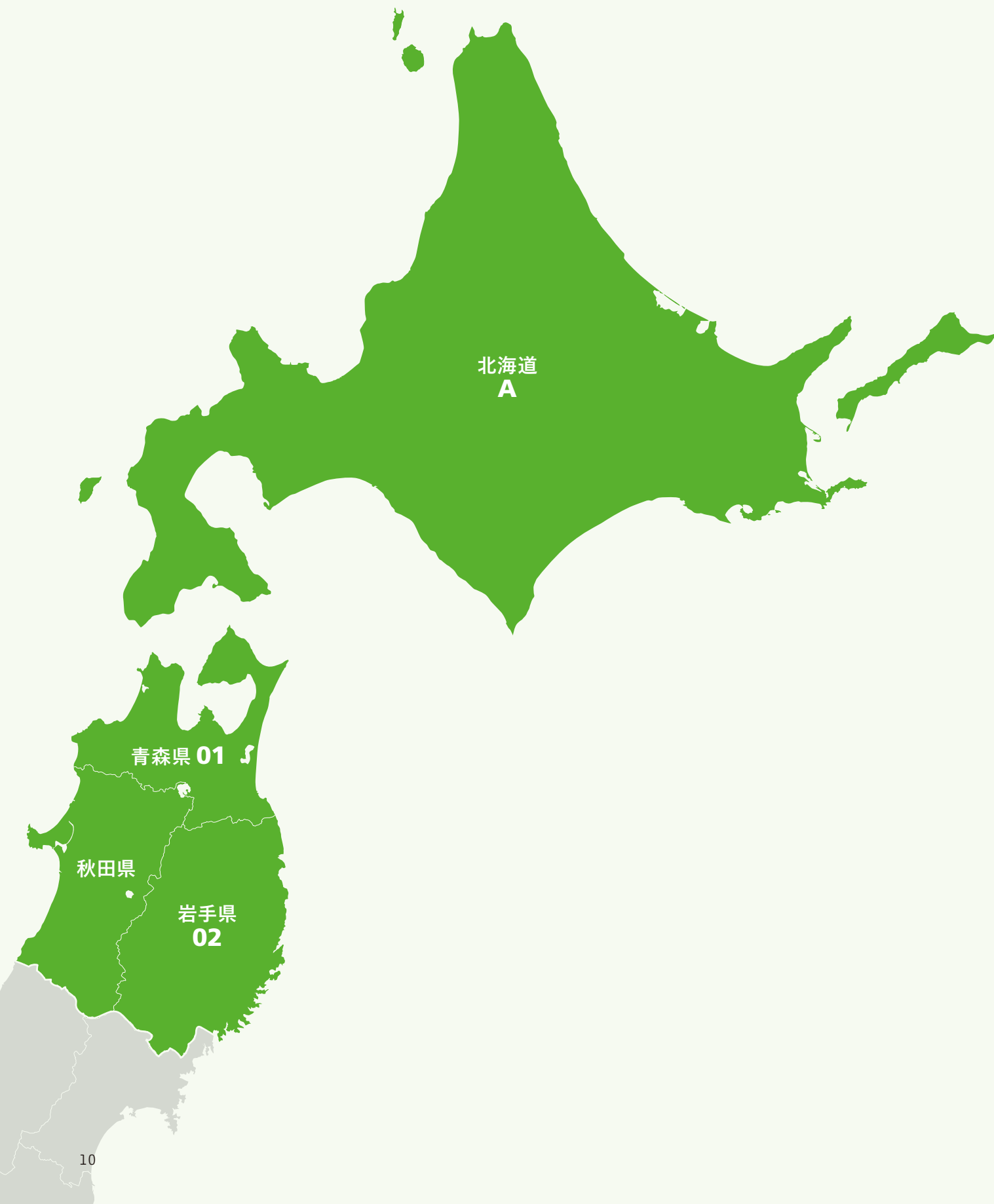


支援センター・広域センターの 取り組み

北海道・北東北ブロック

A アールブリュット推進センター Gently（ジェントリー）

広域センター運営団体：社会福祉法人ゆうゆう



北海道

担当課：保健福祉部 福祉局障がい者保健福祉課

青森県

担当課：健康福祉部障害福祉課

01 青森アール・ブリュットサポートセンター（AASC）

支援センター運営団体：社会福祉法人あーど

岩手県

担当課：文化スポーツ部文化振興課

02 岩手県障がい者芸術活動支援センター かだあると

支援センター運営団体：社会福祉法人岩手県社会福祉事業団

秋田県

担当課：健康福祉部障害福祉課調整・障害福祉班

| ブロック内の状況

1道3県のうち青森県、岩手県に支援センターが設置されており、北海道と秋田県は本事業が未実施である。広域センターは北海道に置かれている。青森県は、予算規模が小さく、事業において全県的な広がりをつくるのが難しいなか、特別支援学校の教員のネットワークの支援もあり、公募展への応募は順調である。岩手県は、障害者文化芸術祭を担う団体が担当しており、研修及び

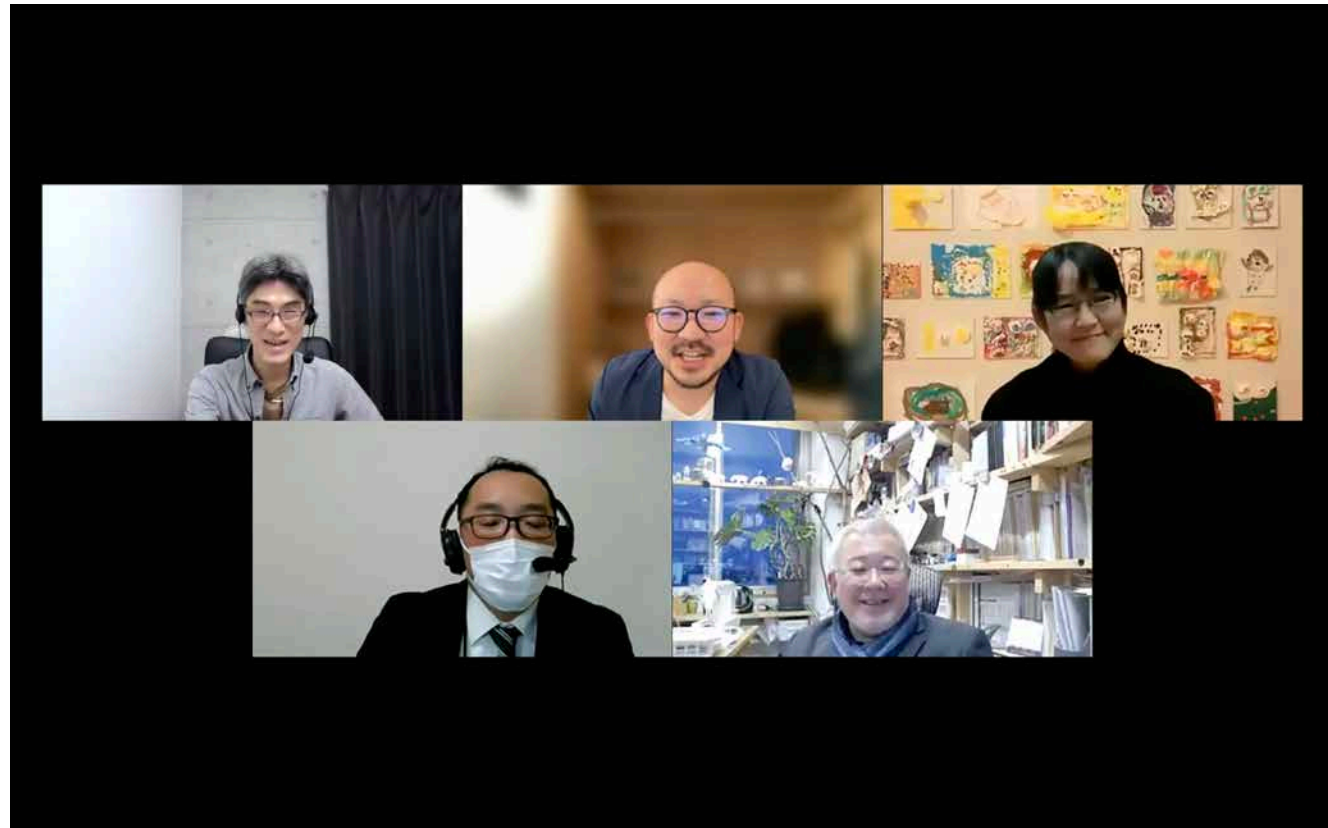
発表の機会を網羅的に地域に提供している。しかし、アートの専門家がないため、福祉の現場の人が取り組むことが前提での人材育成が課題となっている。北海道では、センター設置に向け財源確保の方策を検討中である。秋田県では、広域センターがセミナーを開催し、県内実施者のネットワークづくりに取り組むなど展開を模索中である。

アールブリュット推進センター Gently (ジェントリー)

〒061-0231 北海道石狩郡当別町六軒町70-18 社会福祉法人ゆうゆう内
TEL: 0133-22-2896 FAX: 0133-23-0811
E-mail: gently@yu-yu.or.jp URL: http://gently-artbrut.com/



Pick Up! 障害者の芸術文化活動の支援を考えるセミナー 「秋田の福祉とアートを支えるために」



障害者の芸術文化活動の支援を考えるセミナー「秋田の福祉とアートを支えるために」

ねらい 支援センターが未設置である秋田県において、県内の福祉団体の協力のもと、障害者の芸術文化活動の価値や意義を、これまで芸術文化活動に取り組んでいない団体や関係者に向けて発信するとともに、支援セ

内容 秋田県内には、2001（平成13）年に始まった「心いきいき芸術・文化祭」をはじめ、いくつもの取り組みがある。県内外で障害のある人の芸術文化活動の支援に取り組む実践者を迎えて開催したセミナーでは、秋田県におけるこれまでの取り組みをあらためて振り返るとともに、今後の県内の芸術文化活動において求められる支援センターのかたちについて意見を交わした。基調講演では、又村あおい氏（一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会）より福祉領域における芸術文化への期待やビジョン

ンターへの関心喚起や設置に向けた協力者のプラットフォーム形成のきっかけとなるような交流の場づくりをめざした。

など、続いて大橋一之氏（青森アール・ブリュットサポートセンター）より支援センターの事例紹介、さらに県内で福祉とアートを携わる3名にそれぞれの実践事例をご紹介いただいた。最後は登壇者全員による意見交換を行い、秋田県における障害者の芸術文化活動の可能性を共有した。翌月、セミナー参加者を中心に県内関係者を集め、支援センター設置に関する意見交換会を実施し、次年度の準備の動きにつなげられるよう支援センターの具体的なイメージを紹介した。

今年度の課題と目標

新型コロナウイルス感染症の収束が見込めず、発表会等の実施困難が予想されたため発表の機会の確保が課題の一つであったが、前年度の舞台芸術に加え美術分野もオンライン化することで発表機会の担保をめざした。支援センターに対する支援では、例年学びの場であった合同展を見合わせた代わりに、各センターの抱える課題に応じたプログラムをブロック研修で拡充し、スキルアップ

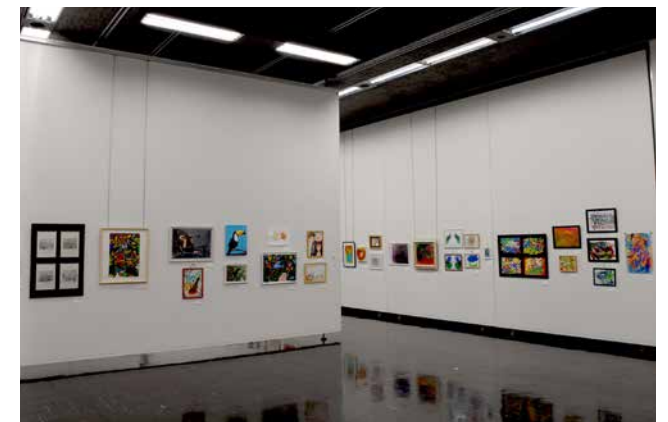
今年度の成果と展望

発表の機会の確保は、移動制限を想定して現地開催を道県ごとの取り組みに委ね、当センターは舞台芸術・美術とも完全オンライン化することで発表の場を絶やさないための一つのモデル提案となった。ブロック研修では内容・回数の充実を図り、参加者アンケートから高い満足度を得られていることが確認できた。コロナ禍により対面の機会を持っていない状況で、研修を通じて担当者同

士が気軽に情報交換や日頃の悩みを共有する場を提供できたことは重要だった。支援センター未設置県に対する取り組みでは、北海道・秋田県ともに、2023（令和5）年度設置に向け予算申請の意向が示され大きく前進できた。今後も各支援センターや未設置県の抱える課題や悩みを読み解き、積極的な提案を行いたい。



アール・ブリュットショウケース2021オンライン「舞台に上られ!」



公募展「北海道障害者のアート展」展示風景

実施一覧

●**ブロック内の連携の推進** [各センターの事業計画案の共有と広域センターへの要望などの意見収集、7/27] [各センターの進捗状況共有、12/13] [各センターの実施報告、次年度に向けた意見収集、3/10] ●**センター未設置都道府県の事業所等への支援** [道内作家を紹介する定期的な展覧会「杉ちゃんブラザーズ「まねっこ大好き!!」、8/18～9/10」] [道内作家を紹介する定期的な展覧会「アトリエKUUMUUS『ビギナーズ』」、10/5～10/29] [北海道障害者のアート展、10/6～10/10] [道内作家を紹介する定期的な展覧会「ゆく年くる年：菊地政司と剣淵西原学園展」、12/15～1/21] [障害者の芸術文化活動の支援を考えるセミナー「秋田の福祉とアートを支えるために」、1/19] [道内作家を紹介する定期的な展覧会「日高のアール・ブリュット」、3/4～3/23] ●

芸術文化活動に関するブロック研修 [相談支援勉強会、9/29、12/10、2/19] [舞台芸術研修、12/13] [展示研修、12/27] [当事者エデュケーター研究会「岩手から広げる『であい授業プロジェクト』、3/10] ●**発表の機会の確保** [「アール・ブリュットショウケース2021オンライン」、11/20～] [障害者のオンライン作品発表会「ダレカガナニカヲソクッテル」、3/1～8/31]

支援センター運営団体 社会福祉法人ゆうゆう

「ひとりの想いを文化にする」をビジョンに「福祉を福祉で完結しない」「ないものはつくる」という想いに立ち、地域のあらゆる人たちの暮らしを創造していくことをめざした福祉実践を展開している。

青森アール・ブリュットサポートセンター(AASC)

〒037-0017 青森県五所川原市漆川字鍋懸 147-2

TEL: 0173-26-1021 FAX: 0173-26-1021

E-mail: aasc@aorld.com URL: https://www.aasc.jp/



Pick Up! 支援者養成巡回プログラム



「第1回支援者養成巡回プログラム」でのワークショップ実施（平川会場）の様子

ねらい 創作支援に関するコンサルティングと講義・ワークショップを実施。支援者へのコンサルティングでは、専門家からアドバイスをもらうことで、福祉現場における人材育成につなげた。ワークショップでは、支援者にも

内容 長年、障害者の芸術文化活動を支援してきた「るんびにい美術館」アートディレクターの板垣崇志氏および青森アール・ブリュットサポートセンター職員が県内の事業所を巡回し、日中の利用者の様子を見てもらい、利用者の特質を掴んだうえで創作支援に関するコンサルティング、相談に応じる。当初、コンサルティングは県内

創作活動への理解を深めてもらった。本プログラムは地域の福祉事業所の職員に合わせた内容とし、そのノウハウが共有されるように公開セミナーとした。

3ヶ所の事業所を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け2ヶ所の事業所での実施となった。講義・ワークショップでは、コンサルティングの内容について理解を深めるとともに、実際の福祉現場でも手軽にできる創作活動に取り組むことで、身近なものでさまざまな表現ができることについて理解を深めた。

今年度の課題と目標

青森県内の障害者の芸術創作活動については、近年の展示会等の取り組みに興味を持つ人が増え、新たに希望する福祉事業所からの応募もあるなど、公募展への応募が増えた。しかし、福祉事業所においては人材不足や新型コロナウイルス感染症等の影響もあり、創作活動

今年度の成果と展望

相談件数や公募展への応募者数は前年度より増加しており、青森県内において障害者芸術文化活動への関心の高まりが感じられる。事業のねらいとしていた福祉事業所での人材育成については、より多くの人にコンサルティングの内容を伝えるべく、公開セミナーを予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、公募展

まで手が回らないという声も聞かれた。そこで今年度は、コンサルタントを招聘し、県内複数の事業所に対するコンサルティングを柱に、現場での人材育成に取り組んだ。また、公募展では全応募者に賞を引き続き設定するなど、創作意欲を引き出せるよう取り組みを継続した。

ともに中止となった。公募展については、中止を惜しむ声も多数聞かれたため、SNSを活用したオンライン展覧会として実施した。今後の展望としては、これまで未実施の地域で公募展を行い、より広い地域への障害者芸術の普及活動に取り組みたい。



「第2回支援者養成巡回プログラム」でのコンサルタント実施の様子（五所川原会場）



評価委員会の実施の様子

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●関係者のネットワークづくり [第1回協力委員会、7/29] [第2回協力委員会、3/11] ●人材育成 [第1回支援者養成巡回プログラム、8/25～8/26] [第2回支援者養成巡回プログラム、12/7～12/8] [セミナー(トークセッション)「アートって地域の堆肥なの?」、3/27～3/31] ●発表の機会の確保 [評価委員会、1/17] [美術展「始まりのはじまり展」、3/28～3/31] ●情報収集・発信 [ホームページ等のインターネットによる情報発信]

支援センター運営団体
社会福祉法人あーとど

2017(平成29)年度より障害者芸術文化活動普及支援事業を受託し、青森県五所川原市に設置された青森アール・ブリュットサポートセンターを拠点に、県内の障害者による創作活動の支援を行っている。主な事業内容として、相談支援、県内の作品を集めた展覧会の開催、創作や権利保護等に関するセミナーの開催等を行いながら、県内の芸術文化活動の活性化をめざした事業を実施している。

岩手県障がい者芸術活動支援センター かだあると

〒020-0114 岩手県盛岡市高松3-7-33

TEL: 019-656-7081 FAX: 019-681-2514

E-mail: kadarto@iwate-fukushi.or.jp URL: http://www.iwate-fukushi.or.jp/cgi-bin/art_list.cgi



Pick Up! 障がいのある人の創作活動支援ワークショップアドバイス



オンラインによる職員向け講習会

ねらい 例年、県内の福祉サービス事業所等から「創作活動の方法が分からない」「どのような画材を提供すればいいか」という相談が、研修会のアンケートや相談窓口に寄せられていたため、2020（令和2）年度から「指導者の派遣」が事業に盛り込まれた。講師が提案したメ

ニューの実践を通して、創作活動で使用する材料や道具の選び方、提供方法への気づき、事業所職員間の連携を培うことを期待する。このことにより、事業所の職員が自立的に創作活動を考案し、展開していくことをねらいとしている。

内容 県内の福祉サービス事業所等から一ヶ所を選定し、活動状況や利用者の様子について講師と共にヒアリングを行った。ヒアリング結果から講師が活動メニューを考案し、事業所の職員にレクチャーを実施した。レクチャー後は職員が主体となり活動メニューを事業所の利

用者に提供し、その様子をオンラインで講師が確認した。後日、振り返りとして、講師が実践に関するアドバイスを行った。事業所からは「創作活動の本当の楽しさを発見できた。今後も職員間で工夫し合い、継続して取り組んでいきたい」との感想があった。

今年度の課題と目標

県内の福祉サービス事業所等から挙げられた「創作・表現活動支援の具体的な情報が欲しい」「県内の他事業所での取り組みが知りたい」とのニーズを2021（令和3）年度の課題として設定。県内外で先進的な取り組みを行う団体等から招いた講師から創作・表現活動支援に関する情報や知識、技術等を紹介してもらうことで課題の解決をめざし、県内の事業所の活動が発展することを目

今年度の成果と展望

「講師を迎えての取組紹介」では、参加者それぞれの現場での課題点の解決や活動の発展に向けて受講することができ、アンケートでは「普段の支援についても振り返る機会となった」との回答が寄せられた。「ネットワークの形成を目的とした取組紹介」については、「他事業

標とした。

また、コロナ禍により対面での受講機会が減っているため、各事業所の取り組みを紹介してもらうことで参加者の発言機会を創出し、オンラインによる受講でも県内の事業所同士のネットワークの形成が促進されるように努めた。

所の活動を知ることができ、手を変え品を変え、自事業所へ反映したい」等の前向きな意見が多く聞かれた。講義の際に、短時間でも参加者からの発言機会を設けたことで、参加者が親近感を持って臨める研修の場をつくれたことも成果の一つである。



「障がいのある人の創作・表現活動支援に関する研修会～施設・事業所等管理者編～」実施の様子

「第29回岩手県障がい者文化芸術祭 応募作品展」会場

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●関係者のネットワークづくり [協力委員会、7/15] ●人材育成 [障がいのある人の創作・表現活動支援に関する研修会～福祉的支援からアート支援へ～、7/21] [障がいのある人の創作・表現活動支援に関する研修会～しる・つながる・ひろげる～、8/6] [創作活動に関する権利保護研修会、12/8] [障がいのある人の創作活動支援ワークショップアドバイス、1/21～3/18] [障がいのある人の創作・表現活動支援に関する研修会～施設・事業所等管理者編～、2/18] ●情報収集・発信 [作家及び作品（美術）や取組事例の調査、2/21～3/2] ●発表の機会の確保 [第29回岩手県障がい者文化芸術祭 応募作品展、11/11～11/28] [第29回岩手県障がい者文化芸術祭ふれあい音楽祭2021、11/22～1/31]

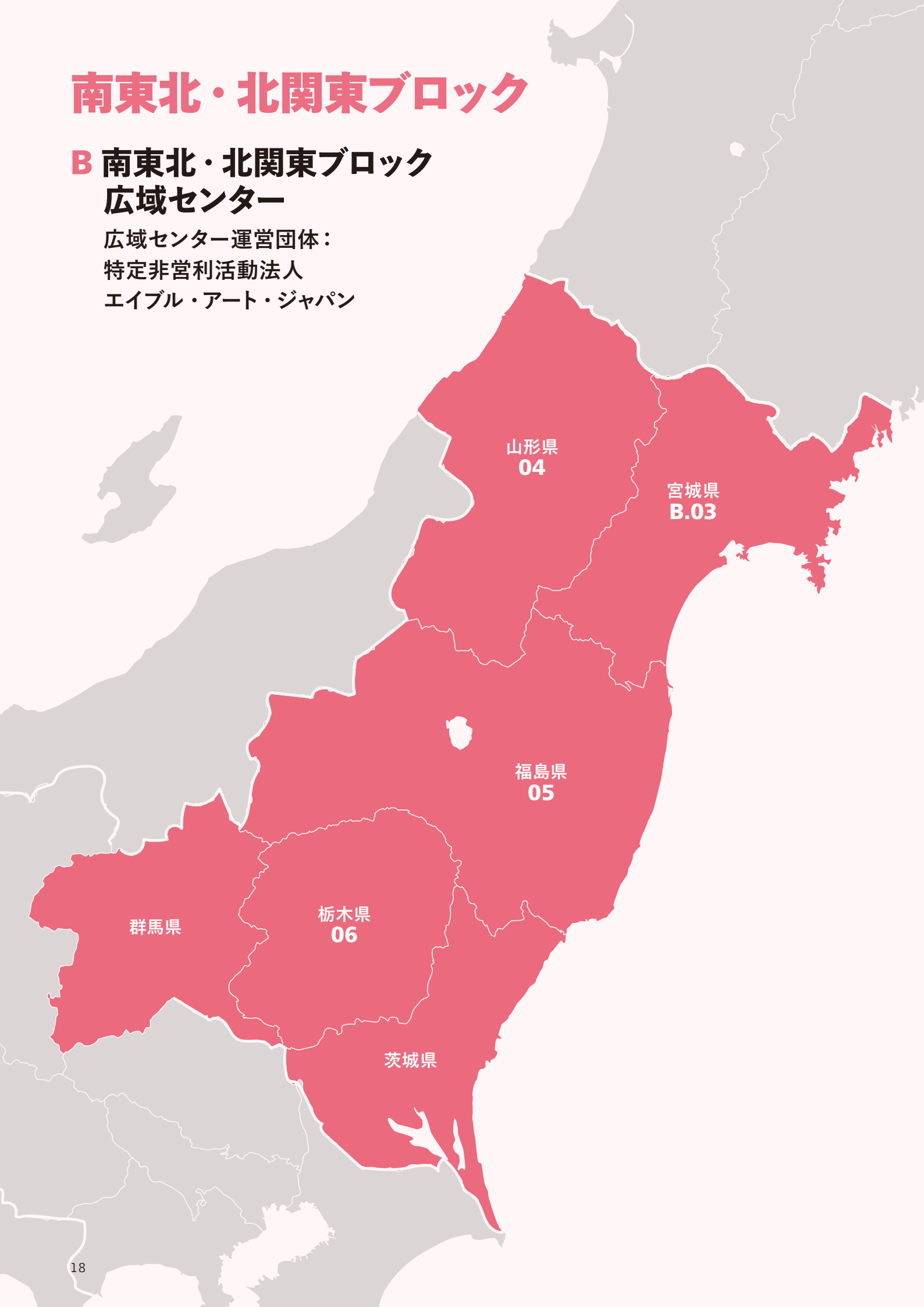
支援センター運営団体 岩手県社会福祉事業団

多様な福祉サービスが、その利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成され、またはその有する能力に応じ自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的に設立された。2018（平成30）年に、「岩手県障がい者芸術活動支援センターかだあると」を開設した。

南東北・北関東ブロック

B 南東北・北関東ブロック 広域センター

広域センター運営団体：
特定非営利活動法人
エイブル・アート・ジャパン



宮城県

担当課：保健福祉部障害福祉課地域生活支援班

03 障害者芸術活動支援センター@宮城（愛称：SOUP）

支援センター運営団体：特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン

山形県

担当課：健康福祉部障がい福祉課

04 やまがたアートサポートセンターら・ら・ら

支援センター運営団体：社会福祉法人愛泉会ぎやらりーら・ら・ら

福島県

担当課：保健福祉部障がい福祉課

05 はじまりの美術館

支援センター運営団体：社会福祉法人安積愛育園

茨城県

担当課：保健福祉部障害福祉課

栃木県

担当課：保健福祉部障害福祉課

06 とちぎアートサポートセンター TAM [タム]

支援センター運営団体：認定特定非営利活動法人もうひとつの美術館

群馬県

担当課：健康福祉部障害政策課社会参加推進係、地域創生部文化振興課文化企画係

ブロック内の状況

6県のうち、宮城県、山形県、福島県、栃木県に支援センターが設置されており、茨城県と群馬県は、本事業が未実施である。新たに設置された広域センターは宮城県にある。宮城県では、生涯学習領域とも連携し、活動を展開した。山形県では、4圏域で、事業者や市町村、地域の芸術文化の分野と連携し、展示機会や身体表現の取り組みを実施し、機運醸成をめざしている。福島県

では、県内外から参加がある研修を継続的に実施しているが、より県内事業所等とのネットワーク構築が望まれている。栃木県では、研修や参加型展覧会等の開催により、新たな参加者を増やしつつ人材育成に取り組んでいる。茨城県では、センター設置に向け準備室が立ち上がった。群馬県でも事業開始に向けた調査を開始している。

南東北・北関東ブロック広域センター

〒980-0804 宮城県仙台市青葉区大町2丁目3-22 第五菊水ビル3階
TEL: 070-5041-6043 FAX: 022-774-1576
E-mail: soup@ableart.org URL: https://soup.ableart.org/



Pick Up! シンポジウム「いばらきでいま 起きている」



第1回福祉とアートのシンポジウム「いばらきでいま 起きている」(登壇: 袋田病院、ユーアイファクトリー、自然生クラブ)

ねらい 未設置県に支援センターの芽(人材・実践知)を育て成長させていくためのヒントを、2014(平成26)～2016(平成28)年に宮城県で実施したモデル事業の経験に置き換えて試行した。支援センター的機能を仮に設置し、それを地域の人材で担い、エンパワメントしながら業

内容 茨城県では、障害と文化芸術の情報に精通する関係者から支援センターを担う人材の推薦があったため、広域センターとしてエンパワメントした。具体的には、茨城県の現状を分析し実施要綱に沿って実施計画書を作成してもらい、行政に提案・協議した。その結果、「いばらき障害者芸術文化活動支援センター準備室」が立ちあがった。その後、準備室コーディネーターの企画力と

務を順次ハンズオンしていく。支援センターを担う人物像を「地域で芸術文化と障害福祉の両方の視点から環境形成ができる人」とし、まずは人材を選定し、地域のニーズと支援センターの役割をマッチングさせ、活動が推進されることをめざした。

スキルにより、「地域で活動する個人・団体の調査(障害のある人/社会福祉施設/医療現場/民間アトリエ/文化施設等)」[関係者のネットワークづくりとして福祉とアートのオンライン交流会(参加者42人)]「支援センター本格始動に向けたシンポジウム『いばらきでいま 起きている』(参加者187人、オンライン視聴含む)」[ウェブサイトによる情報発信]が実施された。

今年度の課題と目標

各支援センターに、不足している視点・資源(人材・実践知・資金等)を認識し、情報交流や学びの機会を創出した。具体的には、①支援センターに対する支援: 連絡会議の開催。②未設置県の事業所等に対する支援: 茨城県と群馬県と協議し地域の人材/団体窓口の選定。③ブロック研修の開催: 連絡会議で明らかになった課題解決

今年度の成果と展望

広域センターが設置された初年度のため、支援センター間の情報交流に注力した。「なんでも相談会」と称した連絡会議は5回開催し、日々の活動で悩んでいる視点を自由に話せる雰囲気とした。ブロック研修は4回開催し、「相談支援とは何か」「事業評価ガイドの活かし方」「自治体と支援センターの幸福な協働とは」等で、未設置県

に資する研修の実施。④ブロック内連携の推進: 連絡会議や研修を通じた連携の促進。⑤発表機会の確保: 未設置県の作家/作品/支援環境等の共有。⑥自治体における基本計画策定の推進: 担当者向け研修の実施、⑦事業評価及び成果報告: アンケートにより参加者の満足度や事業達成度の測定・改善。の7点である。

の自治体職員や関係者にも参加していただき、支援センターの事業内容や支援スキルを共有した。さらに連携の推進、基本計画策定の推進にも努めた。アンケートでは、連絡会議や研修を通じて支援センター職員間の関係性が深まること、課題や知恵を分かち合うことで意欲や支援スキルの質の向上につながることを確認できた。



おどる童話《カタン・カタン》「インテグレイテッド・ダンス・カンパニー響-Kyo 公演」より。舞台公演と鑑賞事業を実施し、支援センタースタッフが参加
撮影: 小田島万里



六本木アートナイト関連企画インクルーシブ・プログラム「アートナイトTALK ～鑑賞のいろいろ～」。オンラインによる鑑賞会を実施し、支援センターのスタッフや、今後、協働が期待できる関係者が参加・体験

実施一覧

●各支援センターに対する支援 [連絡会議+なんでも相談会(オンライン)、8/2～3/22(合計5回)] [ブロック研修(オンライン)、9/6～2/26(合計4回)] [〈六本木アートナイト関連企画〉インクルーシブ・アートプログラム連携(オンライン)、3/19～3/21(合計4回)] ●芸術文化活動に関するブロック研修 [インテグレイテッド・ダンス・カンパニー「響～Kyo 公演」の招聘、鑑賞事業、12/2] ●センター未設置都道府県の事業所等への支援 [福祉とアートのオンライン交流会(オンライン)、12/10] [シンポジウム「いばらきでいま 起きている」、2/26]

支援センター運営団体

特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン
アートを通じてすべての人が幸せに生きることのできる社会の実現をめざして、1994(平成6)年に誕生した。2014(平成26)年から「まぜると世界が変わる」をコンセプトに、障害者芸術活動支援センター@宮城(SOUP)を、2021(令和3)年から南東北・北関東広域支援センターを運営している。

障害者芸術活動支援センター@宮城（愛称：SOUP）

〒980-0804 宮城県仙台市青葉区大町2丁目3-22 第五菊水ビル3階

TEL：070-5041-6043 FAX：022-774-1576

E-mail：soup@ableart.org URL：https://soup.ableart.org/



Pick Up! 芸術文化活動の裾野をひろげよう。
生涯学習領域との協働



SOUPの研修「ひろがる世界・ひろがる私〈美術館〉に行こう!」(2021/11/11、塩竈市杉村惇美術館)

ねらい 宮城県では、文化芸術活動は才能ある人の高尚な活動というイメージがまだ強い。「第3期宮城県文化芸術振興ビジョン」に示された視点「芸術文化は人が人らしく生きるための糧」「文化芸術が生み出すコミュニケーションは人々が協働し、共生する地域社会の基盤」「文化芸術の地域経済の発展に寄与する可能性」等を意識し、文化芸術活動に参画していない障害者や支援者、福祉事

内容 研修では、支援領域の拡大を意識し「重度の障害のある人と芸術文化活動」「芸術文化活動を〈生涯学習〉の視点からとらえてみよう」「ひろがる世界・ひろがる私〈美術館〉に行こう!」「ダンス・カンパニーの公演を観よう」等に取り組んだ。オープンアトリエ&スタジオで

業者等にアプローチすることを意識した。支援センター業務の検証、スタッフや関係者の学習およびスキルアップ、作品の二次利用のマネジメント、障害の有無にかかわらず参加できるオープンアトリエ&スタジオ運営を行った。さらに障害者の生涯学習の実践研究にも取り組み、多領域から障害のある人や支援者にアプローチし、芸術文化の概念の拡大と参画者の裾野の拡大をねらった。

は、在宅や企業就労している精神障害や発達障害のある人が多く参加した。また生涯学習事業では「祭りをつくり、愉しむ〜仙台七夕まつり」等の地域の生活文化に関する取り組みも実施し、フォーラムは、参加者49人／オンライン視聴65人／アーカイブ視聴703回となった。

今年度の課題と目標

今年度は、以下を行った。①相談支援：体制を強化し充実をはかる。②人材育成：過去2年間のアンケートでニーズの高かったテーマに取り組み、宮城県内で活性化していない演劇・舞踏に関する領域を取り上げる。③関係者のネットワークづくり：活動が個々になりがちな地域にアウトリーチし人や情報をつなぐ。④発表機会の確保：

「第4回障害と芸術文化の大見本市」を会場開催し、生涯学習のフォーラムは配信も実施する。⑤情報収集・発信：ウェブサイトおよびSNSの更新を強化。これらを通じて、より多くの障害のある人への芸術文化活動の裾野拡大と支援領域の多様化をめざし、官民および福祉・文化・教育の分野が連携することを目標とした。

今年度の成果と展望

①相談支援：110個人／団体、415件（前年度比182%）、うち創造98件、権利保護115件、新たな活動への支援と活躍のサイクルをつくる支援を実施した。②人材育成：実践型研修は計4回68人、ダンス公演は計2回194人、新たに活動に参加した福祉事業所は9ヶ所。③関係者のネットワークづくり：研修は2事業開催し、アウトリーチ、

かつ鑑賞活動により新たな事業所の参画に結びついた。④令和3年度宮城県障害者芸術文化活動支援業務・協力委員会の開催：宮城県と仙台市の官民の福祉・文化・教育分野が参加し見本市の内容と広報活動が充実した。⑤情報収集・発信：ウェブサイトへの投稿数は42件（前年度比131%、SNSへの投稿数は130件）と充実した。



「第4回障害のある人と芸術文化活動に関する大見本市」ギャラリートツアー(2022/2/5、せんだいメディアテーク) 撮影：磯崎未菜

「第4回障害のある人と芸術文化活動に関する大見本市」会場(2022/2/4-8、せんだいメディアテーク) 撮影：三浦晴子

実施一覧

●相談支援 [相談支援、4/1～3/31(合計415)] ●人材育成 [SOUPの研修2021、7/21～11/11(合計5回)] [SOUPの研修2021「鑑賞(舞台)」、12/2(合計2回)] ●関係者のネットワークづくり [アートを仕事にするネットワーク構築事業(共催)、11/4～3/9(合計3回)] [宮城県障害者芸術文化活動支援業務協力委員会、11/15] ●発表の機会の確保 [第4回障害と芸術文化の大見本市「きいて、みて、しって、見本市。」、2/4～2/8] [アートとしごとラボ、3/4～3/9(合計3回)] [展覧会への出展サポート業務(計4回)] [2次利用のサポート業務(計7回)] ●情報収集・発信 [ウェブサイト・SNS等による情報発信]

支援センター運営団体

特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン

アートを通じてすべての人が幸せに生きることのできる社会の実現をめざして1994年に誕生した。2014(平成26)年から「まぜると世界が変わる」をコンセプトに、障害者芸術活動支援センター@宮城(SOUP)を、2021(令和3)年から南東北・北関東広域支援センターを運営している。

やまがたアートサポートセンターら・ら・ら

〒990-0033 山形県山形市諏訪町1-2-7

TEL：023-674-8628 FAX：023-664-2118

E-mail：g.lalala@y-aisenkai.or.jp URL：https://www.y-aisenkai.com/info/lalala/



Pick Up! からだをまなざすダンスワークショップ



現地ファシリテーターや福祉事業所のメンバーとスタッフがペアになり踊る様子 動画撮影：齋藤達也

ねらい 身体を使って表現することが長けている方もたくさんいるため、ワークショップと人材育成プログラムを行うことで、既存の振りを覚えるダンスではなく個々の身体性と関係性を大切に、表現の可能性をさらに広げた。

内容 メインファシリテーターの砂連尾理氏（振付家・ダンサー）はオンライン参加、現地ファシリテーターの各地域のダンス関係者と受入団体は、対面でワークショップを実施した。現地ファシリテーターと受入団体の支援スタッフが事前に実践経験を積むことを丁寧に行い、その過程

各地域のダンス関係者を現地ファシリテーターとして福祉事業所や支援学校に派遣し、ワークショップを一緒に運営してもらうことで県内の人材育成にもつなげた。

を人材育成に活かした。ワークショップでは、障がいのある人と支援スタッフがペアになり、支援する／されるだけではなく新しい関係性を感じさせる関わり合いが生み出された。また、映像作家が現場を映像で記録し、県内3地域の展覧会で上映し発表機会をつくった。

今年度の課題と目標

課題としては、障がいのある人が表現活動を行える場や専門的な人材不足、芸術文化を楽しむための支援不足、文化的な生活を送るための選択肢が少ないことや、支援センターの事業が進むにつれ取り組みの地域格差が生まれていることが挙げられる。また、県内各地で障がいのある人の芸術文化活動の発表の機会は増えたが、

絵画等の展覧会に偏っている傾向がある。目標は、県内各地域の活動に寄り添い、福祉と芸術文化の分野をつなぎ、さまざまな人材と連携しながら、県内各地域でのエンパワメント力向上、県内の実態調査、表現の発信の可能性をさらに広げるための取り組み（身体表現や作品の二次使用等）をめざす。

今年度の成果と展望

県内公募展や県内3地域の行政と連携した共催展に合わせて行う相談会や作品展示の実践型研修を、現地の専門家と共に3年間継続して実施した結果、個人の表現が際立つ作品が増え、支援者の丁寧な寄り添いがみられるようになった。アンケート調査の情報を活かし事業を組み立て、今後も人材育成に力を入れ、各地で活動



実施一覧

●**発表の機会の確保** [美術展「青でつながる・みりょく発見」展、4/2～4/25] [企画展「うずまきひかり・さんさんさん」、5/17～6/30] [作品展「わくわく・ひょうげんの泉」、7/12～8/31] [美術展「みえるものの向こう側」、8/27～11/21] [アート展「サカタアートマルシェいろいろ展」、9/18～9/26] [美術展「つるおかひょうげんの花」※YouTube配信、10/1～10/13] [ダンスワークショップ動画上映、10/1～2/24（合計4回）] [公募展「やまがたでつながる ボーダレスアート2021」※後日YouTube配信、11/5～11/17] [個展「じゃじゃーん!!!! てっちんの世界」、11/27～12/24] [巡回展「やまがたのきざしとまなざし2020@山形県立図書館」、12/1～12/26] [公募展「ArtDigるべ」、1/5～2/27] [わたしとあなたの表現展、1/9～1/16] [巡回展「やまがたのきざしとまなざし2021@寒川江市」、2/7～2/28] [やまぎん県民ホール 特別展「きざしとまなざし」、3/19～3/27] [交流事業「みやぎ・やまがたニューカマー」展、3/22～3/31] ●**人材育成** [研修・相談会、6/11・8/18] [研修会（オンライン）「アートが福祉を参照するために」、8/12] [からだをまなざすダンスワークショップ@鶴岡、9/22・@山形、12/2～12/3・@米沢、12/15～12/16] [研修「展示してみよう@鶴岡」、9/29] [オンライン展覧会@鶴岡、10/2～10/13] [フォーラム「一緒に見つけて考える一人ひとりの可能性」講師：ライラ・カセム、10/15] [展覧会関連企画「ワークショップダンスのきざし／

が立ち上がることをめざす。また、デザインや工業など異分野との連携や先進事例を持つ講師と共に地域の人材育成に取り組む仕組みをつくった。今後も活動を通して生まれた関係性やネットワークを活かし、実践の機会を増やしていく。



山形県公募展審査員による予約制の個別表彰と相談会

酒田市展覧会に向けて
展示方法を考える作品持ち寄り相談会

からだでかんじる」、11/6] [展覧会企画「わたしとあなたのアトリエ、12/4] [展覧会研修「表現のきざしをまなざす／作品持ち寄り相談会、12/7「表現のきざしをまなざす／展示してみよう、1/7] ●**情報収集・発信** [訪問調査・発表、8/1～12/20] [障がい者芸術文化活動状況アンケート実施（オンライン）、9/15～2/28] ●**関係者のネットワークづくり** [工業・福祉・デザイン連携事業「オンラインミーティングVol.2、3」、8/25・3/17] [ネットワーク会議（オンライン）、3/14] ●**相談支援** [おめでとう&相談day、11/5～11/13（合計5回）] ●**事業評価及び成果報告のとりまとめ** [報告書作成、12/1～3/31] [アドバイザーからの事業評価、3/23]

支援センター運営団体

社会福祉法人愛泉会 ぎやらりーら・ら・ら

障がいのある方が地域で共に生きる社会の実現に向けて事業を展開。2011（平成23）年に障がいのある方の作品を発信する場「ぎやらりーら・ら・ら」開設、2016（平成28）年から「やまがた障がい者芸術活動推進センター」、2020（令和2）年から「やまがたアートサポートセンターら・ら・ら」設置。新たな価値創造の発信を続け互いを尊重し理解し合える包容力のある地域社会創造をめざす。

はじまりの美術館

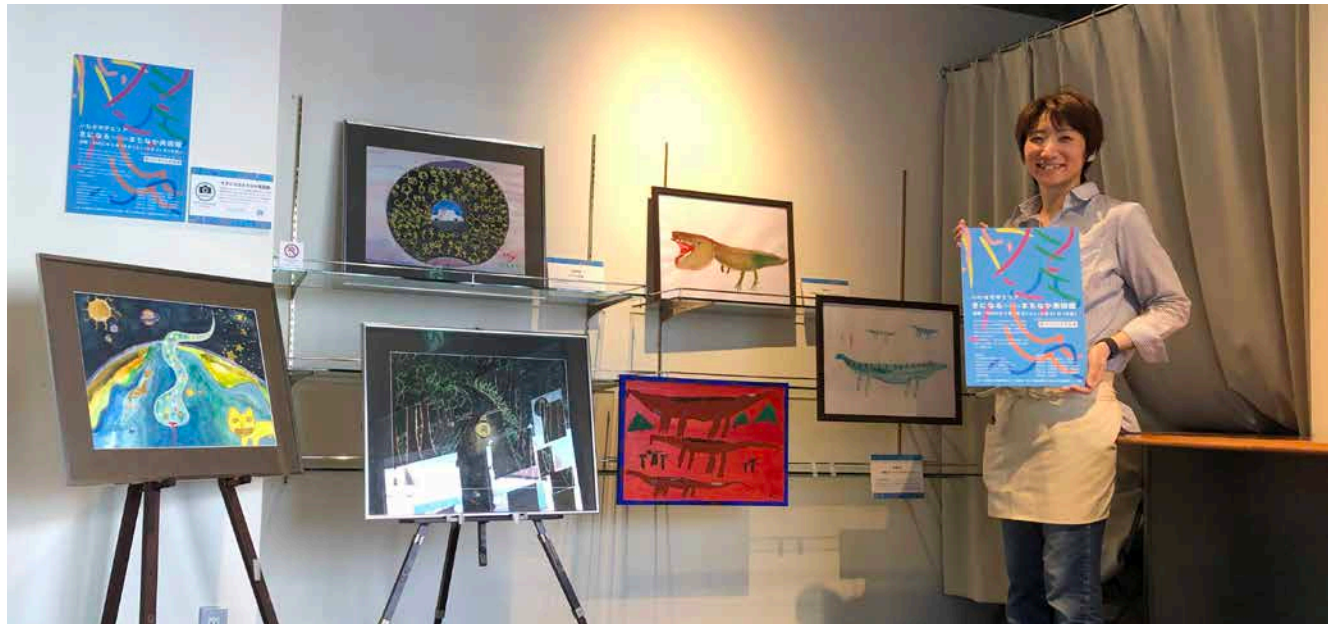
〒969-3122 福島県耶麻郡猪苗代町新町4873

TEL：0242-62-3454 FAX：0242-23-8185

E-mail：otoiawase@hajimari-ac.com URL：https://hajimari-ac.com/consultation/



Pick Up! ① cento-シエント-福祉と表現にまつわる研修会 ②きになる⇄まちなか美術館



「まちなか美術館」展示風景

オンライン（Zoom）にて講師と参加者が
交流を行った研究会「cento-シエント-」

ねらい ねらい①支援センターの運営母体である社会福祉法人安積愛育園のもつ県内外のネットワークを活かし、他分野に関する知識等を深めるよう、芸術文化活動の支

援方法、著作権等の権利保護、障がい特性への理解等に関する研修を行った。②地域における障がいのある表現者の活躍の場を広げた。

内容 ①全3回のオンライン研修会として実施し、全国の現場で先進的かつ丁寧に活動を行う方々に講師を依頼した。初回は板垣崇志氏（しゃかいのくすり研究所、るんびにい美術館アートディレクター）を招き、障がいのある人との表現を支援する姿勢やまなざしを伺った。その後、高野賢二氏・朝比奈益代氏（クラフト工房 LaMano）、宮本恵美氏・渡邊早葉氏（工房集）を招き、寄り添い方や魅力の引き出し方、地域でのつながり方や広がり方、製品化について

学ぶ場を設けた。福島県内外から各回40名前後の参加があった。②福島県より委託される公募展「きになる⇄ひょうげん2021／福島県障がい者芸術作品展」とも連動して実施した。いわき市の平エリアから参加した8ヶ所の店舗等に「きになる⇄ひょうげん2021」から気になる作品を選んでいただき、各店舗等に22作家33作品が展示された。

今年度の課題と目標

昨年度に引き続き「さまざまな立場の人たちが、障がいのある人の表現活動への理解を深め、サポートできるようになること」を成果目標に掲げ、優先的に取り組んだ。特に、「関わりが及ぼす相互作用」や「ものごとの捉え方」について考えを深めることを意識した。「障害のある人の表現を捉える視点をもつための連続講座」では、昨

年の参加者からのアンケートをもとに課題を抽出しゲストを選定した。また、参加者の募集にあたっては県内の参加者をより増やすことを目標に、定員の増加と発信を行った。コロナ禍も2年目となり、様々な配信方法・参加方法を使い分けながらリアルとオンラインでのつながりやバランスを考慮し事業を実施した。

今年度の成果と展望

障害のある人の表現を考えるための連続講座「cento-シエント-福祉と表現にまつわる研修会」では、県内向けにはWEBサイト、SNS等の告知に加えて、福島県から研修会の情報としてメールでの広報を実施した。その結果、県内と県外の参加者がほぼ半数ずつとなり、おおよそ狙い通りの参加者層となった。研修会のなかでは、本

編終了後に希望者向けに交流タイムを設け、講師へのより具体的な相談や、参加者同士の意見交換を実施した。交流タイムでは参加者同士の学び合いの場が生まれており、今後の展望として、事業として交流タイムの部分をより深めていくというかたちも意義があるのではないかと考えられた。



全盲の白鳥建二さんとの鑑賞体験を追ったドキュメンタリー映画の上映とトーク

全盲の美術鑑賞者・白鳥建二さんと
作品を鑑賞するワークショップ風景

実施一覧

●相談支援 [障がいのある人の表現活動に関する相談業務、4/1～3/31（合計52回）] ●情報収集・発信 [ホームページ、SNS等での情報発信、4/1～3/31] ●関係者のネットワークづくり [全国の先駆事業所やアトリエ等訪問、4/10～10/26（合計5回）] ●発表の機会の確保 [企画美術展「(た)よりあい、(た)よりあう」、4/17～7/11] [美術展「きになる⇄まちなか美術館 @いわき市平エリア」、2/19～3/21] ●人材育成 [映画《白い鳥》上映会+トークイベント、7/10] [美術館企画展関連オンライントークイベント、9/25] [cento-シエント～福祉と表現にまつわる研修会（オンライン）、1/20～3/17（合計3回）] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [実施報告書の作成、2/1～3/31]

支援センター運営団体

社会福祉法人安積愛育園

各ライフステージに応じた「一人ひとりが望む生活と自己実現に向けた支援」を基本理念とし、また、社会的役割に「安心して暮らせる街づくり」を掲げる。各事業所・各職域が連携を図り、利用される皆さま一人ひとりを中心としたサービスを提供し、この機能が地域の中で関係機関等と有機的なネットワークを構築していくことで皆さまの自己実現につなげていくものとする。

とちぎアートサポートセンター TAM [タム]

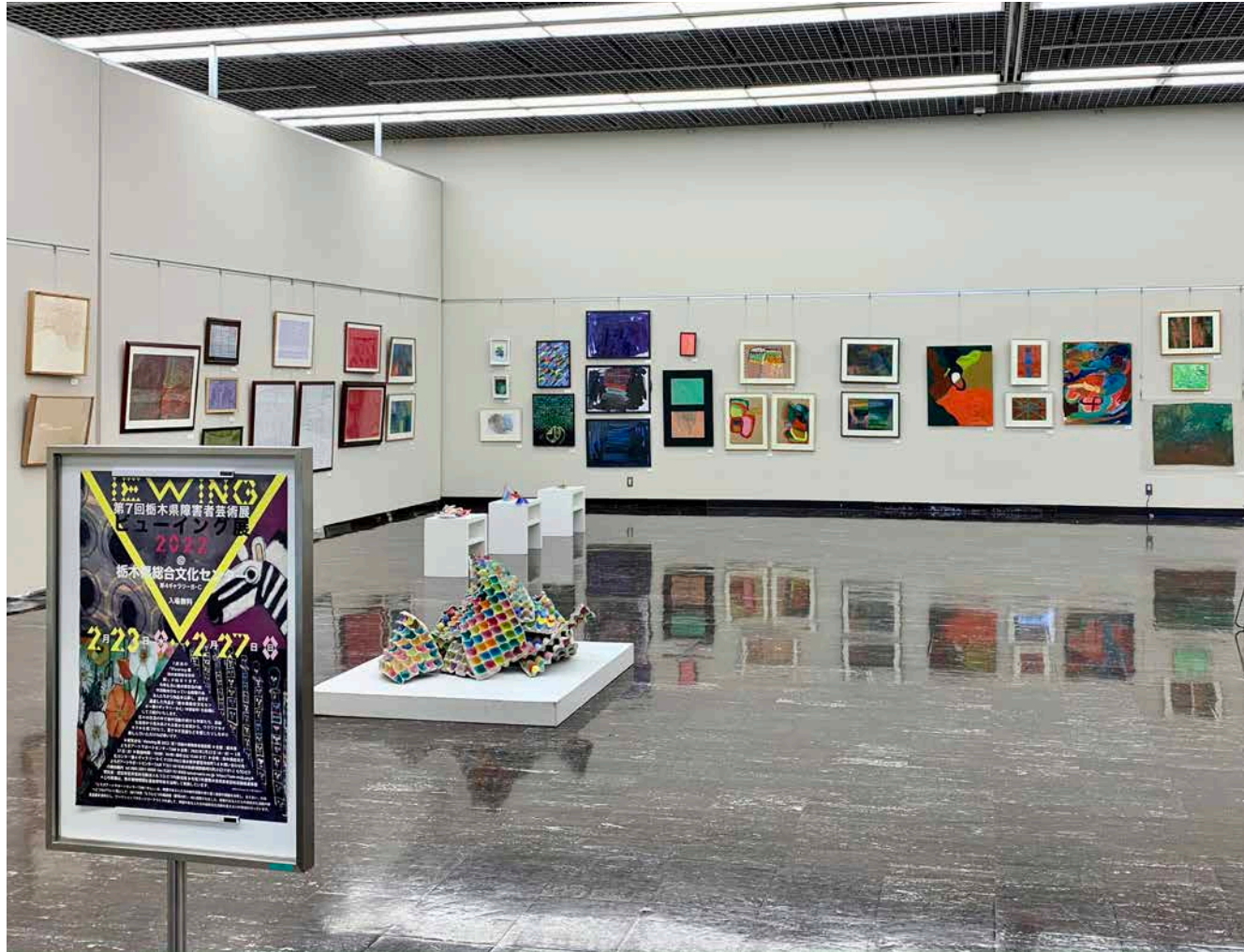
〒324-0618 栃木県那須郡那珂川町小口1181-2

TEL: 080-3001-8088 FAX: 0287-92-8088

E-mail: tam@nactv.ne.jp URL: https://tam-mob.org/



Pick Up! 参加型展覧会「Viewing展2022」



「Viewing展2022 @栃木県総合文化センター」展示風景

ねらい 主に栃木県内から障害のある人の作品を広く公募し、選考を通った作品を展示することで、発表の場を創造した。また、福祉事業所の支援者や関心のある人などには展覧会の開催プロセスにも参加してもらい、創作の現場以外での支援（作品の額装やレイアウト、設営等）を

実際に体験してもらった。体験を通して発表する場のつくり方を体得し、技術の向上を目標とした。さらに、参加者には学んだことを各自の事業所や活動にフィードバックしてもらい、各地での発表の機会創出に役立ててもらった。

内容 「Viewing展」は、企画・運営・設営など、半年間をかけ発表の場をつくる一連の流れを体験できる参加型の展覧会として実施した。月1回のTAM会議では展覧会までの準備やスケジュール等の確認を行い、6名の選考委員によって選ばれた253点の作品をどのように展示し

ていくのかを体験した。会場での実践研修では、事前にテーマごとに分けた作品を会場に並べた。その際、参加者同士で何度も意見を交わし位置を変えるなど、参加者が主体となり配置を決めた。

今年度の課題と目標

創作の時間や人との接触や移動が制限されるコロナ禍においても、終息後を見据え、創作活動を支援していくために、支援者たちのスキルアップと支援者同士のつながり、そして発表の場の継続が求められている。そこで、先駆的に活動している人から話を聞いたり、創作活動に

つながる著作権について学んだりするなど、個々の意識の向上を図った。また、参加型展覧会「Viewing展」の開催を通して、作品をどのように発表していくのかを学び、同時に支援者同士のつながりであるネットワークの構築の強化をめざした。

今年度の成果と展望

研修や会議は、昨年度より継続してオンラインを併用したことで、会場まで来るのが難しい人も参加でき、さまざまな意見を聞くことができた。参加者同士での意見交換も盛んに行われ、孤軍奮闘する支援者たちにとっては施設での活動へのモチベーションの向上にもつながっている。「Viewing展」では応募総数340点、応募者数209

人と前年度よりも増え、展覧会の存在が浸透してきたように思われる。参加型展覧会のあり方やその周知の仕方について新たな課題も出てきているが、さまざまな参加者がつながりを広めながら、より活発に創作活動の支援ができるようにしていきたい。



「Viewing展」の設営風景



レイアウト会議の風景

実施一覧

●相談支援 [相談支援の窓口開設、4/1～3/31 (合計21回)] ●情報収集・発信 [公募展への作品募集、寄せられた展覧会等の情報発信、4/1～3/31 (合計4回)] ●人材育成 [先駆的に活動している施設関係者による講話、7/16] [著作権に関する講話、12/16] ●関係者のネットワークづくり [TAM会議、9/16～3/17 (合計6回)] ●発表の機会の確保 [第7回栃木県障害者芸術展「Viewing展2022 @栃木県総合文化センター」、2/23～2/27] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [実施報告書の作成、3/12～3/31]

支援センター運営団体

認定特定非営利活動法人もうひとつの美術館

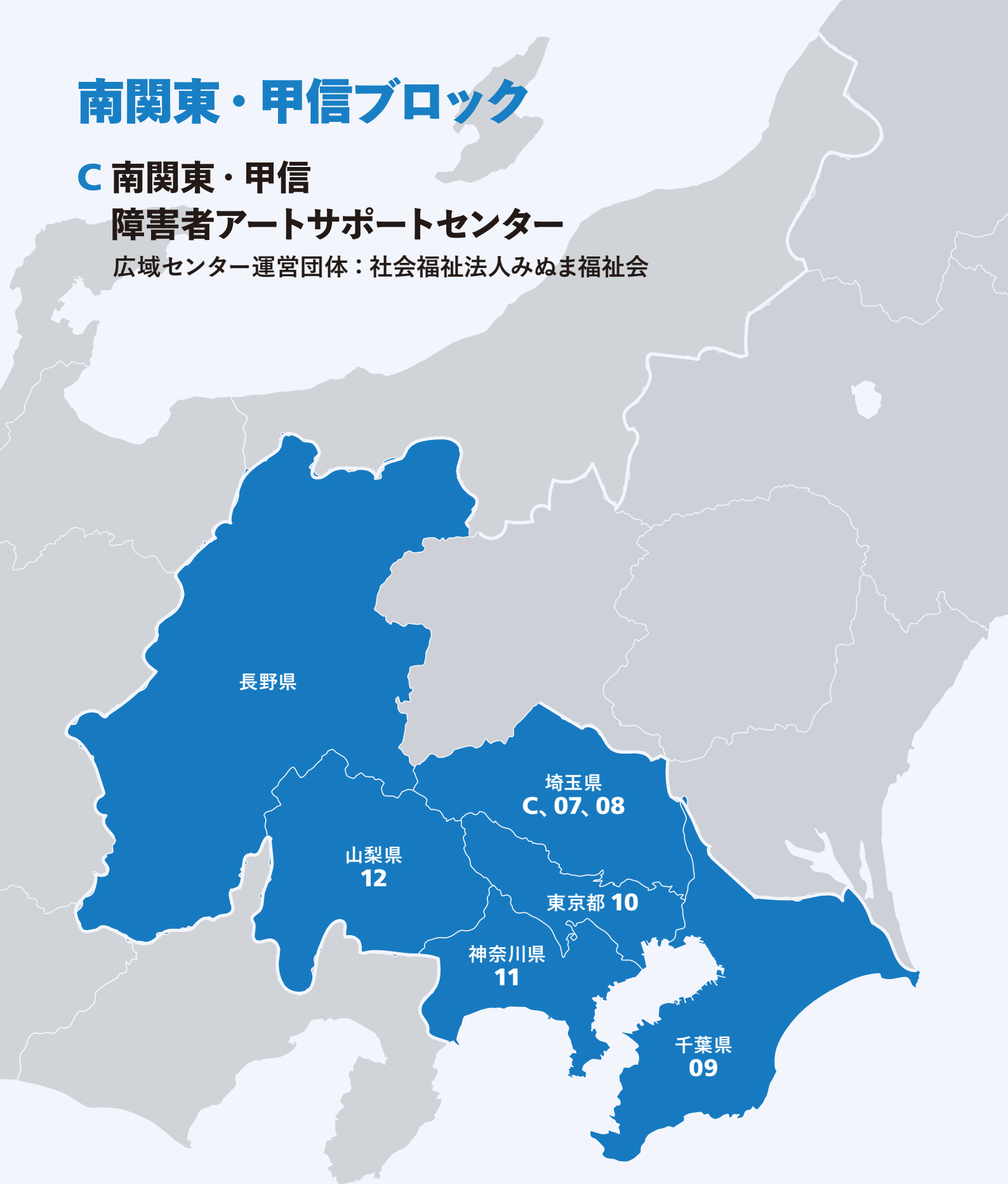
障がいの有無や年齢、性別、国籍、専門家であるなしにかかわらず、既成の枠にとらわれない自由な発想から生み出された作品を展示紹介する「もうひとつの美術館」を運営している。木造の廃校舎を再活用し、年に2～3回の展覧会を開催している。また、併設のミュージアムショップでは、全国の福祉事業所でつくられるグッズも紹介、販売している。

南関東・甲信ブロック

C 南関東・甲信

障害者アートサポートセンター

広域センター運営団体：社会福祉法人みぬま福社会



埼玉県

担当課：福祉部障害者福祉推進課社会参加推進・芸術文化担当

07 埼玉県障害者芸術文化活動支援センター アートセンター集 (基幹型)

支援センター運営団体：社会福祉法人みぬま福社会

08 ART (S) さいほく (特色型)

支援センター運営団体：社会福祉法人昂

千葉県

担当課：健康福祉部障害者福祉推進課

09 千葉アール・ブリュットセンター うみのもり

支援センター運営団体：株式会社いろだま

東京都

担当課：福祉保健局障害者施策推進部計画課社会参加推進担当

10 東京アール・ブリュットサポートセンター Rights (ライツ)

支援センター運営団体：社会福祉法人 愛成会

神奈川県

担当課：福祉子どもみらい局福祉部障害福祉課社会参加推進グループ

11 神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター

支援センター運営団体：認定 NPO 法人 ST スポット横浜

山梨県

担当課：福祉保健部障害福祉課

12 YAN 山梨アール・ブリュットネットワークセンター

支援センター運営団体：社会福祉法人八ヶ岳名水会

長野県

担当課：健康福祉部 障がい者支援課

ブロック内の状況

1都5県のうち、実施団体に変更となった千葉県を含め、埼玉県、東京都、神奈川県、山梨県に支援センターが設置されており、長野県は本事業が未実施である。広域センターは今年度から、新たな団体に引き継がれた。埼玉県では、2つの支援センターが基幹型と特色型で連携しながら、面的展開を図っている。千葉県は、これまでセンター運営経験のある団体と連携しながらセンターを立

ち上げた。東京都は、取り組みの少ない多摩地域の活動にも注力した。神奈川県は、文化団体とのつながりをもとにした地域間連携の強化が課題である。山梨県は、状況調査や研修等を通して、関係団体との連携を深めた。長野県は、人的ネットワークが豊富であり事業開始に向け調整中である。

南関東・甲信障害者アートサポートセンター

〒333-0831 埼玉県川口市木曽呂1445 社会福祉法人みぬま福祉会 工房集内
TEL: 048-290-7355 FAX: 048-290-7356
E-mail: artcenter@kobo-syu.com URL: https://skk-support.com/



Pick Up! 相談支援の課題に対するアプローチとして合同企画展を開催



南関東・甲信ブロック合同企画展「ドキュメントとしての表現」会場風景 撮影：武藤奈緒美

ねらい 各支援センターの相談窓口寄せられる「作品を見てほしい」「発表の機会がない」といった作家や家族からの相談の増加は共通の課題である。本合同企画展はそのような相談者の発表の機会を創出するために、ブロック内の各支援センター、長野県、信州ザワメキ

内容 当ブロック内での本事業のさらなる普及に向けて合同企画展「ドキュメントとしての表現」を開催した。本展には、県域を超えた9名の作家による絵画、漫画、小説、人形など約250点の幅広いジャンルの作品が出品され、芸術文化活動の多様さを紹介する契機となった。展覧会による発表機会の創出、社会参加や自己肯定感

アート展2021実行委員会との協働により開催した。会議内でのコンセプトワークにより課題意識を高め、進捗の共有と協働での運営により連携を強化し、さらに作家との調整も各支援センターが担うことで、相談支援に対する意識の向上や支援の在り方の再考をめざした。

の向上だけでなく、展示をつくる過程での各支援センターの担当者と孤立しやすい状況の作家や家族との連絡の取り合いは、つながりの再認識にもなった。関連イベントとしてアーティストトーク（キュレーターとの対話形式）、ゲストを迎えたクロストークを開催し、展示風景とクロストークの様子は動画配信をした。

今年度の課題と目標

今年度は各センター個別の課題を共有しながら、支援センターの支援力向上に向けて、それぞれが主体的に参加し、学び合い、相互フォローできる関係を構築することが必要であると考えた。具体的には、主に「実施団体の専門分野以外の強化」に向けた研修会・意見交

換会の開催と、「ネットワークと連携の強化」を目標にして事業に取り組んだ。また連携の強化だけでなく、相談支援の課題に対するアプローチの一環として合同企画展を開催することで、活動意義の再認識と共有にもつなげた。

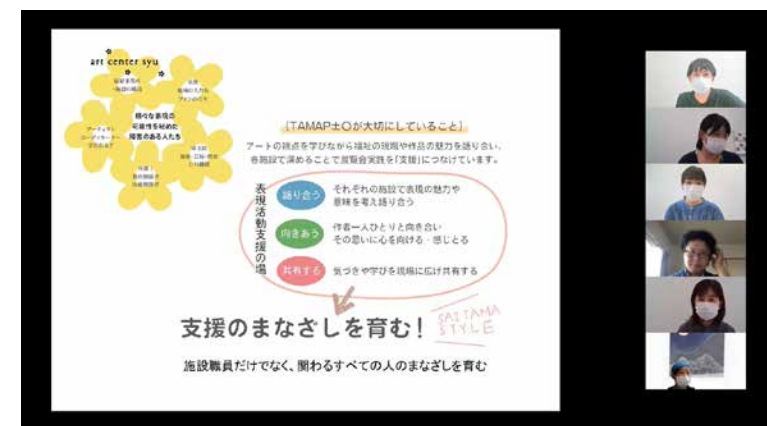
今年度の成果と展望

ブロック会議（7回）、会議内での事例報告会（4回）、研修会（3回）等を通じた意見交換会に加え、協働による合同企画展の開催は、相互フォロー関係強化の礎となった。また合同企画展の開催により、当事者の社会参加促進のみならず、本事業の活動意義の発信と認知度向上の

一助となる。さらに支援センターが未設置の長野県では、2022（令和4）年度にセンター設置が決まった。こうした成果を踏まえ、今後も「障害のある人のため」という想いと活動意義を共有しながら、ブロック内での連携と相互フォロー体制を強化し活動を深めていく。



合同企画展でのクロストークの様子 撮影：武藤奈緒美
左：中津川浩章氏（美術家・アートディレクター）
右：都築響一氏（編集者）



オンラインでの「第2回ブロック会議」の様子

実施一覧

●各支援センターに対する支援 [事例報告・意見交換会（オンライン）「ネットワークと人材育成の意義」報告：中村亮子、9/17] [事例報告・意見交換会（オンライン）「相談対応方法とデータベース化」報告：玉村明日香、「相談事業に関する事例報告」報告：瀧澤聰、新田千枝、ともに10/12] [事例報告・意見交換会（オンライン）「アクセシビリティを念頭に置いたオンラインシアター」報告：兵藤茉衣、「児童養護施設の子どもたちとの美術館での鑑賞会」報告：こまちだたまお、「ダンスや音楽のオンラインワークショップ」報告：田中真実、川村美紗、「劇場のアクセシビリティ」報告：岸本匡史、以上11/15] [事業内容のヒアリング（オンライン）、合計5回] ●芸術文化活動に関するブロック研修 [研修（オンライン）「相談事業のスキルアップ」講師：梅田耕、10/12] [研修（オンライン）「鑑賞支援を考える」講師：藤原顕太、11/15] [研修（オンライン）「地域・企業との連携」講師：中尾文香、12/14] [研修（オンライン）「広報活動を学ぶ」講師：野際里枝、2/16] [研修（オンライン）「文化事業における評価について」講師：長津結一郎、3/14] ●発表の機会の確保 [南関東・甲信ブロック合同企画展

「ドキュメントとしての表現」、1/12～1/16] [南関東・甲信ブロック合同企画展アーティストトーク、1/15] [合同企画展クロストーク（都築響一、中津川浩章）※後日、YouTubeで配信、1/15] ●ブロック内の連携の推進 [ブロック会議の開催、合同企画展での協働（オンライン）、合計7回] [広報活動での連携] ●センター未設置都道府県の事業所等への支援 [会議参加と合同企画展での協働] ●自治体における基本計画策定の推進 [事例報告・意見交換会（オンライン）、合計3回] ●その他 [情報収集・発信] [第三者による対話型評価] [事業報告書の作成]

支援センター運営団体 社会福祉法人みぬま福祉会

1984（昭和59）年、重い障害を理由に卒業後の進路がない人たちのために「どんな障害がある人でも受け入れる」を理念に発足。「困難や例外的な状況にある人を切り捨てない」ことを大切に、さまざまな困難を抱えた人を受け入れている。現在は通所・入所・相談支援事業等22の事業を展開し、利用者は300人を超えている。

埼玉県障害者芸術文化活動支援センター アートセンター集（基幹型）

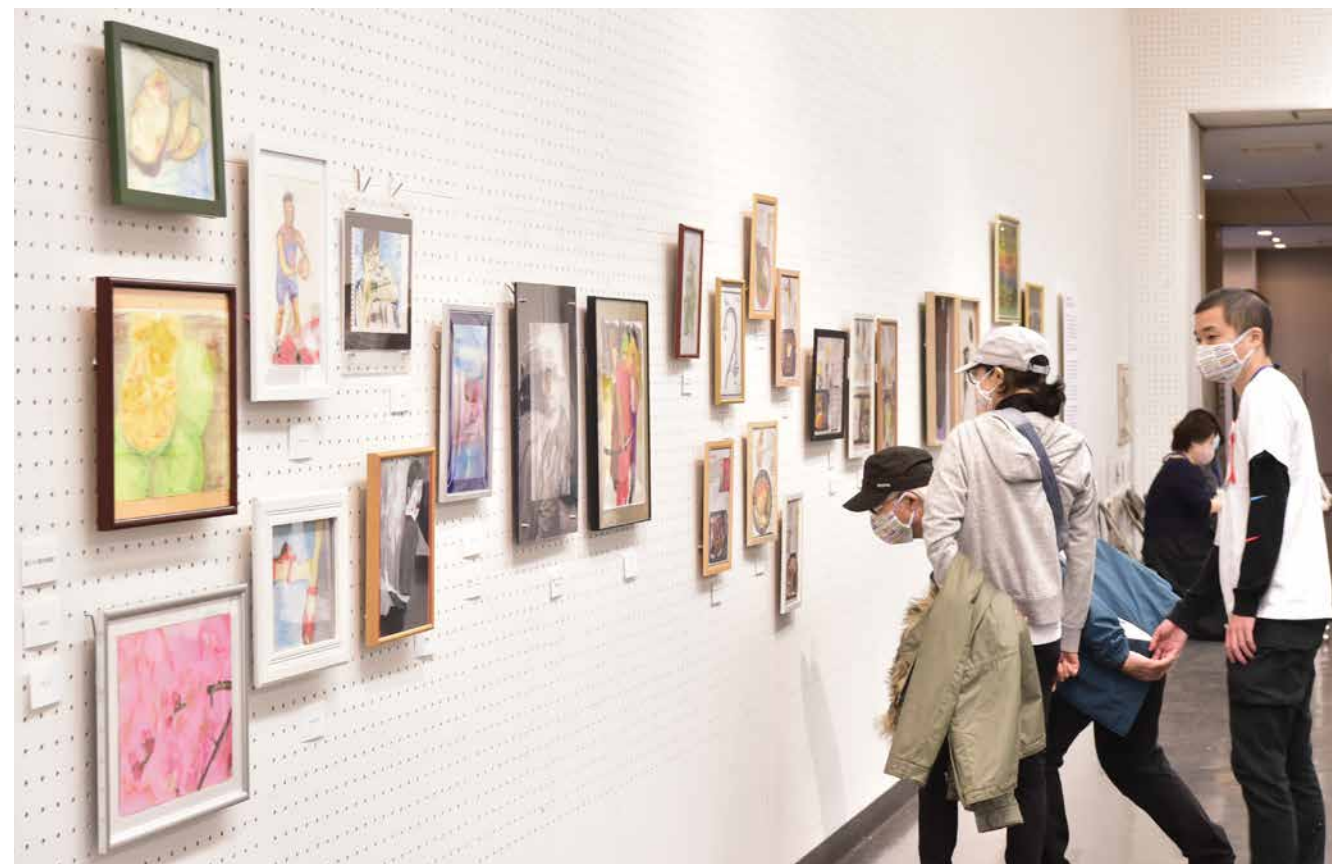
〒333-0831 埼玉県川口市木曽呂1445 社会福祉法人みぬま福祉会 工房集内

TEL: 048-290-7355 FAX: 048-290-7356

E-mail: artcenter@kobo-syu.com URL: https://artcenter-syu.com/



Pick Up! 人材育成を主眼に置いた「みんなでつくる」展覧会の継続



第12回埼玉県障害者アート企画展「LOOK ART ME!!」の様子

ねらい 県内の障害のある人の芸術文化活動のさらなる普及に向けて、地域に根差した事業を継続して開催した。アート企画展では、調査、選考会、展覧会運営をネットワーク参加団体と官民連携で一貫して行うことで、支援者の人材育成と連携の強化をめざした。新たな取り組みとして、埼玉大学の教授と学生によるギャラリートーク

内容 12回目となるアート企画展では、埼玉県と協働で実施した「表現活動状況調査」をもとに、ネットワーク参加施設や多分野の専門家と対話型の作品選考会を実施した。コロナ禍のため二部構成に変更し、ミニ選考会（各施設）と本選考会（オンライン）併せて150名が参加した。トークイベントは動画配信し、美術の専門家によるトーク

を開催し、教育分野への普及と連携体制を構築した。展覧会やイベントを通じて発表機会の創出だけでなく、作家や施設等の交流やつながりの創出も重視しており、支援者がプロセスを学び、支援の延長にある芸術文化活動の意義を共有しながら活動を推進し、関わる一人ひとりの支援力と視座を高めた。

に加え埼玉大学教授と学生によるトークを実施、また例年実施していたアーティストトークに代わり、SNSを活用し作品と併せて作家を紹介した。福祉施設によるオリジナルグッズの展示・販売会では、専門家による研修を経て企画・改良された商品をスタッフの解説と共に展示し、障害のある作家主体のワークショップにも取り組んだ。

今年度の課題と目標

当センターでは「福祉の現場からアートのチカラでより良い未来を作っていこう!」という想いを一つに、埼玉県、県内の福祉施設、作家や家族、多分野の専門家、地域の人たちなど、多くの人々をつなぐネットワークにより活動を深めている。今年度は主に「ネットワークの拡充と

発信力の強化」「増加する相談への対応」「ネットワークを活用した人材育成」を重視して活動に取り組んだ。コロナ禍においても事業を継続し発展させるために、これまでの活動実績とネットワークの連携力を生かし、県民に向けた本事業のさらなる普及をめざした。

今年度の成果と展望

オンラインのネットワーク会議（12回）で実施する研修会、展覧会での協働による人材育成を実施した。オンライン化により参加施設と参加者が増加し、ネットワークが拡充された。相談支援では、増加・多様化する案件を専門家や関係機関と連携し対応した。またコロナ禍でも対面での展覧会、ダンスや作家主体のワークショップを重視

し、109名の作家によるアート企画展は1,450名の来場があった。教育普及と鑑賞支援の一環で行ったギャラリートークでは、教育分野との連携が強化された。新たな表現の探求の場であるダンスワークショップも継続している。今後も中間支援組織として県内外の芸術文化活動をつなぎ発展させていきたい。



展覧会設営時の集合写真

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●関係者のネットワークづくり [ネットワークでの定例会（オンライン）、4/1～3/31（合計12回）] ●人材育成 [施設見学会（オンライン）、5/20] [権利保護に関する研修 ※作家向け、支援者向けそれぞれ実施 講師：岩本憲武、3/7] [講座（オンライン）「障害者アートの可能性について」講師：中津川浩章、7/15] [作品選考会、9/7] [支援者による作品鑑賞会、12/7] [企画展ギャラリートーク Part.1（動画配信）ゲスト：中津川浩章、前山裕司 ギャラリートーク Part.2（動画配信）ゲスト：小澤基弘ほか、ともに12/27] [商品化に関する研修（オンライン）講師：con*tio（合計8回）] ●発表の機会の確保 [第12回埼玉県障害者アート企画展「LOOK ART ME!!」、12/8～12/12] [おうちクリスマスを彩る織り&グッズ展、ツグズムズ14、12/18～12/24] [障害のある作家によるワークショップ、12/18・19]

[身体表現の可能性を探るワークショップ（合計7回）] ●情報収集・発信 [障害のある方の表現活動状況調査] [SNS等を使用した情報発信] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [第12回埼玉県障害者アート企画展作品集] [事業報告書の作成]

支援センター運営団体 社会福祉法人みぬま福祉会

1984（昭和59）年、重い障害を理由に卒業後の進路がない人たちのために「どんな障害がある人でも受け入れる」を理念に発足。「困難や例外的な状況にある人を切り捨てない」ことを大切に、さまざまな困難を抱えた人を受け入れている。現在は通所・入所・相談支援事業等22の事業を展開し、利用者は300人を超えている。

ART (s) さいほく (特色型)

〒355-0077 埼玉県東松山市上唐子1532-5 まちこうば GROOVIN'内

TEL: 0493-81-4597 FAX: 0493-81-4597

E-mail: arts_saihoku@subaru-swc.com URL: https://www.subaru-swc.com/~groovin/



Pick Up! 地域との協働による障害のある人たちのアート活動支援



越生町で初となる障害者作品展「障がい者アート展 in おごせ」展示風景

ねらい ART (s)さいほくでは、障害のある人たちが地域の中でアートを通じて活躍できるよう支援に取り組んでいる。今年度は、地域の障害者作品展や個展の開催に向けて協力をを行うにあたり、障害のある人たちのアート

の魅力や普及支援事業、支援センターの存在について、作者本人や関係者等に知ってもらうことが大切であると考えた。身近で活用しやすい支援センターになることをめざして取り組むことをねらいとした。

内容 ①地域の障害者作品展「日高市障がい者創作活動合同企画展」「障がい者アート展 in おごせ」の実施に向け、作品の展示方法等の提案や展示作業の協働を行った。②相談支援事業所と連携し、在宅障害者の個展を実施した。作者本人、相談支援専門員、支援センターの三者で本人の希望を聞き取りながら、制作のアド

バイス、創作スペースの提供等を行い個展の実現を支援した。③県北西部の障害のある人たちを対象に「公募作品展アートセッションズ in さいほく」を企画し、作品を広く公募した（新型コロナウイルス感染症の影響により中止）。実施にあたり、支援事業及び支援センターの役割の説明や紹介を行った。

今年度の課題と目標

県北西部においては、障害のある人たちの芸術活動に取り組んでいる福祉事業所や関係者とのつながりが確立されておらず、支援のノウハウを学ぶ場や発表の機会も少ないという状況があった。また、相談支援事業所等から在宅の障害者のアート活動の支援について知ら

いという声も聞かれた。そうした課題に対して、今年度も「地域」をベースに関係者や相談支援事業所等との協働やネットワークづくりを強化すること、発表の場を創出すること、障害のある人たちの芸術文化への共感・理解を高めていくこと、を目標に取り組んだ。

今年度の成果と展望

今年度は主に以下4つの活動を行った。①2つの市・町での作品展の協働。②相談支援事業所と連携した個人の作品展の実施及び支援。③県北西部エリアでの公募展（応募102名）への取り組み。④地域の事業所の作品展への協力。①は、町で初の障害者作品展だったが多くの応募と来場者があり、作者本人、参加者、団体も喜ば

れていた。また、作品展の実施・協力にあたっての説明会等では、普及支援事業や支援センターの活動紹介を参加団体や関係者に向けて行い、支援センターの存在や活用方法を知ってもらえたことが成果であると考えている。今後も活用されるセンターになるよう地域や関係団体との協働に取り組んでいきたい。



「日高市障がい者創作活動合同作品展 2021」会場風景



協力した地域の事業所の作品展に地元ケーブルテレビ取材時の様子

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、5/1～3/31] ●発表の機会の確保 [地域の事業所の作品展、5月] [「カラフル虹鳥 NAMI 作品展」コーディネート、7/20～9/30] [「障がい者アート展 in おごせ」への協力、12/3～12/5] [「日高市障がい者創作活動合同作品展」への協力、12/9～12/13] [アートセッションズ in さいほく 2022 (感染症拡大により中止)] ●関係者のネットワークづくり [「日本博アールブリュット展」への協力、10/25・12/26] [相談支援事業所等において普及支援事業や支援センターの紹介、11/15] [越生町連絡協議会会議内での普及支援事業や支援センターの紹介、11/26] ●人材育成 [知ろう障害のある人たちのアートのコト表現のコト 講師：鹿野淳 (感染症拡大により中止)] ●情報収集・発信 [在宅の障害のある人たちのアート活動情報収集 (合計4回)] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [事業報告書の作成・配布]

支援センター運営団体

社会福祉法人 昂

1990 (平成2) 年4月に「人も街ももっとやさしくするために暮らしを分け合うやさしい街づくり」をスローガンに設立した。障害のある方、そうでない方、すべての人たちにやさしい「まちづくり」をめざし、地域の皆さまと一緒に歩んでいる。法人や事業所を越えた連携や地域の資源、関係機関との協働をさらに進め、まち全体で「一つの福祉サービス事業所」となるよう力を合わせていくことをめざしている。

千葉アール・ブリュットセンター うみのもり

〒299-4301 千葉県長生郡一宮町一宮 2553-8

TEL：0475-36-7411 FAX：0475-42-6138

E-mail：info@uminomori.net URL：https://uminomori.net/



Pick Up! 展覧会「うみのもりの玉手箱」



「2022 うみのもりの玉手箱」会場風景。詩の表現《言葉 舞う!》を額装して展示

ねらい「うみのもりの玉手箱」は千葉県障害者芸術文化活動支援事業において初めての展覧会であり、コロナ禍であることをふまえた企画をめざした。ねらいは次の5点。①状況によりオンラインでの開催となることを想定する。②取り組みが少ない個人・事業所にも関わりやすい参加方式の創意工夫を行う。③大漁旗というテーマで千葉の歴史文化を反映させる。また美術分野・言葉

内容 千葉市民ギャラリーいなげで「よろこび!」をテーマに開催し、来場者数は321名だった。展示作品は「大漁旗舞う!」(美術)30点、「言葉舞う!」(詩)20点、「身体舞う!」(映像・身体表現)2点を公募した。また、人材育成講座での成果発表、会場風景の動画発表も行い、YouTubeでも公開した。大漁旗の公募については、材料

分野・身体表現(映像)の3つのカテゴリーに分けて公募することで、幅広い参加者からの募集につなげる。④各分野に監修者を付けることで参加者が学びを得るようにする。⑤地元企業との連携により、支援センターの存在周知も含めて障害者の表現活動を社会に伝える目的を持つ。

の送付による取り組みやすさに加え、動画にて画材について学ぶ機会も創出し支援した。詩の表現はFacebookページでも発表した。搬入搬出に関しては、植草学園大学の学生ボランティアと協働し、さまざまな世代での関わりをつくった。

今年度の課題と目標

今年度は、コロナ禍においても表現活動を止めない創意工夫として、①「オンラインでの人材育成講座の実施・公募展の形式開発」を目標にした。また、コロナ禍で野外での活動から室内での活動へと変化したことにより、表現活動を取り入れる事業所が増えている。そうした事業所への対応として、②「コロナ禍の合間を見なが

今年度の成果と展望

①人材育成講座は、オンラインで7回実施できたが、表現活動のオンライン実施の難しさも明らかとなった。参加者の受講環境の違いによるオンライン受講の難しさ等について学びと周知を深めつつ、できる限り対面で実施したい。②訪問相談により2つの事業所でのワークショップ実施につながった。また、福祉事業所でのワー



「2022 うみのもりの玉手箱」展示風景。公募作品《大漁旗 舞う!》30点の旗が揃った

実施一覧

●相談支援 [相談事業、4/1～3/31(合計19回)] [つながるオンラインミーティング2(オンライン)、1/30] ●人材育成 [人材育成講座第1回(オンライン)「障害特性の理解・障害者芸術文化の意義とは」、7/22(動画配信、7/22～3/31)] [人材育成講座第2回(オンライン)「手で見える美術鑑賞 アメリカの旅」、9/5～3/31(動画配信、9/5～3/3)] [人材育成講座3・4回(オンライン)「うごいてとまってなにしよう?」、10/24・11/7(動画配信、3/28～3/31)] [人材育成講座第5回(オンライン)「多様な人との音楽づくり・音楽遊びレクチャー&ワークショップ」、12/12(動画配信、3/28～3/31)] [人材育成講座第6回(オンライン)「デザインのできること』にわのわ』ができるまで」、1/16] [人材育成講座第7回「著作権保護について」(動画配信、2/1～3/31)] ●情報収集・発信 [メーリングリストの構築、8/2～3/31(合計33回)] ●関係者のネットワークづくり [つながるオンラインミーティング、10/31] ●その他 [「人材

ら訪問相談等を実施すること」を検討した。さらにネットワークの構築として、③「WEB・SNSの活用、情報と利用者をつなげること」を目標とした。その他、相談業務の方法の模索として、対面だけではなく、④「オンライン相談等の実施」も検討した。

クショップ実施を検討している案件等がある。コロナ禍の終息も見越し、事業を進めるにあたっての体制と計画案等を作成する。今後は、③作家登録制度を強化し、WEB・SNS等で情報収集を行う。さらに、④相談業務の方法の更なる模索を行い、オンライン相談等も実施する。



「2022 うみのもりの玉手箱」の会場「千葉市民ギャラリー・いなげ」

育成講座第5回 多様な人との音楽づくり・音楽遊びレクチャー&ワークショップ」に向けた事前調査、11/8～11/30] ●発表の機会の確保 [展覧会「うみのもりの玉手箱」、3/15～3/20] [展覧会「うみのもりの玉手箱」(美術分野を県内デパート通路にて展示)、3/21～3/28] [うみのもりの玉手箱」出品作品の動画配信、3/21～3/31]

支援センター運営団体
株式会社いろだま

株式会社いろだまが中心に運営し、3つの福祉事業所が福祉面でのサポートをしつつ障害者の表現活動の支援を行っている。株式会社いろだまは、千葉県において1998(平成10)年よりアート×共育の活動を行いながら、表現活動を通じて障害の有無にかかわらず、つながる教育・福祉の活動を続けている。

東京アール・ブリュットサポートセンター Rights (ライツ)

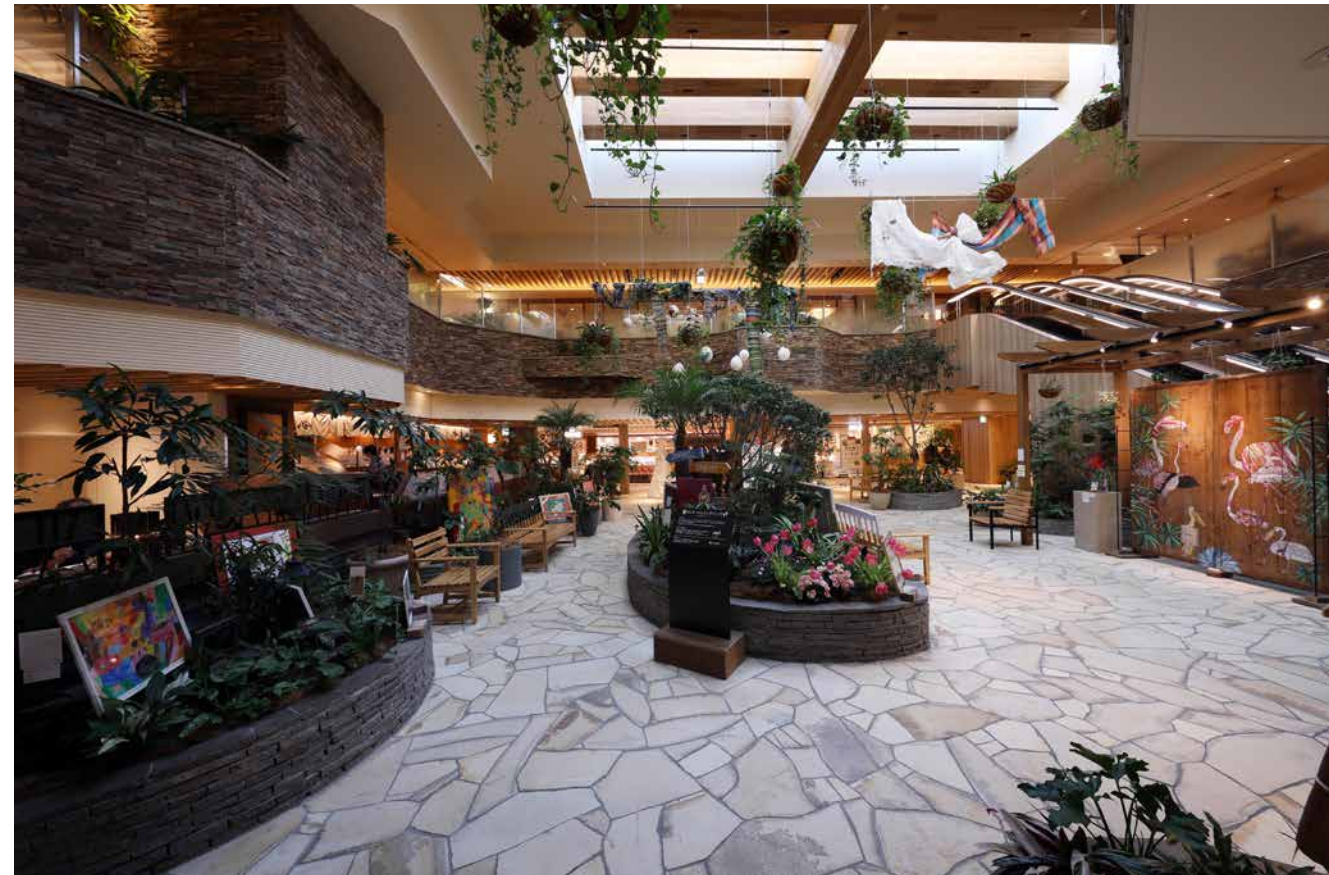
〒164-0002 東京都中野区上高田3-38-5 太和屋産業ビル2階

TEL: 03-5942-7251 FAX: 03-5942-7252

E-mail: rights@aisei.or.jp URL: https://rights-tokyo.com/



Pick Up! かてかてアート展 ～まちと障害とアート～



「かてかてアート展」メイン会場「セレオ八王子北館」9階での展示風景 撮影：たかはしじゅんいち

ねらい 八王子で広がる福祉事業所間のネットワークを活用して、八王子で活動する人々による実行委員会を立ち上げ、障害者とその地域の人々がつながるイベントを開催した。実行委員会には福祉関係者に加えて、まちづくりや地域産業に携わる人々にも参加いただき、カフェや店舗等をイベントの会場にすることで、八王子の

まちを舞台に日常生活の中で障害者のアート、そして障害のある人が地域の人々と出会う機会をつくりだした。これにより、障害のある人がまちなかの店舗等を訪れる機会が増えるとともに、これまで障害者と接する機会のない人々が障害のある人の活動を知り、その理解につながった。

内容 実行委員会には、八王子の福祉関係者、公共施設関係者、商店会の会長、空き店舗でギャラリー運営をされている方、染工場の方等が加わった。イベントは、JR八王子駅に直結した商業施設をメイン会場に、まちなか展示として市の自然公園のほか、カフェ等の店舗や事務所が会場となり、計27ヶ所で開催された。障害のある人160名による300点以上の作品が集まり、作品と共に

作者の紹介文を展示し、八王子で活動する障害者の様子が伝わるようにした。イベントでは実行委員が各会場に展示する作品を店舗等と一緒に選んで展示し、さらには壁画制作等も行った。身体を使った表現のワークショップも企画したが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を鑑み、中止とした。

今年度の課題と目標

前年度に開催した発表の機会では、日常の中に当たり前のように障害者の芸術が存在することで、障害者と地域の人々が触れ合い、障害者がその地域に溶け込んでいく機会になると感じたことから、今年度もこの視点を持ちながら、芸術文化活動を通じて障害者と地域の関わりについて考えることをテーマとした。オンライン研修で

は「都内に限らず地域と深く関わり活動する事例紹介により都内での活動の参考とすること」、発表の機会では「すでに地域にある福祉施設間のネットワークを生かしつつ、さらにそれを福祉以外にも広げる活動として、地域の日常の中に障害のある人の作品や作者自身と出会う機会をつくること」を目標とした。

今年度の成果と展望

「かてかてアート展」において、日頃足を運ぶ場所で障害者の作品に偶然出会うことは、そこで暮らす人々に発見と驚きをもたらした。今回以降にもつながるイベントにしたいと考え八王子の方たちと創り進めたことで、実行委員からはイベント開催前から「今後も続けていきたい」という声が上がリ、開催中には、今回参加しなかった店舗から「次回は参加したい」との連絡があるなど、

次年度以降は地域の人の手による広がりが期待できる。また、権利保護に関する研修やトークイベントは対面で開催したが、どちらもほぼ定員数の参加があり、イベント後に参加者同士で交流する様子が見られた。感染症の感染防止対策をしっかりと行い、人が集まり出会う機会をつくり、ネットワークを広げ、また新たなつながりを築いていきたい。



オンライン配信での研修の様子（手話通訳、字幕付き）



トークイベント「兄弟の視点と作家同士の視点」会場風景（手話通訳付き）
撮影：たかはしじゅんいち

実施一覧

●相談支援 [無料法律相談、9/10～3/18 (合計6回)] ●人材育成 [講演&パネルディカッション (動画配信)「地域と障害のある人の表現を考える」、10/9～3/31] [人材育成研修「障害のある方の作品や芸術活動にまつわる権利関係について」、12/11] ●関係者のネットワークづくり [かてかてアート展実行委員会、9/14～3/15 (合計5回)] ●発表の機会の確保 [かてかてアート展～まちと障害とアート～、1/29～2/28] [トークイベント「兄弟の視点と作家同士の視点」、2/26] ●情報収集・発信 [ウェブサイト・SNS等による情報発信]

支援センター運営団体 社会福祉法人愛成会

1958 (昭和33)年に創立した、利用者と共に地域づくり・まちづくりに寄与する取り組みを行っている社会福祉法人である。所属や年齢、障害の有無を問わず地域に開いた創作の場「アトリエ pangaea (ぱんげあ)」を運営するほか、2010 (平成22)年からは、地域の商店街や人々と協働で芸術文化活動の発信に取り組んでいる。

神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター

〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸1-11-15 横浜STビル208

TEL：045-325-0410 FAX：045-325-0414

E-mail：info@k-welfare.org URL：https://k-welfare.org/



Pick Up! ワークショップ実施事業



「ばれっと・はだの」でのダンサー・岡田智代さんとのダンスの取り組み「身体の声に耳をかたむける」

ねらい 神奈川県内の障害福祉サービス事業所等を対象に、ワークショップ実施を希望する施設の公募を行うことを通して新たなニーズ把握につなげた。ワークショップの内容は、「職員の発想だけではできない活動をしたい」「施設が地域とつながるきっかけとしたい」といった各施設のニーズに合わせて検討した。実施後は

内容 ワークショップ実施施設の公募に対し応募があった21件から選定した2ヶ所と、前年度から継続して実施する3ヶ所の計5ヶ所の障害福祉サービス事業所等にアーティストと出かけ、ダンスや音楽、美術のワークショップを行った。5ヶ所のうち4ヶ所はすべて対面で、1ヶ所は感染症拡大防止のため対面と動画を併用して実

振り返りの時間を設け、福祉施設職員、アーティストと共に、障がいのある人にとっての芸術文化活動のあり方や意義、ワークショップ終了後に、施設として芸術文化活動をどのように展開していったらよいのかについても意見交換をしながら進めた。

施した。参加者からは「新しい発見があった」「初めてのことに挑戦できた」、職員からは「利用者の表現する力を引き出すためのヒントをもらった」といった感想が聞かれた。地域の他の福祉施設の利用者や、併設されている認定こども園に通う子どもたちも一緒に参加し、障がいの有無を超えて交流する場面もあった。

今年度の課題と目標

障がい当事者等から創造・発表・交流の機会に関する相談が多くあるが、つなぎ先となる地域の文化施設等の情報の蓄積が不足していた。また、昨年度のワークショップ実施施設や講座参加者のアンケートから、障害福祉サービス事業所等における活動充実のために芸術文化活動へのニーズが高まっていることが分かった。さらに、コロナ禍において外部講師を招くことが難しくなる

今年度の成果と展望

相談でも特に多い、創造・交流・発表に関する情報を届けるために「神奈川県障がい者芸術文化活動支援センターだより」をウェブサイト、メールにて10回配信した。実際に発表につながったという声や、文化施設・団体等から広報協力の依頼もあった。人材育成講座では、福祉施設における日々の活動に焦点を当てた講座2回を動

「のびやか」での作曲家・西井夕紀子さんとの音楽の取組み
写真：金子愛帆

など施設職員の工夫が求められる一方、アイデアや情報が不足しているという声が聞かれた。そこで、県内の各地域で活動する障がい福祉／芸術文化関係者が、障がいの者の芸術文化活動に関する情報やネットワークを活用し、自団体・施設の事業に生かせるよう支援することを目標とした。

画配信するとともに、講座参加者同士のオンライン交流会1回を開催した。講座参加者116名のうち8割は障がい福祉関係者で、新たな視点を得る機会が求められていると感じた。今後は教育や生涯学習など他分野との連携も深めながら、さらに障がいのある人と芸術文化の接点が地域のなかに広がっていくよう取り組みを続けたい。



国立のぞみの園研究員の岡田裕樹氏を講師に招いた講座収録の様子

実施一覧

- 相談支援〔都道府県内における障がい者の芸術文化活動に関する相談支援、4/1～3/31〕〔パンフレット作成、7/7～3/31〕
- 人材育成〔ワークショップ実施事業、10/30～3/31（合計14回）〕〔障がい福祉と芸術文化の関わりを考える勉強会（動画配信）、1/7～3/7（合計2回）〕〔オンライン交流会・相談会、3/11〕
- 関係者のネットワークづくり〔文化施設職員とのオンライン座談会、10/8・12/10〕〔協力委員会、1/7・2/25〕
- 発表の機会の確保〔成果報告会（動画配信）「地域とともに考える障がい福祉と芸術文化」、3/11～3/31〕
- 情報収集・発信〔神奈川県障がい者芸術文化活動支援センターだより（ウェブサイト・メール）、5/27～3/31（合計10回）〕
- 事業評価及び成果報告のとりまとめ〔報告書の作成、1/21～3/31〕

支援センター運営団体

認定NPO法人STスポット横浜

アートの持つ力を現代社会に活かすことをミッションに、小劇場「STスポット」の運営、学校や福祉施設への芸術家派遣、地域のアートプロジェクト支援等を行うNPOである。2015（平成27）年度からは、文化庁委託事業や神奈川県との協働を通して、福祉と芸術文化の関わりについて考える場をつくり続けてきた。

YAN 山梨アール・ブリュットネットワークセンター

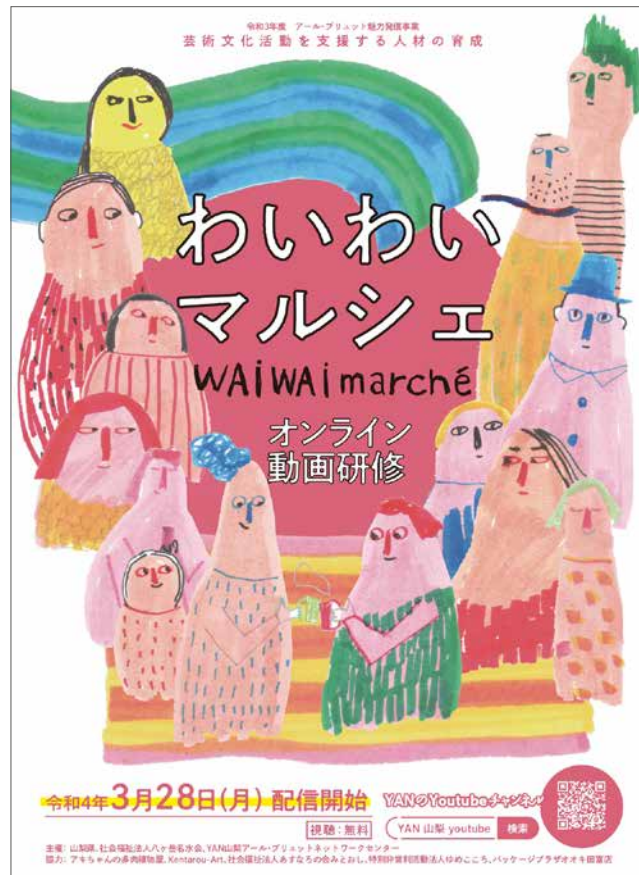
〒408-0025 山梨県北杜市長坂町長坂下条 1237-3

TEL：0551-45-7027 FAX：0551-32-6351

E-mail：yan@y-meisui.or.jp URL：http://y-meisui.or.jp/yan/



Pick Up! 「わいわいマルシェ」 動画研修



5 団体が出演し、それぞれの取り組みのアピールポイントを語る「わいわいマルシェ」動画研修告知チラシ

ねらい アート活動や商品開発の先進的な取り組みを行う福祉施設やご家族、企業を訪ね、商品が生まれるまでのエピソードや今後の展望、商品化のアドバイス等についてご教授いただき、その様子を収録した動画を YouTube 上で配信した。これから新規でアート活動や商品開発に取り組もうとする団体や作品制作をしている当

内容 配信した 5 本の動画は「アキちゃんの多肉植物屋」「作って楽しい」「僕の世界を楽しんでください」「大きな優しさに包まれ 穏やかな風を感じて」「オリジナルグッズを作ってみませんか?」。出演した皆さんは各々の活動の魅力を伝えたいという思いが強く、気持ちのこもった多くの言葉をくださった。本事業で初めてこのような活動に関わった方もおり、企画説明や承諾の手続き、

事者のご家族に向けて、表現や商品開発についての知見を深めていただき、活動の一助としていただくことをねらいとした。国中地域、東部・富士五湖地域の県内 2 地域から福祉施設 2 件、当事者家族 2 件、企業 1 件を選出し、講師出演を依頼した。

動画内容の確認については出演者にすべて了承を得ながら丁寧に進めた。公開後、動画視聴者より「今まさに新規でアート活動に取り組もうと思っており、右も左も分からないなか動画の案内をもらって有難い」という感想が届いた。引き続き周知を行い、多くの方に見ていただきたい。

今年度の課題と目標

支援センターを開設して以来続けてきた「アートカフェミーティング（以下、ACM）」のメンバーが固定化され、新規参加者の獲得が難しく、集まる目的やメリットが見えづらくなっている状況があった。そこで今年度は参加者を広く公募し、「共に作品づくりをし、展示計画を立て、飾る」という一連の流れを経験していただくなかで、日頃の困

今年度の成果と展望

新型コロナウイルスの感染の状況悪化により対面企画が実施不可となり、ACM はアンケート状況調査、研修会は動画研修に切り替えた。アンケート状況調査では、これまで関わりのなかった団体も含め 58 件の回答が得られ、コロナ状況下でのさまざまな工夫や「活動がマンネリ化している」「指導方法が分からない」等の具体的な困りごとが把握できた。動画研修では、アート活動や商品開



実施一覧

●相談支援 [「W + A (ワイン+アート)」プロジェクト ワイン販売開始 (県内作家 2 名の作品がワインラベルに採用)、6/23] [チャリティ Tシャツ受注販売会 (県内作家 3 名の作品がチャリティ Tシャツデザインに採用)、6/23～6/29] ●その他 [バリアフリー演劇「ヘレンケラー～ひびき合うものたち」鑑賞会、11/3] ●発表の機会の確保 [アール・ブリュットー日本人と自然一、12/21～12/26] ●関係者のネットワークづくり [山梨県内における障害のある方の表現活動についての状況調査アンケート、3/7～3/21] ●人材育成 [芸術文化活動を支援する人材の育成『わいわいマルシェ』動画研修、3/28] ●情報収集・発信 [ウェブサイト・SNS 等による情報発信]

りごとや工夫点を共有する場づくりをめざした。また先進事例研修会では講師を招いた座学スタイルではなく、参加者の方に講師をお願いすることで、より主体的に関わっていただけるようなスタイルを取りたいと考え、実際に商品を販売しながら進行する販売会形式の研修会を企画した。

発の先進的な取り組みを行う福祉施設やご家族、企業より、商品誕生までのエピソード、これからの展望、商品化のアドバイス等をお話いただき、計 5 本の動画を YouTube で配信した。来年度の研修会やワークショップについては、状況に応じてオンラインでの対応も想定しながら、できる限り対面で実施していきたい。



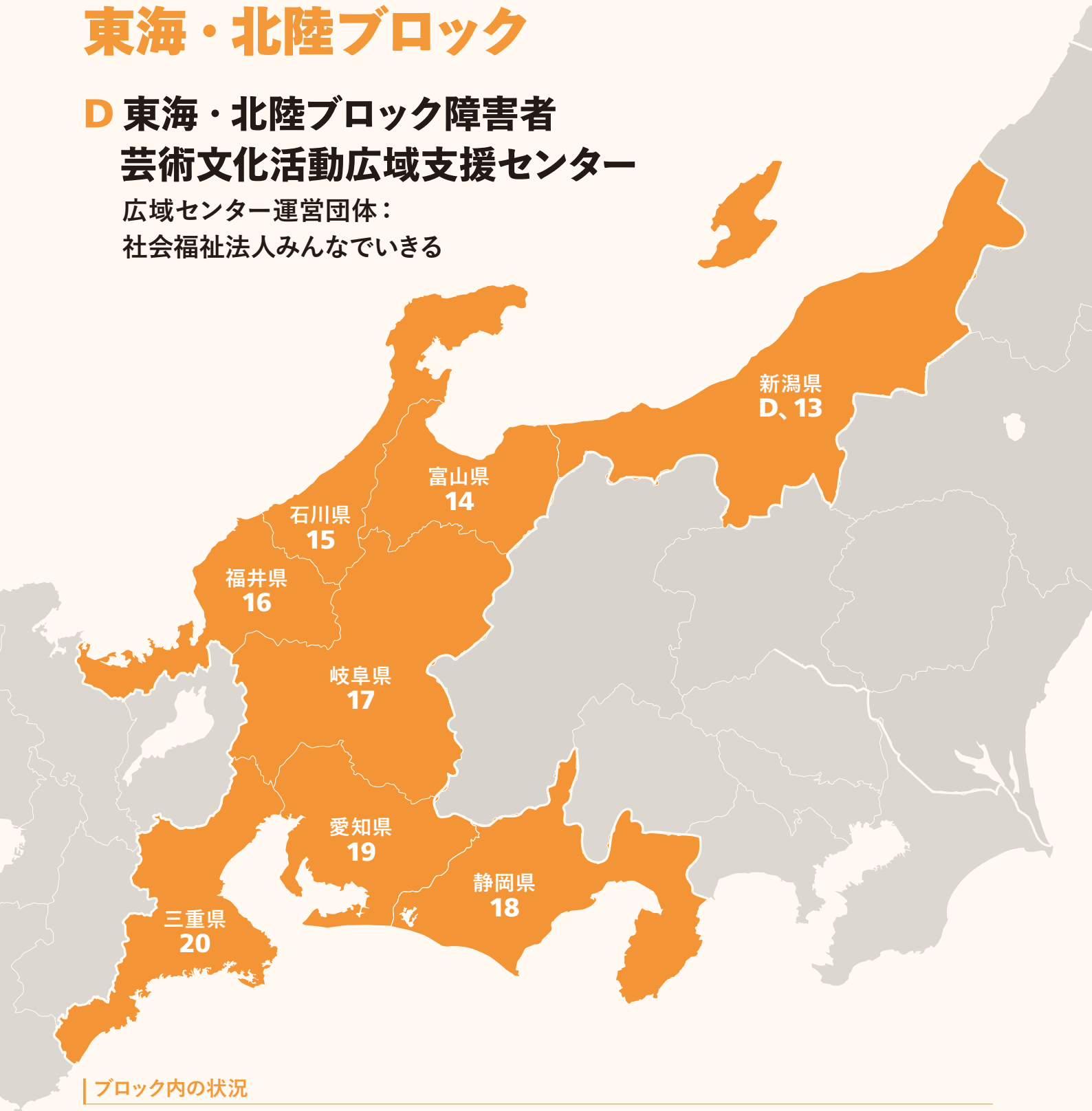
地元ワイナリーの相談から発展した「W + A (ワイン+アート)」プロジェクト。県内作家の作品がワインラベルに採用された

地元百貨店と協同で企画したチャリティ Tシャツ受注販売会の様子。売り上げの一部は県を通して医療従事者に寄付した

東海・北陸ブロック

D 東海・北陸ブロック障害者 芸術文化活動広域支援センター

広域センター運営団体：
社会福祉法人みんなでいきる



ブロック内の状況

新たに設置された福井県を含め、新潟県、富山県、石川県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県の8県すべてに支援センターが設置されている。広域センターは新潟県に置かれている。新潟県では、訪問調査を積極的に行い、相談対応の充実につなげた。富山県は、美術分野の情報が豊富で、展覧会事業に注力している。石川県は、資金調達に課題があるなかでも3ヶ所の巡回展を行った。新設の福井県は、広域センターと共同で研修を行うなど、

センターの立ち上げに奔走した。教育・文化分野に強みを持つ団体が運営を担う岐阜県は、アウトリーチ事業に比重があるのが特徴である。静岡県は、面的な広がりを意識した活動を行っている。愛知県は、舞台芸術に注力、三重県は、広く県民に周知するため県内の福祉団体と連携し展覧会を行った。

新潟県

担当課：福祉保健部障害福祉課

13 新潟県障害者芸術文化活動支援センター

支援センター運営団体：社会福祉法人みんなでいきる

富山県

担当課：厚生部障害福祉課管理係

14 富山県障害者芸術活動支援センター ばーと◎とやま (BE=ART◎TOYAMA)

支援センター運営団体：アートNPO工房COCOPELLI

石川県

担当課：健康福祉部障害保健福祉課

15 文化・芸術活動支援センターかける

支援センター運営団体：特定非営利活動法人地域支援センターポレポレ

福井県

担当課：健康福祉部障がい福祉課

16 福井県障がい者芸術文化活動支援センター

支援センター運営団体：社会福祉法人ハスの実の家

岐阜県

担当課：環境生活部県民文化局文化創造課、健康福祉部障害福祉課

17 岐阜県障がい者芸術文化支援センター(TASCぎふ)

支援センター運営団体：公益財団法人岐阜県教育文化財団

静岡県

担当課：スポーツ・文化観光部文化局文化政策課文化振興班

18 静岡県障害者文化芸術活動支援センターみらーと

支援センター運営団体：特定非営利活動法人オールしずおかベストコミュニティ

愛知県

担当課：福祉局福祉部障害福祉課社会参加推進グループ

19 Aichi Artbrut Network Center

支援センター運営団体：社会福祉法人楽笑

三重県

担当課：子ども・福祉部障がい福祉課

20 三重県障がい者芸術文化活動支援センター

支援センター運営団体：公益社団法人三重県障害者団体連合会

東海・北陸ブロック障害者 芸術文化活動広域支援センター

〒943-0834 新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル307号室 社会福祉法人みんなでいきる法人本部内
TEL:025-530-7264 FAX:025-530-7261
E-mail:info@niigata-artbrut.net URL:https://www.niigata-artbrut.net/



Pick Up! 「最も自由な人たち Vol.08 - Get excited at home! -」



LIVE (オンライン)「最も自由な人たち vol.8」で熱唱するザ☆スクランフプリング三重

ねらい ミュージックブリュット「最も自由な人たち Vol.08」は、東海・北陸ブロック全域からの出演者の公募という初の取り組みとして、発表の機会を確保するとともに新たなパフォーマーとの出会いの場となることを目的に企画した。特に舞台芸術の取り組みが低調である北陸地域の支援センターに対し、パフォーマーの推薦・公募依頼を積極的に行った。事業の実施方法は一

内容 石川県及び新潟県（北陸地域）からも出演希望があり、パフォーマーの発掘と舞台芸術の推進につながった。一方で新型コロナウイルス感染症の影響により、愛知県で緊急事態宣言が発令され、急遽出演が取り止めにってしまったパフォーマーが出た。広域センターも感染予防の観点から、会場の確認など事前準備にほぼ関

から事業を立ち上げるのではなく、すでに愛知県・三重県を中心にさまざまな舞台芸術を実施してきた認定NPO法人ボパイ（愛知県）、NPO法人希望の園（三重県）の協力を得て実施。当日の会場設営や企画運営はノウハウのある両団体をお願いし、広域センターとしてはパフォーマーの発掘に注力した。

われない状況となった。それにもかかわらず、認定NPO法人ボパイとNPO法人希望の園の両団体が、初めての参加となるパフォーマーにも適切な関わりや注意事項の説明等を行ったことで滞りなく事業を実施することができた。舞台芸術の運営という面においても人材育成の必要性を感じた。

今年度の課題と目標

東海・北陸ブロックでは、2021（令和3年）9月に福井県で支援センターが開設され、全8県で障害者芸術文化活動普及支援事業が実施された。広域センターの基本業務の一つである「未実施県への支援」については所期の目的を果たしたため、次の重点事業として舞台芸術の推進を掲げた。美術分野と比較すると低調な取り組み

今年度の成果と展望

新型コロナウイルス感染症の流行が予測できない状況だったが、年度当初に舞台芸術の発表の機会を3回企画した。内容に一部変更はあったものの、回数を増やし計4回実施することができた。うち3回は、新型コロナウイルス感染症の第5波、第6波の真ただなかでの開催だったが、会場を急遽屋外に変更する、観客はオンラ



音楽の祭典「スタ☆タン!!」を研修の場として捉え、表現の幅の広さを学ぶ

実施一覧

●各支援センターに対する支援 [ブロック会議および研修会、7/27～3/25（合計7回）] [実地研修・助言（福井県・三重県）、9/29～3/18（合計4回）] ●芸術文化活動に関するブロック研修 [インスタライブによる公開制作「いる つくる みる はなす（福井県）、9/23」 [ココベリdeココベリ展 作品解説トークイベント（福井県）、11/21] [三重県アールブリュット&ミュージックブリュット自由から世界が始まるART2021「アールブリュット編」(三重県、11/22)、「ミュージックブリュット編」(三重県、2/22)] ●発表の機会の確保 [自由から世界が始まるアート2021三重展（三重県）、8/25～9/5] [LIVE（オンライン）「最も自由な人たち vol.8」(愛知県)、9/26] [おてら meets フェスティバル3rd（愛知県）、10/29～10/31] [LIVE（オンライン）「ジャパン・ミュージック・ブリュット・フェス vol.2（愛知県）、12/5] [あいちアール・ブリュット・サテライト展（愛知県）、2/8～2/13] [屋外での歌および太鼓

状況となっている舞台芸術を推進していくために、広域センターとしてまずは東海・北陸ブロック内のパフォーマーの発表の機会をつくった。コロナ禍において人と人との距離が密になりやすい舞台芸術の事業をいかに実施していくか。広域センターとしてチャレンジした。

インでの参加のみにするなど、感染予防を徹底して実施した。久しぶりの舞台芸術の発表の機会となったパフォーマー、音楽や演奏とふれあう機会を求めている方など、双方にとって文化芸術を楽しむ機会となり、舞台芸術だからこそ味わえるライブ感や表現の幅の広さをあらためて知る機会にもなった。



三河湾を背に、誰もが楽しめる屋外イベント「純粋にパフォーマンスを楽しむ日」を実施

の演奏会「純粋にパフォーマンスを楽しむ日」、3/12] ●自治体における基本計画策定の推進 [「全国の障害者による文化芸術活動の現状分析に関する研究」に関わるヒアリング、11/1] ●その他 [事業評価に関わる情報交換会（オンライン）、2/14] [評価委員会、3/18]

支援センター運営団体 社会福祉法人みんなでいきる

「つながりのイノベーション」をミッションに、新潟県上越市において高齢・障害・児童・総合相談と総合的に福祉事業を展開している。「すべての人々を孤独にさせない支援」「すべての人々が「生きた証」を残せるように」をキーワードに福祉事業を通じて地域を創り続けている。2022（令和4）年度は新たに保育所を運営する。

新潟県障害者芸術文化活動支援センター

〒943-0834 上越市西城町2-10-25 大島ビル307号室 社会福祉法人みんなでいきる法人本部内
 TEL：025-530-7264 FAX：025-530-7261
 E-mail：info@niigata-artbrut.net URL：https://www.niigata-artbrut.net/



Pick Up! 表現活動と福祉現場におけるケアの関係性の研究事業



訪問調査での様子

ねらい これまで数多くの作家と出会い、我々の価値観を揺るがすようなその方にしかできない表現方法や発想をいくつも見てきた。そうした表現活動が生まれていく過程にある他者との関りや環境を調査し、福祉現場に伝えることを本事業の目的とした。独特の表現には強烈な個性や衝動が表れていることが少なくなく、場合によっては自身や他者に危害を加える「問題行動」と捉えられることもある。そのような状況に直面したときに周囲にいる人間がその行動をどのように捉え、どのように関わっているのか。表現活動と福祉の相関と変化を研究した。

内容 訪問調査を通じて、作家や作品だけでなく福祉施設職員など関わっている方へのヒアリングを意識して研究を行った。特に作家への関わり方については、声掛け等の基本的なケアの技術だけでなく、空間内の立ち位置等も合わせて調査を行った。なお、作家によっては複数の福祉施設を利用していたり、過去に別の施設を利用

していたというケースもあった。過去に利用していた施設も含め可能な限り調査を行い、表現がどのように変化したのか、また作家と関わった方にも変化があったのかをまとめた。本事業は次年度の継続事業とし、調査対象の母数を増やしケアと表現の相関関係を分析した報告書としてまとめる予定である。

していたというケースもあった。過去に利用していた施設も含め可能な限り調査を行い、表現がどのように変化したのか、また作家と関わった方にも変化があったのかをまとめた。本事業は次年度の継続事業とし、調査対象の母数を増やしケアと表現の相関関係を分析した報告書としてまとめる予定である。

今年度の課題と目標

2020（令和2）年度はコロナ禍の影響もあり、作家や福祉事業所への訪問が低調となった。2021（令和3）年度は、作家や福祉事業所の抱えている課題や新たな取り組み、作家との出会いをつくるために積極的に新潟県内の訪問調査を行うことを目標とした。また企業のSDGsの推進など社会的な情勢の変化もあり、商用化に関わる相

今年度の成果と展望

年度当初より積極的に訪問調査を行った。あらかじめ予定していた14ヶ所のほかに、情報提供をいただいた作家へのヒアリングを随時行った。訪問調査を通じて、発達障害のある人への相談対応を充実させる必要性を感じた。これまで主に知的に障害のある人の相談を家族や事業所から間接的に受けることが多かったが、発達障

害のある人は自身のこだわりや作品を発表したいという願望を直接的に伝えてこられることが多く、相談員としてどのような受け応えをするべきか判断に迷ったことから、次年度から福祉専門職との連携を強化することにした。権利保護に関わる事業は、研修会のほか弁護士によるミニ相談会を3回開催し、相談の機会を増やした。

害のある人は自身のこだわりや作品を発表したいという願望を直接的に伝えてこられることが多く、相談員としてどのような受け応えをするべきか判断に迷ったことから、次年度から福祉専門職との連携を強化することにした。権利保護に関わる事業は、研修会のほか弁護士によるミニ相談会を3回開催し、相談の機会を増やした。



美術・舞台のハイブリッド型発表会「ものと語りオンラインII」

「うおぬまアール・ブリュット芸術祭」での展示

実施一覧

●**発表の機会の確保** [6分程度の構想でできた放送局（作家とのトークショー）、4/21～10/21（合計7回）] [美術・舞台のハイブリッド型発表会「ものと語りオンラインII」、10/1] [十日町市 参加型展示会「うおぬまアール・ブリュット芸術祭」、10/16～10/24] [上越市 参加型展示会「ぼくらのアール・ブリュット」、11/19～11/23] ●**関係者のネットワークづくり** [協力委員会、8/6] ●**相談支援** [相談会「障害のある方の表現活動に関わる権利保護」、9/9～12/15（合計3回）] ●**人材育成** [展示研修会（十日町市会場、オンライン）、9/11・9/16] [展示研修会（上越市会場、オンライン）、9/19] [研修会（オンライン）「障害のある方の表現活動に関わる権利保護」、10/8] ●**情報収集・発信** [ウェブサイト・SNS等による情報発信]

支援センター運営団体

社会福祉法人みんなでいきる

『つながりのイノベーション』をミッションに、新潟県上越市において高齢・障害・児童・総合相談と総合的に福祉事業を展開している。「すべての人々を孤独にさせない支援」「すべての人々が‘生きた証’を残せるように」をキーワードに福祉事業を通じて地域を創り続けている。2022（令和4）年度は新たに保育所を運営する。

富山県障害者芸術活動支援センター ばーと◎とやま (BE=ART◎TOYAMA)

〒933-0115 富山県高岡市伏木古府元町2-5

TEL：070-2643-0796

E-mail：beart.toyama@gmail.com URL：https://bearttoyam.jimdofree.com/



Pick Up! 「誰でも創作体験！イロドリアソビ」
「誰でも創作体験！まぜまぜワークショップ」



環水公園での「誰でも創作体験 イロドリアソビ」。公園や展覧会にきた一般客や障害者を対象にしたパブリックアートの活動

ねらい 地元の作家が企画運営し、複数個所で開催された展覧会「ビエンナーレTOYAMA2021」は5回目を迎え、主要な文化イベントとして県民の間に定着しつつある。展覧会早期より障害の有無や発表活動の有無にかかわらず、注目に値する作品作家の参加を促し紹介しようとの方針があった。今回はより連携を深め、屋外会場等

内容 「イロドリアソビ」では、富山県環水公園の中心に位置する運河に架かる橋「天文橋」を会場に、参加者が約50メートルの橋上に自由に切ったカラーシールを貼り、橋を虹色にアレンジするワークショップを行った。予約参加と自由参加をおりまぜ、より多くの参加を促せるように設定した。「まぜまぜワークショップ」は、観光拠

点の大規模なワークショップを行い、美術ファンやアーティスト、公園を訪れた人等と障害者がアートを通して自然に交流できるような空間の提供に取り組んだ。観光の拠点等の会場での創作体験を通して、新たなアート感覚、価値観を育むことをねらいとした。

点である寺院を会場として複数のワークショップや公開制作、作品展示会等を行った。内容は、運営側・参加側とも障害のあるなしにかかわらず取り組めるものを準備し、当日は観光客への参加も積極的に促し、交流を主軸とした活動としての運営に配慮した。

今年度の課題と目標

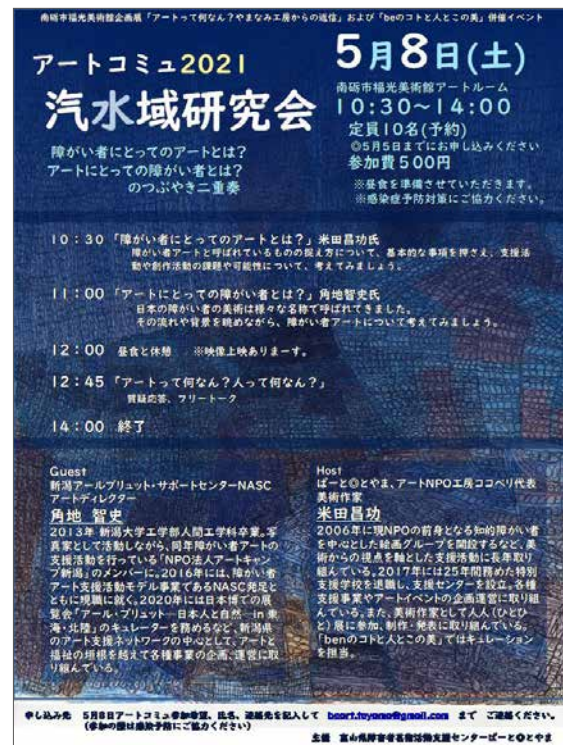
今年度は「コロナ禍における事業展開の創意工夫を施すことによる交流活動の維持」及び「障害のあるなしに関わらずいきいきと活動ができ、相互交流が生まれる場づくり」が求められた。関心が高まるにつれ、相談内容もより具体的になっており、個別の相談事項・課題に対する適切な対応としての対面相談の充実や、発表の機

今年度の成果と展望

地元の美術館のアートイベントと連携し屋外での大規模なワークショップを開催することで、障害の有無を超えてさまざまな人が集い、ソーシャルディスタンスを確保しながらの交流、創作体験ができる場をつくることができた。美術分野を含めた様々な人が関心を高めるきっかけとな

会の確保が課題となった。これにより、魅力ある作品の発掘に留まらず、支援の過程で出会った作品や作家の魅力を整理し、適切にアピールしたり、適切な場所になくといった工夫が必要となった。今後も個々人の個性に応じた社会参加の喜びについて、スタッフでの共通理解を深め支援活動にあたりたい。

り、秋のイベントでは、ボランティア、イベント参加者等によりピーターが増えたことが確認できた。今後は、作家発掘や事業所への協力体制も広げ、他分野との連携も構築していくことで、より多くの人が参加、活躍、交流できる場としてのワークショップが展開されていくと考える。



汽水域研究会を告知するフライヤー

「アールブリュット◎TAKAOKA7in 勝興寺」での「誰でも創作体験！まぜまぜワークショップ」実施の様子

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●人材育成 [汽水域研究会、5/8] ●関係者のネットワークづくり [屋外でのワークショップ「誰でも創作体験！イロドリアソビ」、8/31] ●関係者のネットワークづくり [まぜまぜワークショップ！アールブリュット◎TAKAOKA7、11/7] ●情報収集・発信 [ウェブサイト・SNS等による情報発信]

支援センター運営団体

アートNPO工房COCOPELLI

富山県立高岡支援学校美術部OBの卒業後の創作活動を継続するため、美術部顧問等がつくった絵画グループが基となって、より支援の輪を広げることを目的に2010(平成22)年に設置された。地元伏木からの発信を大切にしながら、「つくる」「かざる」「つなく」「さがす」「まもる」「つたえる」の活動を展開している。

文化・芸術活動支援センターかける

〒920-1346 石川県金沢市三小牛町イ3-2

TEL：080-7484-9349 FAX：076-287-0886

E-mail：po0po0.kakeru@m.email.ne.jp URL：https://r.goope.jp/po0po0-kakeru



Pick Up! 巡回展「つなげて・つたえる」展



障害福祉事業所合同作品展「つなげて・伝える巡回展」（金沢会場）での展示風景

ねらい 展覧会を企画、巡回することで多くの事業所に参加してもらうことを事業のねらいとした。そのためにまず「かける」のを知ってもらい、事業所との関係性をつくることをめざした。作品の制作から出展の流れな

内容 各参加事業所にダンボールを渡し、それぞれが自由に制作し、つなぎあわせて屏風のようにして展示を行った。展覧会の会場は、石川県内を能登、金沢、加賀の3地区に分け、巡回展として実施した。能登地区では旧久江小学校を会場とし、10月29日～10月31日の3日間開催し、来場者数は50名だった。金沢地区では金

沢市民芸術村を会場とし、11月12日～11月14日の3日間で開催し、来場者数198名だった。加賀地区では竹の浦館を会場とし、11月26日～11月28日の3日間開催し、来場者数は65名だった。出展事業所数は30事業所で、延べ来場者数は313人だった。

今年度の課題と目標

アウトプットを意識して文化芸術活動に取り組んでいる福祉事業所は少なく、事業所内でも議題に挙がることは稀である。また各事業所のスタッフが個人的な興味から「かける」の勉強会などに参加しても、現場で活動を広げることは難しい状況があった。事業所において文化芸術活動を実施する場合、分かりやすい効果を求めら

れることが多い。昨今、全国的に障害者の文化芸術活動が広がりを見せており、石川県内でも興味を持つ事業所が増えてきているが、ノウハウがないのが課題であった。こうした課題を踏まえ、事業所として興味を持ち、参加していただくことを目標とした。

今年度の成果と展望

「かける」を知ってもらうことや調査発掘を目的とした訪問を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり実施に至らなかった。勉強会はオンラインを活用することで、参加しやすい環境を整えることができた。また内容を著作権、商品開発、広報など、事業所の現場

で活用できる内容としたことで事業所としての参加が増えた。機会の創出事業としては、「展示会」を開催し事業所として出展する機会を創出した。材料の提供や作品の運搬、制作補助等、全般的にサポートを行うことで県内の各地域から多くの事業所が出展した。



障害福祉事業所合同作品展「つなげて・伝える巡回展」(加賀会場)での展示風景



「第5回 アートを通して『障がい』がある人の支援を考える勉強会」実施風景

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●人材育成 [勉強会 (オンライン)「アートを通して『障がい』がある人の支援を考える～福祉施設職員がつくる著作権契約書について」、7/4] [同勉強会 (オンライン)「商品開発について」、9/4・10/2・11/6] [同勉強会「広報について」、12/18] ●関係者のネットワークづくり [福祉事業所同士の情報交換会、8/5・9/16・10/21・11/18] ●発表の機会の確保 [巡回展「つなげて・つたえる」展 (能登地区：旧久江小学校、30事業所が出展)、10/29～10/31] [同巡回展 (金沢地区：金沢市民芸術村、30事業所が出展)、11/12～11/14] [同巡回展 (加賀地区：竹の浦館、30事業所が出展)、11/26～11/28]

支援センター運営団体

特定非営利活動法人地域支援センターポレポレ

障害を持つ人とその家族に対して、相談、情報提供、具体的な支援に関する事業を行い、地域社会の福祉に寄与することを目的に活動している。センターの名称である「かける」は、ヒト・モノ・コトにおけるさまざまな価値観どうしに橋を「かける」ことで、互いに違う価値観にふれ、新たな価値観が創造されることへの願いから。特に福祉関係者に対してのアプローチに力を入れている。

福井県障がい者芸術文化活動支援センター

〒910-4103 福井県あわら市二面87-26-2

TEL：0776-78-6743 FAX：0776-78-6744

E-mail：center-fukui@hyougen.org URL：http://hyougen.org/



Pick Up! 障がい者の芸術文化活動状況のアンケート調査



「あいちアール・ブリュットサテライト展」に紹介展示した作家4名の展示風景

ねらい 県内で行われている芸術文化活動の実態とニーズ調査を行い、それらを基礎として先の計画の具体化に取り組むことを意識的に位置づけることをねらいとした。県内では「センター開設」はもとより、障がいのある人

内容 アンケートの回答先の経営区分は、「社会福祉法人」「社団法人」「株式会社」の順であり、事業種別は「就労系」「生活介護・自立訓練」「児童関係」の順であった。「芸術文化活動について関心」を問うと、約9割近くが関心を持っていると答えたが、活動の有無を問うと、実施しているのはその半数に留まった。行っていない理由は「活動内容としていない」「支援する人材」

たちの芸術・文化活動の実態が、各種団体におけるアート展等の開催の案内以外はほとんど共有されることなく、センター活動の出発点をこの調査に求めたいと考えたためである。

「活動場所」「活動資金がない」など、今日の報酬体系や慢性的な人材不足の表れが推測された。今後の課題や必要としているものは、「指導者の確保」「活動時間」「活動資金」の順となった。アンケートで明らかになった課題を踏まえ、今後は実践、学びの場の交流を進め、同時に社会につなげることで課題改善を進めたい。

今年度の課題と目標

今年度の活動は9月1日付にて県より委託を受けスタートさせた。中核を成す具体的な計画は「都道府県内における相談支援」「芸術文化活動を支援する人材の育成」「関係者のネットワークづくり」「発表の機会の確保」「情報収集・発信」の5点である。これらのもとで初年度（下半期～）は、センター開設の周知とネットワークづくりの

今年度の成果と展望

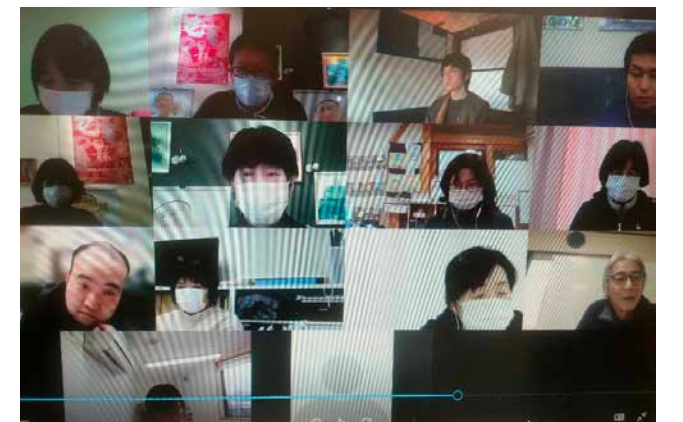
センターの業務を開始し半年間に19件の相談を受け付けた。内容は多岐にわたりすぐに解決できないことも多くあったが、それぞれに関係性も生まれ、今後の活動展開のなかで大切な視点や気づき、相談解決の道筋が見えてきた。一方で県内における福祉事業所等の芸術文化活動の取り組み状況や実施していく際に必要とされる人材、環境、予算など、解決しなければならないこと



県内の主に障がい者アート展等を行う団体を交えたオンライン会議の様子

創設を掲げ、伴う相談受付と支援、そのための人材育成、情報発信、発表の機会の創設を連動させながら進めた。とりわけ県内で行われている芸術文化活動の実態とニーズ調査を行い、それらを基礎として先の計画の具体化に取り組むことを意識的に位置づけた。

も多く見えてきた。今後の活動の中心課題としていきたい。アート展を積極的に行う既存の団体をはじめ、小単位で活動されている諸団体とのつながりができつつあるため、見えてきた課題やその解決のための取り組みを協働で進め、必要な県内のネットワーク構築につなげていきたい。



オンライン研修会「表現するということ」

実施一覧

●相談支援 [県内における相談支援窓口の開設、9/1～3/31]
●その他 [東海北陸ブロック会議への参加、全国会議への参加（オンライン）、9/1～3/31（合計7回）] [障がい者の芸術文化活動状況のアンケート調査、10/14～11/5] ●関係者のネットワークづくり [県内における関連4団体ネットワーク会議（オンライン）、10/19] ●人材育成 [オンライン研修「表現するということ」、1/21] ●発表の機会の確保 [あいちアール・ブリュットサテライト展への出展] [あいちアール・ブリュットサテライト展への出展作品のおかえりなさい福井巡回展「はじめの一步」の開催] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [ニュースレターの発行、合計2回] ●情報収集・発信 [ホームページのリニューアルと環境機材の整備、合計1回]

支援センター運営団体

社会福祉法人ハスの実の家

本年度創立56周年を迎えた。「障害のある仲間とともに 夢をカタチに」をスローガンに掲げ、23年間の無認可時代を含め、障害の重い人たちの日中活動の場として、また生活の場として、その人たち、家族、地域の皆さまの願いを実現してきた。障害のある人たちのコンサート、文化・芸術活動をいつも真ん中に置いて活動し続けている。

岐阜県障がい者芸術文化支援センター（TASCぎふ）

〒502-0841 岐阜県岐阜市学園町3-42 ぎふ清流文化プラザ1F

TEL：058-233-5377 FAX：058-233-5811

E-mail：tasc-gifu@g-kyoubun.or.jp URL：https://www.tascgifu.com/



Pick Up! アウトリーチ事業



「渾沌の中の調和」身体表現ワークショップ「踊舞!」(関市) 撮影：小畑章

ねらい 作品展やパフォーマンスイベントを通して、地元
の障がいのある人の表現や活動を知っていただく機会と
した。それにより、障がい者の理解につながることを期

内容 ネットワークづくりとして、岐阜・中濃圏域の大学と
障がい者の芸術文化活動の振興に関する包括連携協定
を締結した。この連携により、学生に展示のアドバイ
スを行い、作品展を大学構内で開催した。さらに、他大学
も加え、作品鑑賞会を催した。中濃圏域の関市内各所
において、市、任意団体、福祉事業所、アーティスト、ダ
ンサー等が関わった作品展やパフォーマンスイベント等
を実施した。東濃圏域では、多治見市の美術館、地元

待している。また、障がいのある人の芸術文化活動に興
味を持ち、関わる支援者を増やし、今後も各地域におい
て自主的・継続的な動きになることをねらいとした。

で活動する任意団体、福祉事業所等と連携し、展示や
ワークショップ、音楽イベントを行った。西濃圏域では、
大垣市の障がい者作品展の一角をTASCぎふが担当し、
地域の作家や作品利用について紹介した。飛騨圏域で
は、飛騨市、NPO法人、任意団体、特別支援学校等と連
携して、街中の商店等で作品展示や各種イベントを実施
した。

今年度の課題と目標

2024（令和6）年に岐阜県で開催予定の「全国障害者芸
術・文化祭」を見据えるとともに、地域の中に障がい者
の芸術文化活動を広げていくため、県内5圏域（岐阜・中
濃・東濃・西濃・飛騨）において、地域の支援者や自治体、企
業との連携を図る取り組みを、昨年度に引き続き主な目
標として各種事業を行った。しかし、地域の支援者が固
定していることが課題であった。そこで新たな支援団体
や自治体との関わりを持つことや、関心を持つ若者を増
やすことを目標とした。またアンケート調査で、舞台発
表の機会を希望する福祉施設等からの声があったが、
その機会を設けることができていなかったため、作品展
示以外のイベント等の開催を模索した。

今年度の成果と展望

今年度は、普及支援事業費やその他の予算を活用し、5
圏域すべてで新たな支援者との連携事業や若者をター
ゲットとした事業を開催することができた。それにより、
障がい者の芸術文化活動に関心を持ち、より深めたい
という学生が複数現れたほか、新たな自治体との連携、
地域で活動するNPO法人等との関わりを持つことができ
た。そのなかで、新たな作家の発掘につながったり、地
元の作家や地元以外の作品の紹介ができた。また作品
販売を求める方が増加するなど、関心を持つ方を増や
すことができた。さらに、作品展以外にもパフォーマンス
発表等のイベントを開催することができた。今後は各
地域において自主的で継続した活動にするための支援
を模索する必要がある。

実施一覧

●**相談支援** [障がい者の芸術文化活動等に関する相談受付、
4/1～3/28] ●**関係者のネットワークづくり** [大学との連携、4/1
～3/31（合計3回）] [tomoniアートのフェスティバル2021「ア
ール・ブリュットMINO+」、11/9～12/19] [展示・イベント等企画
「渾沌の中の調和」、2/10～2/23] ●**情報収集・発信** [TASCぎふ
ホームページ刷新、4/1～3/31] [Instagramでの発信（TASC
ぎふの事業や作品紹介、4/1～3/31（合計16回）] ●**その他** [協力
委員の設置、4/1～3/31] [オープンアトリエ、4/14～3/17（合計
27回）] [画材バンク、4/1～3/31] ●**発表の機会の確保** [TASCぎ
ふコラボ展vol.7「そうぞうのパッケージ2」、9/11～10/24] ●**人
材育成** [情報発信講座「Instagramを楽しもう!」Instagram
研修、12/18] [権利研修（オンライン）「表現をまもってひろ



「アール・ブリュットMINO+」展示風景（多治見市）

める著作権について」、1/26] [基礎研修・トークイベント「表現
の生まれる時～障がい者との造形活動をとらえて」、3/5] [サ
ポーター制度（障がい者の芸術文化活動を支える人材を育成）、4/1
～3/31] ●**事業評価及び成果報告のとりまとめ** [令和3年度報
告書作成、合計1回]

支援センター運営団体

公益財団法人岐阜県教育文化財団

県民文化及び地域文化の振興と発展並びに健康づくり及び生き
がいがづくりの推進を図ることにより、心身の健康と豊かさを実感
できる「誇りあるふるさと」岐阜づくりに寄与することを目的とし
ている。若者や障がい者、地域の芸術文化活動の拠点として、
ぎふ清流文化プラザの管理・運営を行っている。

静岡県障害者文化芸術活動支援センターみらーと

〒420-0031 静岡市葵区呉服町2-1-5「5風来館」4階

TEL：054-251-3520 FAX：054-251-3516

E-mail：info@mirart-shizuoka.com URL：https://mirart-shizuoka.com/



Pick Up! パフォーミングアーツ「Look@me !」



パフォーミングアーツ「Look@me !」の出演者

ねらい 障害のこと、障害のある人を知っていただき、相互理解の促進につなげることを目的とした。幅広く障害のある人の文化芸術活動を支援していくうえで、絵画等の美術分野と比較すると取り扱い件数が少ない舞台芸術分野にスポットを当て、事業を計画した。本事業では、モデル（＝障害のある人）のメイクアップをデザイ

内容 休日の静岡県庁本館を舞台に、メイクを施し衣装を身に着けた障害のある人をモデルとしたパフォーマンス映像作品の撮影を行った。当初、ファッションショー形式での開催を見込んでいたが、不特定多数の接触を避けるかたちでの映像作品に切り替え、新型コロナウイルス感染症対策に配慮し実施した。制作した映像は、県

ン専門学校の学生に担っていただいたほか、撮影を統括するプロデューサー、現場を指揮するディレクター、振付師、着付師、カメラマン等、多方面の関係者の協力を得た。このような取り組みを通じて協働関係を築くことで、障害のある人の文化芸術活動に支援の輪が広がることを期待した。

主催の第23回静岡県障害者芸術祭、静岡市内のデジタルサイネージ、みらーとホームページ等で映像作品として発表した。コロナ禍で発表の機会が減っているなかで、新たな方式による発表の場を提供し、障害のある人や障害のことを知ってもらうための機会を確保した。

今年度の課題と目標

文化芸術活動を通じて障害のある人の社会参加と、障害のある人に対する県民の理解促進を図るため、次の3つの活動指標を掲げた。①文化芸術活動を支援する人材の育成に努める（指標：研修会等を3回以上開催する）。②地域の障害のある人による表現活動の発表の機会を確

保する（指標：県内東部・中部・西部地区で展示会を各1回以上開催し、舞台発表を県内で1回以上開催する）。③障害のある人が文化芸術活動に参加できる機会を増やし、支援人材の育成にもつながるアウトリーチ事業を開催する（指標：オープンアトリエ等を県下8圏域で各1回以上開催する）。

今年度の成果と展望

①研修会は会場参加＋リモートで計4回開催し、参加者は37人だった。また、障害のある人を取り巻く環境や支援状況等をテーマに、大学や専門学校にて講義を行った。②展示会は東部地区3回、中部地区4回、西部地区3回の計10回開催した。舞台発表は新型コロナウイルス感染症の情勢を踏まえ、不特定多数の接触を避け

るかたちで映像制作を行い、SNSや障害者芸術祭等で映像展示した。③アウトリーチ型のオープンアトリエ等を8圏域で合計30回開催し、参加者は延べ390人となり、アート活動の裾野を広げる取り組みとなった。このような取り組みを継続することで、障害のある人の文化芸術活動を引き続き支援していきたいと考えている。



みしまプラザホテル「ギャラリープラザ」での展示会風景

道の駅「伊豆ゲートウェイ函南」でのワークショップ風景

実施一覧

●相談支援 [関係機関の紹介や専門的知見によるアドバイス、4/1～3/31（合計138回）] ●人材育成 [文化芸術活動にかかわる研修等実施、4/1～3/31（合計6回）] ●関係者のネットワークづくり [協力委員会の設置（オンライン）、4/1～3/31（合計4回）] ●発表の機会の確保 [「みらーと 風を創るひとたち展」等、4/1～3/31（合計9回）] [パフォーミングアーツ「Look@me!」（動画配信）、10/24] ●情報収集・発信 [オープンアトリエ・ワークショップ等、4/1～3/31（合計30回）] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [令和3年度運営事業成果報告書、2/1～3/31]

支援センター運営団体

特定非営利活動法人オールしずおかベストコミュニティ
2010（平成22）年に「障害のある人の働く笑顔で、福祉と企業、地域の心をつなぎます」を理念に、障害のある人の働くことの支援を目的に誕生した。当法人では、障害のある人がその能力と適性に応じた働く場に就き、地域で自立した生活を送ることができるような共生社会の実現をめざすように支援している。

Aichi Artbrut Network Center

〒443-0021 愛知県蒲都市三谷町須田10-68

TEL：0533-66-6228 FAX：0533-66-6229

E-mail：aanc@rakusho.info URL：https://aanc.jp/



Pick Up! AICHI ステージステーションスーパーライブ2021



「AICHI ステージステーションスーパーライブ2021」に出演したムーンワーカーズ×TEAM WARERA

ねらい 愛知県内で舞台芸術を行っている人の情報と発表の場が少ないことから、調査・発掘とネットワークの構築

内容 本ライブは、映像とコラボレーションした即興演奏やバンドパフォーマンス、公募ダンス動画など、障害のある人を交えた老若男女が参加する内容となった。舞台発表での出演は「沙里香（ピアノ演奏、バングラデシュ曲歌唱）」「アトリエ・ブルート映像×岡林和歌・金沢あきな即興演奏（絵画造形作品から制作した映像にインスピレーションを受けながらピアノ、クラリネット奏者が即興演奏）」「ムーンワーカーズ×TEAM WARERA（コンテンポラリーダンス）」「スーパーピッチョーネ（バンド演奏）」。動画発表での出演は

築を目的とした公募型の舞台発表を県内で初めて開催することとした。

「SamCrew（ヒップホップダンス）」「B-SPROUT（バンド演奏）」「CONFUSION INCLUSION ～ For You ～（「自分の好きなもの」をダンスで表現しリレー形式でつないだ映像）」。また、舞台発表の終了後、発表を振り返りながら障害のある人が生み出す芸術文化活動がもたらす価値を学ぶことを目的とした企画「AANC-Philosophyスクール」を開催した。講師に吉野さつき氏、佐久間新氏を迎え、障害者の舞台芸術に関するディスカッションを行った。

今年度の課題と目標

昨年度は「商品化したい」「コロナ禍で作業がないからアートがしたい」という作品ありきの相談も多くあった。こうした、アートがひとり歩きしているようにも受け取られる状況をどのように解消していくか。また、単発の仕掛けではなく、地域に根づく継続的な事業に成長するようにサポートを行う、という2つの課題が浮彫になった。

今年度の成果と展望

相談支援からつながった展示会・舞台発表を行う際に、継続事業なのか、実施する目的は何かなど、今後の展開も含めたアセスメントを丁寧に行い、組織づくりに力を入れた結果、次年度開催に向け自立した動きが始まるようになった（11事業のうち5事業）。また多用なニーズと連携を求められることから、ディレクション能力と福祉的

そこであらためて、愛知県の研修カリキュラムとして障害者芸術文化活動の理念を広げることと、AANCが実事業を直接行うのではなく、事業実施地域のパートナーとステークホルダーに対し発展段階による伴走型の支援を行うことにより、主体性を持った組織として成長させ、持続可能な仕組みをつくることを目標とした。

な相談支援能力を兼ね備えたコーディネーター人材が求められることが分かった。今後は、活動の理念を広く伝えることのできるコーディネーター的役割の人材を県内に増やすこと、実施地域の自治体が第6期障害福祉計画に基づいた動きになるように担当課の意識づけを行い、地域に根づいた持続可能な活動につなげたい。



「tomoni ART project」サポーター企業11社

「純粋にパフォーマンスを楽しむ日」
竹島を背景に hiro to hiro の舞台発表

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●発表の機会の確保 [つづじ×アール・ブリュット作品展、4/23～5/31] [子どもたちのアール・ブリュット展、4/25～3/25 (11月に作品入替)] [こどものココロ展、7/27～9/30] [Meets アール・ブリュット tomoni アート展、8/2～9/2] [めっちゃメッタおにぎりポスターセッション展、9/20～3/31] [最も自由な人たちVol.8～表現に感謝する日～、LIVE中継、9/26] [AICHI ステージステーションスーパーライブ2021、10/28] [おてらmeetsフェスティバル3rd、10/29～10/31] [第1回「はんだアール・ブリュット展」、10/29～10/31] [NOYES×あいちアール・ブリュット自由な作品展、11/5～11/19] [ジャパン・ミュージックブリュット・フェスvol.2 Do It!!、12/5] [想像したものを創造してみた展、12/17～3/31] [パフォーマンスを純粋に楽しむ日、3/12] ●人材育成 [学生向けアート研修(展示設営及び障害者芸術文化活動について)4/25(合計2回)] [知的学習プログラムオンラインセミナー、7/28] [令和3年度サービ

ス管理責任者及び児童発達管理責任者基礎研修全体講義(動画配信)、8/2～8/31] [AANC-Philosophyスクール(障害のある人が生み出す芸術文化活動がもたらす価値を学ぶ)、10/30] ●関係者のネットワークづくり [大垣共立銀行業務提携式、4/15] [ベンチアートプロジェクト除幕式、11/16] [tomoni アートプロジェクト 協力企業協定式、2/24] ●情報収集・発信 [TOKYO FM・サステナデイズWEB 展示愛知県作家特集、2/21～3/10]

支援センター運営団体 社会福祉法人楽笑

障害のある方が地域で暮らし続ける社会をつくることを理念に生活介護事業、就労継続支援B型事業、相談支援事業、短期入所事業、放課後等デイサービス事業を展開している。地域共生社会の実践として、インクルーシブ子ども食堂や高齢者の通いの場、マルシェ、子ども会との合同イベント等を行っている。

三重県障がい者芸術文化活動支援センター

〒514-0113 三重県津市一身田大古曾 670-2 三重県身体障害者総合福祉センター内
TEL：059-232-6803 FAX：059-231-7182
E-mail：info@mie-asc.jp URL：https://www.mie-asc.jp



Pick Up! 巡回展覧会「みえアールブリュット2022 ～三重のたからもの～」



「みえアールブリュット2022」津展の会場風景

ねらい 相談支援については、前年度から相談受付に関するチラシの配布を行ったものの問い合わせは少なく、併せて募集したアートサポーターも反応が少なく、ホームページも作成中のため三重県障がい者芸術文化活動支援センターの認知度の低さを感じるところであった。センター設置前より開催し、今年度で10年目となる「三

内容 三重県は南北に長いため、北勢・中勢・南勢の3地区で開催した。文化祭は出品数が多いことから体育館や大ホールでの展示となるが、巡回展覧会は文化祭の受賞作品を基本とし、そこに魅力的な作品を創作している県内の作家の作品を加えてのコラボレーション展覧会とし、総数52点をギャラリーで展示することとした。展示作業はセンター職員だけでは困難であることから、

重県障がい者芸術文化祭」は、478点の作品が集まる認知された催しとなっているが、開催期間が2日間と短いため、より多くの県民に観ていただける機会として巡回展を開催することで、センターの認知度を上げるとともに相談支援にもつながることをねらいとした。

経験のあるアートサポーターにキュレーターを依頼した。広報については、チラシを文化祭と同様の関係機関に加え、特別支援学校については生徒、県内小中学校については支援学級担当教諭の分を送付した。また、会場最寄り駅にポスター・チラシを掲出した。結果、3会場の入場者数合計は612人となった。

今年度の課題と目標

今年度より支援センターの事業が本格稼働するため、相談支援への対応や展覧会を行う際の指導・援助を担うアートサポーターの増員は不可欠であり、ネットワークづくりを兼ねて障がい者の芸術活動支援を行っている団体や個人への協力依頼を行い、充実した体制の構築を図る必要があった。またホームページを作成し、情報収集

や発信を行うなかでもアートサポーター募集や相談支援の周知を図っていくことが必要であった。今年度の目標は「アートサポーター登録者数を20名以上とする」「10回目を迎える三重県障がい者芸術文化祭以外の展覧会を開催する」「ホームページ開設により当センターの周知及びアピール」とした。

今年度の成果と展望

相談支援については前年度から福祉事業所等に案内を送付し周知したが、2件の絵画指導相談に留まった。新型コロナウイルス感染症対策で外部からの出入りを制限する事業所も多く、ニーズの掘り起こしを含め今後の支援方法に検討が必要な結果となった。障がい者芸術文化祭は478点の応募がされたが、コロナ禍での開催

により舞台発表はYouTube配信とし、展示会場も事前予約・入場制限を行ったため、県内3ヶ所にて巡回展を開催したところ、感嘆される鑑賞者も多くみられ、さらなる発表機会創出の必要性を感じた。ただし、展示準備や会場案内等の人の手配に苦労したことから、ボランティア等の協力者の確保・育成が課題となった。



「障がい者芸術文化祭」の会場風景



「障がい者芸術文化祭」での表彰式

実施一覧

●**発表の機会の確保** [作品展「自由から世界が始まるアート2021三重展（共催）」、8/25～9/5] [三重県障がい者芸術文化祭（一部YouTube配信）、12/3～12/4] [みえアールブリュット2022、2/22～3/21（合計3回）] [葉のアーティストたち展 in 津（共催）、3/11～3/13] ●**相談支援** [相談支援事業（相談に対しアートサポーターを派遣）、10/31～3/16（合計4回）] ●**人材育成** [(オンライン)芸術文化活動の支援に関する研修会（共催）、11/22～3/31] ●**情報収集・発信** [ホームページ開設、12/1～3/31]

支援センター運営団体

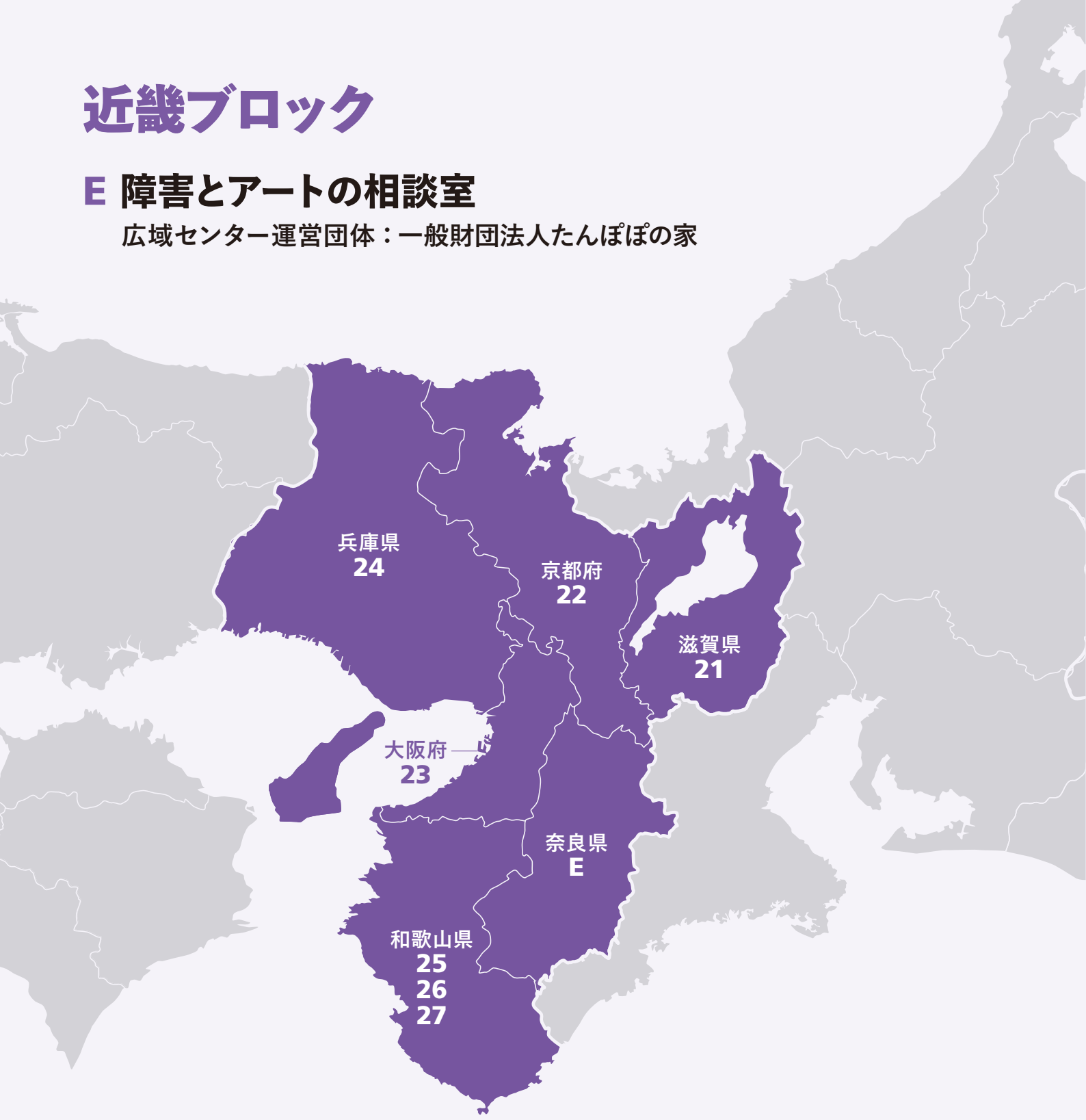
公益社団法人三重県障害者団体連合会

障がい者が地域社会に参画して共に生きる「ノーマライゼーション」の理念のもと、家庭や地域で安心して暮らすことができる共生社会づくりに向けて、障がい者の自立と社会参加を促進する各種事業を展開している。2020（令和2）年9月に開設された三重県障がい者芸術文化活動支援センターを三重県から受嘱し運営を行っている。

近畿ブロック

E 障害とアートの相談室

広域センター運営団体：一般財団法人たんぽぽの家



ブロック内の状況

運営の担い手が新たに加わった和歌山県を含め、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県の2府3県に支援センターが設置されている。広域センターは、本事業が未実施の奈良県に置かれている。滋賀県は、当事者を大切にしたいプログラムを進めている。京都府は、アーティストの発掘やリサーチに力を入れている。大阪府は、障害者の舞台芸術活動をリードする活動を継続して実施してい

る。兵庫県は、「障害者アートギャラリー」とのさらなる連動が期待される。和歌山県では、2021年度全国障害者芸術・文化祭が開催された。現在の3センター体制を見直す方向で調整を行っている。奈良県では、障害福祉分野と文化分野の連携を整理したうえで事業の開始が待たれている。

滋賀県

担当課：健康医療福祉部障害福祉課

21 アール・ブリュット インフォメーション&サポートセンター

支援センター運営団体：社会福祉法人グロー

京都府

担当課：健康福祉部障害者支援課

22 art space co-jin

支援センター運営団体：きょうと障害者文化芸術推進機構

大阪府

担当課：福祉部障がい福祉室自立支援課

23 国際障害者交流センター ビッグ・アイ

支援センター運営団体：ビッグ・アイ共働機構

兵庫県

担当課：健康福祉部障害福祉局ユニバーサル推進課

24 ひょうご障害者芸術文化活動支援センター

支援センター運営団体：兵庫県健康福祉部障害福祉局ユニバーサル推進課

奈良県

担当課：障害福祉課社会参加促進係

和歌山県

担当課：福祉保健部福祉保健政策局障害福祉課

25 和歌山県福祉保健部福祉保健政策局障害福祉課（相談支援、人材育成以外）

支援センター運営団体：和歌山県

26 和歌山県障害者芸術文化活動支援センターわがらあと（相談支援のみ）

支援センター運営団体：社会福祉法人和歌山県福祉事業団

27 ゆめ・やりたいこと実現センター（人材育成のみ）

支援センター運営団体：社会福祉法人一麦会（麦の郷）

障害とアートの相談室

〒630-8044 奈良県奈良市六条西3-25-4

TEL：0742-43-7055 FAX：0742-49-5501

E-mail：artsoudan@popo.or.jp URL：https://artsoudan.tanpoponoye.org/



Pick Up! 福祉をかえる「アート化」セミナー



「福祉をかえる『アート化』セミナー」の実施風景。
この日のゲストはOiBokkeShiの菅原直樹さん。演劇を通して障害や老いを捉え直す取り組みを紹介した

ねらい 障害のある人たちのアート活動を支えるために必要な考え方を学ぶセミナーとして位置づけた。多様な人たちが地域でつながることが難しい状況において、あらためてアートやものづくりを通して個人が社会とつながるための方法や事例を学び合う機会をつくることをめざした。オンラインをベースとした配信プログラムとする

内容 全6回、各1時間半のセミナーを実施した。テーマを「しごと」「あそび」「コミュニケーション」とし、講師は国内で先駆的な活動をしている団体・個人とした。福祉とアートにとどまらず、異分野の活動からヒントを得ることで、参加者の実践に役立つように、具体的な活動の様子や聞き手によるディスカッションの時間を持った。

ことで、障害のある人たちが支援する人たちが、自分たちの都合に合わせて視聴いただけるような仕組みづくりを心がけた。そのため、連続性を持たせるよりは個々のプログラムが完結する平日の夜の実施とし、日中の仕事が終わった後でも気軽に視聴できる構成とした。

また、プログラムへのアクセシビリティを高めるため、各回UDトークによる情報保障や紙媒体によるガイドの作成、平日夜に連続実施することにより業務後に参加できるよう工夫をした。視聴者のアンケートからは概ね満足したという回答が多く、今後もオンラインでも学びの機会をつくることの意義を感じる事業となった。

今年度の課題と目標

近畿ブロックの支援センターの課題は「各支援センターの地域での認知度の差があること」「支援センター間の連携が十分とはいえない状態にあること」であるため、各支援センターと連携し、さまざまな活動を社会に伝えていくことをめざした。またこれまでの活動を通して、新型コロナウイルス禍という状況においても、障害のある

人たちの多くは、創作への意欲は増し作品や活動を伝えることの欲求は高まっていることが分かった。さらに表現と権利に関する知的財産に関する学びの機会のニーズも増えている。こうしたことから、表現の機会を絶やさず、創作意欲がある人たちの環境を豊かにすることが近畿ブロック全体の目標であった。

今年度の成果と展望

前年度に実施した「オープンアトリエのつくりかた」の反響から、各地からの相談対応が増えた。新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していたプログラムがほとんどオンラインとなった。しかし、地域を超えた参加や障害のある人が在宅で参加できるなど、リモート開催により参加のハードルが下がった。今後もリアルとオン

ライン、ハイブリッドでのイベント開催等の可能性が見えてきた。また、未実施県の支援では現場の声を拾い行政担当者とディスカッションをするなど、今後の実施に向けての機会を醸成しつつある。さらに、知的財産権に関する他ブロックの支援センターからの依頼が特に多く、この分野での関心の高さをあらためて実感した。



「関西展覧会レビュー Vol.01」
2021年度に近畿各地で実施された障害のある人たちが関わる展覧会を、企画者たちが共有し合った



未実施県である奈良の福祉施設職員たちによるアート活動の情報交換会（ハイブリット）実施の様子

実施一覧

●各支援センターに対する支援 [第1回ブロック連携会議（オンライン）、8/10] [第2回ブロック連携会議&勉強会（オンライン）、3/15] [webサイトからの情報発信（オンライン）、合計32回] ●その他 [IoTとFabと福祉 オンラインセミナー、9/14・9/15] ●センター未設置都道府県の事業所等への支援 [情報交換会「奈良県の障害のある人の芸術文化活動支援について」、9/29] ●芸術文化活動に関するブロック研修 [福祉をかえる「アート化」セミナー（動画配信）、2/24～3/29（合計6回）] [パフォーミングアーツの広場 オンライントーク、3/21] ●発表の機会の確保 [動画配信「パフォーミングアーツの広場」、3/20] [障害とアートの相談室 関西展覧会レビュー Vol.01（オンライン）、3/30] ●ブロック内の連携の推進 [舞台芸術ネットワーク会議の開催]

支援センター運営団体

一般財団法人たんぼの家

ソーシャル・インクルージョンをテーマに、アートの社会的意義や市民文化について問いかける事業を実施している市民団体。奈良を拠点に国内外のネットワークを通じ、障害のある人のアート活動支援や新しい仕事づくり、ケアの文化づくりに関するさまざまなプロジェクトに取り組んでいる。

アール・ブリュット インフォメーション＆サポートセンター

〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦4837-2

TEL：0748-46-8118 FAX：0748-46-8228

E-mail：artbrut_info@glow.or.jp URL：http://info.art-brut.jp/



Pick Up! 芸術活動支援のための研修プログラム「アイサ大学」



「第2回 舞台芸術の鑑賞サポートについて」音声ガイドの制作体験の様子

ねらい 障害のある人の芸術活動を支援する施設職員や関心のある方が必要な知識やスキルを身に付け、それぞれの場で学びを生かして障害者の芸術文化活動に取り組めるようになることをめざし、「アイサ大学」として研

内容 舞台芸術活動について学ぶ舞台芸術コース（全4回）と、作品展示や作者の権利について学ぶ美術コース（計2回）の研修を実施した。舞台芸術コースでは、音声ガイド制作やバックステージツアー等、体験的に学ぶ研修を実施した。最終回では学びを共有するグループワークを行い、研修を通して学んだことや考えたことを参加者同士で共有した。美術コースでは、作品を持ち寄って展示を行う実践的な研修と座学を織り交ぜて実施

修を実施した。コースとして複数回設定することで、異なる立場の参加者同士が緩やかにつながるネットワークを醸成することも目的とした。

した。展示方法について互いに相談したり手伝ったりしながら、小さな展示会場をつくりあげた。展示は一般の方にも公開し、アイサの取り組みを知ってもらうことにもつながった。研修にはさまざまな立場からの参加があり、時間を過ぎてても熱心に続く話し合いの様子から、毎回、丁寧に学びを共有するなど、ネットワークを形成する小さな積み重ねが活動する人のモチベーションとなり、地域に根差した次の展開につながると感じた。

今年度の課題と目標

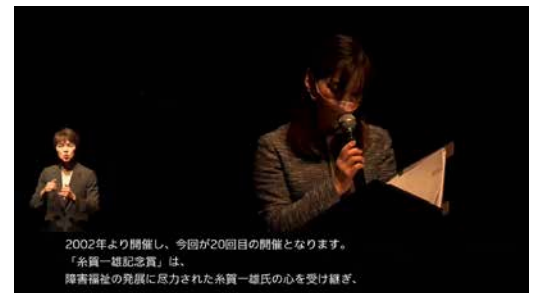
これまで実施してきた相談支援や、2020（令和2年）年度に実施した舞台芸術活動団体への訪問調査等から、県内で美術や舞台芸術活動に取り組む事業所や団体、個人の課題やニーズが明確に見えてきた。アイサでは、拾い上げた課題やニーズをもとにして次の展開に確実につなげていくという点の強化を考え、見えてきた課題を

今年度の成果と展望

「展覧会をしたいがノウハウがない」という相談のあった団体が、研修で得た知識を生かして作品の展示につながり、「障害のある人との取り組みをどのように始めたらいいかわからない」という相談のあった文化施設が、研修を受講した後に主催したコンサートに視覚障害のある人を招待されたりするなど、「出会った人の声に応える

丁寧に事業につなげることを重視して取り組んでいくこととした。また新たな団体等とつながり、出会った人と人がさらにつながるネットワークの形成が土台として不可欠と考え、事業を企画する際は人と人とのつながりを生む仕組みを取り入れることを大事にした。

事業」としていくことで、確実に次の展開へ広がった。アイサを通じて出会った人同士が、安心してつながり合えることを実感してもらうために、今後も目の前の出会いやつながりを大切にしながら、大きな目標を見失うことなく、細かで地道な取り組みを重ねていきたい。



「糸賀一雄記念賞第二十回音楽祭」での鑑賞サポートの様子

「第18回滋賀県施設・学校合同企画展」実行委員会による作品の実見

実施一覧

- 相談支援 [舞台芸術団体訪問調査、5/15～6/24（合計9回）]
- 関係者のネットワークづくり・事業評価および成果報告 [協力委員会、6/10（対面）・3/4（オンライン）ほか事業への視察を各委員1回以上実施]
- 関係者のネットワークづくり [第18回滋賀県施設・学校合同企画展実行委員会、6/16～2/24（合計7回）]
- 関係者のネットワークづくり・発表の機会の確保 [オンライン発表会「あ～！いいっさ！！」、6/27～12/26（合計4回）]
- 人材育成 [「アイサ大学」芸術活動支援のためのプログラム、8/26～12/2（合計6回）]
- 発表の機会の確保 [第18回滋賀県施設・学校合同企画展ing…～障害のある人の進行形～、11/27～2/6]

[糸賀一雄記念賞音楽祭での鑑賞支援（オンライン）、2/20]

支援センター運営団体

社会福祉法人グロー

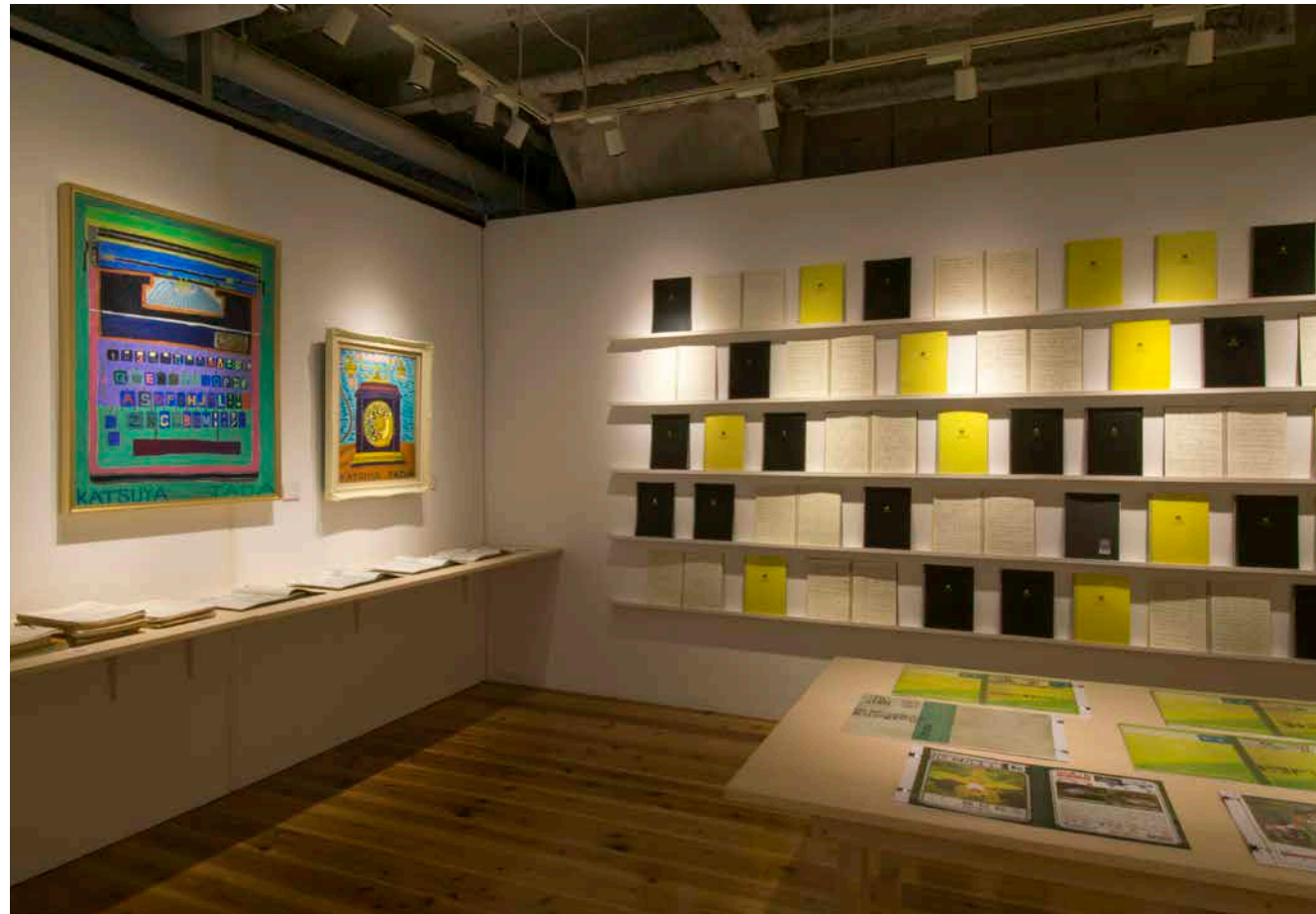
「糸賀一雄記念賞音楽祭」の事務局として、県内で表現活動ワークショップの立ち上げや運営をサポートしてきた。また「ボードレス・アートミュージアムNO-MA」では、数多くの企画展を開催している。2012（平成24）年「アール・ブリュット インフォメーション＆サポートセンター」を開設、障害のある人が安心して芸術文化活動ができる環境づくりや人材育成事業等を行っている。

art space co-jin

〒602-0853 京都府京都市上京区河原町通荒神口上ル宮垣町83 レ・フレール1階
 TEL：050-1110-7655 FAX：050-1110-7655
 E-mail：info2015cojin@gmail.com URL：http://co-jin.jp



Pick Up! 企画展覧会の開催



企画展「Co-jin Collection 6ix Nikki」展示風景

ねらい 企画展を定期的に開催することで、障害のある人の作品や表現を発表する機会を創出し、展覧会を通じて障害のある人が社会と新たなつながりを持ち、社会参加を推進することをねらいとした。また障害があること

内容 年間を通して3回の企画展「Spring up Spring」「Co-jin Collection 6ix Nikki」「表現と周辺-後藤祐加、山口愛」を開催した。日記をテーマにした展覧会では、作品と一緒に作家本人の日記を展示した。また、作家と周辺の人々との関わりに着目した展覧会では、取材資料を併せて展示した。このように、さまざまな切り口で展覧会を開催したことで作品そのものだけでなく、作家自身やその周囲の環境、人とのつながりについても発信す

る個性として一人ひとりに接し、作家や作品の魅力を発信することで府民の障害への偏見をなくし、理解を深めていくことをめざした。

ることができた。さらに新型コロナウイルス感染症の影響で外出が難しい状況において、少しでも作品の魅力を発信できるよう展覧会の記録映像をホームページ上で公開し、SNSを活用して定期的に展示作品の情報を発信した。そのほか、地域のアート関係者や事業者等に展覧会のレビューを依頼し、ホームページ上で公開するなど取り組みを実施した。展示以外でもアートに関する講座を開催し、幅広い府民に取り組みを発信した。

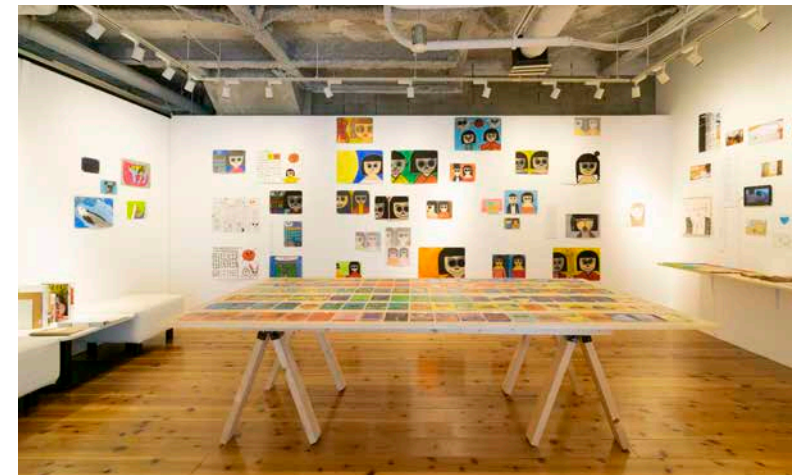
| 今年度の課題と目標

課題としては、障害のある人の文化芸術活動は、個々の福祉施設や個人の取り組みで留まっているケースがあることが挙げられた。また、これまで障害のある人の作品を見たことがなく、関心がなかった人にも作品の魅力や情報を伝える必要性もあった。今年度の目標としては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受ける

| 今年度の成果と展望

ギャラリー「art space co-jin」で企画展を3回開催し、合計1,951名に来場いただいた。緊急事態宣言の発令に伴い約2ヶ月間の休廊期間があり、例年より来場者数は減少したが、展覧会の記録映像の公開など、会場に足を運ぶことが難しい状況でも作品の魅力を発信できるよう工夫して取り組んだ。また、企業と連携したバナー（障

害のある人の芸術作品を印刷した織布）展示を複数回開催し、これまで障害のある人の作品を見る機会がなかった人にも作品にふれていただく機会を創出することができた。今後もギャラリーでの定期的な展覧会の開催、企業等との連携強化に取り組むほか、文化庁移転を契機にさらなる展示機会の拡大に努める。



企画展「表現と周辺-後藤祐加、山口愛」展示風景



Co-jin出張版「からだをつかってあそぼ」(2021年度 Co-jin 講座 vol.1)会場での様子

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●情報収集・発信 [デジタルアーカイブ「アートと障害のアーカイブ・京都」の新規作家公開、取材・記事の公開、4/1～3/31] ●発表の機会の確保 [展覧会「Spring up Spring」、4/13～7/18] [バナー展示@ぶらり嵐山、6/2～8/18 @京セラ、10/18～10/29 @大丸京都店、11/1～12/12 @ニッセイ・ライフプラザ京都、11/11～1/30 @ロームシアタープロムナード、12/1～12/5] [展覧会「Co-jin Collection 6ix Nikki」、8/3～12/26] [サンガギャラリー展示 (開催協力)、10/24～11/14] [「CONNECT⇄」つながる・つづく・ひろがる 展開協力、12/2～12/9] [展覧会「表現と周辺-後藤祐加、山口愛」、1/18～3/27] ●人材育成 [Co-jin 講座 vol.1 Co-jin 出張版「からだをつかってあそぼ」～からだであいさつ・どんなうごきになるかな?～、10/31 vol.2「障害とアートの現場から考える、人間と文化のあたらしい関係」、2/27]

支援センター運営団体

きょうと障害者文化芸術推進機構

美術館や福祉団体、大学、企業、行政その他の関係機関で構成するオール京都体制の組織である。「art space co-jin」を活動拠点として、障害のあるアーティストの作品や活動の紹介等を行い、文化芸術活動を通じて障害者への理解と社会参加を推進するために活動している。

国際障害者交流センター ビッグ・アイ

〒590-0115 大阪府堺市南区茶山台1-8-1

TEL：072-290-0962 FAX：072-290-0972

E-mail：arts@big-i.jp URL：https://big-i.jp/



Pick Up! 舞台芸術分野：大阪府障がい者舞台芸術オープンカレッジ 表現のコース



「大阪府障がい者舞台芸術オープンカレッジ表現のコース」演劇コースで、参加者をサポートする聴覚障害のあるアシスタント

ねらい 「大阪府障がい者舞台芸術オープンカレッジ」表現のコースでは、障害の有無・種別・程度、性別、年齢、経験、地域等に関係なく、多様な人との関係性を築ける舞台芸術（ダンス、演劇）ワークショップを実施した。このワークショップには重度の障害者も多く参加するため、参加者の障害特性・身体特性に応じて創作すると同時に、発表会に向けて一つの作品に仕上げる必要があるな

内容 舞台芸術分野では、障害や舞台芸術経験の有無、性別、年齢、国籍等を問わず、興味のある方なら誰でも参加できるダンスと演劇のワークショップを開催した。各コース20名の定員に対して、約60名の応募があり、午前と午後の2部制に変更し実施した。1回90分の

る。講師となるアーティストは、これまでアシスタントとして活動した経験とアーティストとしての専門性の双方を生かすこと、また障害のあるアーティストがアドバイザー、アシスタントとして参加し、サポートすることで多様な人が参加できる環境を創出できるスキルを伸ばすことをねらいとした。

ワークショップを6回行い、最終回はご家族や友人・知人など約60名を招待して成果発表会と振り返り会を行った。参加者や保護者からは、コロナ禍で外出機会の減少により運動不足や人とのつながりが減っているなか、参加できたことを喜ぶ声を多くいただいた。

今年度の課題と目標

コロナ禍のため対面実施の工夫やオンラインを用いるなど、事業が中止とならないよう多様な実施方法をあらかじめ想定した。人材育成においては、新たな支援人材の発掘と育成とスキルアップをめざした。舞台芸術オープンカレッジでは、昨年までのアシスタント4名が今年度は講師として参加し、企画から各ワークショップの内容・発

表までを実践した。また、自ら創造活動の場を生み出せるノウハウを身に付けること、新たなアシスタントとなるアーティストを発掘することを目標とした。美術分野では、参加型展覧会「about me5」を通じて新たな事業所の発掘とこれまで関わってきた事業所の創造活動支援におけるノウハウ、発表の場におけるスキルアップをめざした。

今年度の成果と展望

舞台芸術分野では、アシスタントからメイン講師となったことで、プログラムの組み立てや支援の方法について新たな気づきと工夫が生まれ、支援のスキルアップにつながった。また、新たなアシスタントとして3名のアーティストが参加し、うち1名は「障がい者舞台芸術オープンカレッジ」の参加者が、今年度は支援者として参加でき

たことにより、障害者の舞台芸術活動へのアプローチの幅が広がった。美術分野では新たに2事業所が参加し、これまでの参加事業所はオブザーバーとして展覧会の企画や制作、日常の創作活動についてアドバイスや意見交換を行うことで、今後の活動における協力体制・ネットワークづくりにつながった。



障害者のダンスプログラムを学ぶ台湾から留学中の学生



「about me5～“わたし”を知って～全身全霊 Body and Soul」ギャラリーツアーの様子

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●その他 [アート活動を通じた交流とサードスペース「ビッグ・アイ あーと工房みずのみば」の創出、4/3～3/26 (合計14回)] ●人材育成 [「ビッグ・アイ あーと工房みずのみば」における指導者育成、4/3～3/26 (合計14回)] [「大阪府障がい者舞台芸術オープンカレッジ創造のコース」出演者オーディション、9/11 稽古・映像撮影の参加者支援 (サポート、指導等)、振り返りミーティング、9/20～11/21 (合計11回) 参加者支援 (サポート、指導等)、振り返りミーティング、11/28～1/23 (合計13回)] [展覧会「about me5～“わたし”を知って～全身全霊 Body and Soul」ギャラリーツアー・トークセッション、12/17] ●発表の機会の確保 [「大阪府障がい者舞台芸術オープンカレッジ創造のコース」出演者オーディション、9/11 稽古・映像撮影、9/20～11/21 (合計11回) ワorkshop・成果発表、11/28～1/23 (合計13回)] [「大阪府障がい者舞台芸術オープンカレッジ」演劇公演 (映像配信)、2/28～3/31] [展覧会

「about me5～“わたし”を知って～全身全霊 Body and Soul」、12/16～12/20] [舞台発表「大阪府障がい者芸術・文化コンテスト」(動画配信)、3/9～3/31] ●関係者のネットワークづくり [展覧会「about me5～“わたし”を知って～全身全霊 Body and Soul」を通じた考察、ディスカッション、10/1～12/15 (合計5回)] ●情報収集・発信 [「大阪府障がい者舞台芸術オープンカレッジ表現コース」(障害者の舞台芸術活動指導等についての見学)、11/28～1/23 (合計5回)]

支援センター運営団体 ビッグ・アイ共働機構

障害のある人の芸術文化活動拠点として、福祉と芸術に関する知識と経験が豊かな専門スタッフが運営のもと、障害のある人が芸術文化活動を通じて自己評価を高め、社会とつながる機会を創出する事業を展開している。また、障害のある人の表現活動の支援や鑑賞支援、調査・研究事業、情報発信等を行っている。

ひょうご障害者芸術文化活動支援センター

〒650-8567 兵庫県神戸市中央区下山手通 5-10-1

TEL：078-362-4090 FAX：078-362-9040

E-mail：universal@pref.hyogo.lg.jp URL：https://web.pref.hyogo.lg.jp/kf10/hw20_000000009.html



Pick Up! 兵庫県障害者芸術オンラインセミナー



創作活動を支援する際の心構え等のオンラインセミナーで画材や技法等の紹介の様子

ねらい コロナ禍でも障害福祉サービス事業所等の取り組みを支援し、障害者芸術文化活動の裾野拡大を図るため、障害者芸術に取り組んでいる事業所のスタッフ、

内容 県内において障害者芸術に先進的に取り組む障害福祉サービス事業所として、特定非営利活動法人100年福祉会「片山工房」理事長の新川修平氏、およびスタッフを講師として招き、「障害のある人のアート活動に必要なこと」をテーマに、利用者の支援に必要な心構えや考え方、画材や技法等についてオンラインで講義をしていただいた。多くの方にご参加いただき、参加者数は43名であった。質疑応答では支援する側の悩みや苦

または取り組もうとしている事業所のスタッフ等を対象に、障害者芸術における利用者支援のポイントや方法を学ぶことをねらいとしたオンラインセミナーを開催した。

労を共有し、支援のあり方について考えることができた。オンラインセミナー等の参加者にアンケートを実施した結果、「支援において『待つ』ことの大切さをあらためて気づかされ、とても興味深い話であった」「特別な画材は必要なく、身近な材料で工夫ができることが分かった。大変有意義な研修であった」等の声が寄せられるなど、概ね好評であった。

今年度の課題と目標

「障害者の芸術作品等の発表機会の確保」「鑑賞機会の拡大」「活動を支える人材育成」を今年度の目標3本柱に位置づけ、芸術文化活動を行う障害者や事業所等への多面的な支援を体系的に実施することをめざした。それとともに、コロナ禍でも障害福祉サービス事業所等の

取り組みを支援するため、創作活動の指導に携わる専門家を講師に招いたオンラインセミナーを開催した。さらに、県内の事業所等が身近な地域で芸術作品を発表・展示できるように展覧会等のイベント開催経費を助成するなど、支援をさらに充実させることをめざした。

今年度の成果と展望

「兵庫県障害者アートギャラリー」において、年4回（計303日）常設展を開催するとともに、県立美術館王子分館「原田の森ギャラリー」大展示室においても特別展を開催し、合わせて5,000人を超える方々に来場いただいた。また県内2ヶ所の劇場等において、障害者が観劇する際に必要な合理的配慮に関する研修を開催し、計63名

に参加いただいた。利用者支援のポイントや方法を学ぶためのオンラインセミナーには43名に参加いただいた。来年度はこれらの成果を踏まえ、障害の有無にかかわらず共に取り組むユニバーサル社会をめざしたイベントとして、「大きな作品」による特別展を開催するなど、さらなる支援に努めていきたい。



「原田の森ギャラリー」内に整備した障害者芸術作品の常設展会場風景



視覚障害者や車椅子利用者に対する鑑賞サポート体験研修の様子

実施一覧

●**発表の機会の確保** [兵庫県障害者アートギャラリー常設展、4/6～3/31（入れ替え4回）] [兵庫県障害者アートギャラリーオープン1周年記念特別展、8/11～8/15] [障害者芸術「する・みる・ささえる」応援プロジェクト作品展示・発表会開催支援事業、合計1回] ●**人材育成** [障害者芸術オンラインセミナー、12/3] [合理的配慮研修、12/6～3/18（合計2回）] ●**相談支援** [事業所等に対する相談支援、合計19回] ●**関係者のネットワークづくり** [ネットワーク会議（障害者芸術・文化祭実行委員会）の開催] ●**情報収集・発信** [ウェブサイトによる情報発信] [県内で芸術文化活動に取り組んでいる施設・事業所の訪問による情報収集]

支援センター運営団体

兵庫県健康福祉部障害福祉局ユニバーサル推進課

「ユニバーサル社会づくりの推進に関する条例」等に基づき、ユニバーサル社会づくりの総合的推進を図るとともに、障害者の就労支援、障害者スポーツ及び芸術文化の振興、コミュニケーション支援等の取組を進め、障害者の自立と社会参加の促進をめざしている。2019（平成31）年4月から「ひょうご障害者芸術文化活動支援センター」を設置し、運営を行っている。

和歌山県福祉保健部福祉保健政策局 障害福祉課（相談支援、人材育成以外）

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL：073-441-2533 FAX：073-432-5567

E-mail：e0404003@pref.wakayama.lg.jp

URL：https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/040400/syogaigeijutu.html



Pick Up! 紀らら感動大賞受賞作品の展示及び全国障害者作品展開催



「全国障害者作品展」展示風景

ねらい 「紀の国わかやま文化祭」に併せて作品展示を行うとともに、障害福祉サービス事業所等を個別訪問し、ワークショップ、イベント、作品応募等の依頼を行った。

また、障害福祉サービス事業所等の芸術文化活動の取り組み状況等を把握することをねらいとしてヒアリングを行った。

内容 全国障害者作品展では、絵画、書道、写真、版画、立体の5部門に計531点の応募があり、県内からは342点の出展があった。和歌山県では4年前から県の障害者作品展がスタートしており、これまで障害福祉サービス事業所等に向けて作品展の周知を行ってきた結果が、今年度の300点を超える応募につながったと考えられる。また来場することが難しい人にも作品展を楽しんでもらうためWEB展を併せて開催した。WEB展には「遠方のため会場に行くことは難しいが、ホームページ上で皆さ

んの作品が見られて嬉しい」といった前向きな意見があった。ふれあいアート体験では、2019（令和元）年度及び2020（令和2）年度の和歌山県障害者作品展「紀ららアート展」で紀らら感動大賞を受賞した作品の展示を行った。障害福祉サービス事業所等に対するヒアリングでは、新型コロナウイルス感染症の予防対策を講じながら、工夫して芸術活動を行っている状況が分かった。

今年度の課題と目標

今年度は「紀の国わかやま文化祭」の一環として「全国障害者作品展」を開催し、全国の障害のある人が制作した絵画など、作品の発表機会を提供することで、文化芸術活動を通じた社会参加を図った。それとともに、障害のある人となない人が交流し感動を分かち合うことにより、障害に対する理解と認識を深めることを目標とした。

今年度の成果と展望

「紀の国わかやま文化祭2021」の実施において、全国障害者作品展を開催した。また、直接来場することが難しい人にも作品展を楽しんでもらおうとWEB展を併せて開催した。さらに「ふれあいアート体験」では、いけ花、ダンボールアート、書道アートのワークショップで制作し

そこで「紀の国わかやま文化祭」における障害者交流事業「見て!感じて!楽しい人形劇」「聴いて♪弾いて♪みんなのピアノ音楽祭」等のさまざまな文化イベントへの参加の呼びかけを行うことで、目標の達成に努めた。

た作品展示と併せて、2019（令和元）年度及び2020（令和2）年度に開催した和歌山県障害者作品展「紀ららアート展」で、紀らら感動大賞を受賞した作品60点を展示した。「紀の国わかやま文化祭」を契機として、今後もさらなる芸術文化活動の普及、推進をめざしていく。



「全国障害者作品展」展示風景



令和元年度及び令和2年度「紀らら感動大賞受賞作品展」

実施一覧

●発表の機会の確保 [全国障害者作品展、11/13～11/20]
[作品展示「ふれあいアート体験（紀らら感動大賞受賞作品展示）」、11/13・14] [全国障害者作品展WEB展、11/26～12/2]

支援センター運営団体 和歌山県

2021（令和3）年10月30日から11月21日に「第36回国民文化祭・わかやま2021」「第21回全国障害者芸術・文化祭わかやま大会（通称：紀の国わかやま文化祭2021）」を開催するなど、県内において障害の有無にかかわらず垣根を超えた芸術文化活動の振興をめざした取り組みを進めている。

和歌山県障害者芸術文化活動支援センター わがらあと（相談支援のみ）

〒649-2102 和歌山県西牟婁郡上富田町岩田2456-1

TEL：0739-34-2808 FAX：0739-47-6645

E-mail：wagara-art@wfj.or.jp URL：https://www.wfj.or.jp/gallery



Pick Up! 出張相談会



出張相談会の会場

ねらい 出張相談会はこれまでも開催してきたが、今年度はより長期間にわたり相談の受付を行う体制とした。具体的には「紀の国わかやま文化祭2021」で当法人が共催した展覧会の会期中、展覧会場に常時相談員を配

置し、相談対応を行った。こうすることで相談者が来場しやすい環境をつくる（会期中の都合のよい日に来ていただける）とともに、展覧会に来た「ついでに相談も」という人の流れをつくるねらいとした。

内容 活動の広報として、県内の行政機関、社会福祉協議会、相談支援事業所、障害福祉サービス事業所、障害児通所支援事業所など、約500ヶ所に開催案内チラシを2回にわたり送付し周知を図った。発送の際は、当センターのリーフレット等も同封し、芸術文化活動普及相談支援事業及び支援センターの役割を知っていただくことにも努めた。実施においては、3会場にて4回（合計

20日間）開催することができたが、結果として顕著な相談件数の伸びにはつながらなかった。ただし、当日、相談会に来場された方には、展覧会に展示されている作品やその創作過程（環境）についても紹介することができ、具体的なイメージを持ち帰っていただくことができたと考えている。相談事例としては、創作環境、発表機会に関するものがあった。

今年度の課題と目標

当センターは相談支援事業のみを行っているため、本年度の目標については「障害者の芸術文化活動に関する相談が増え、解決に至る」とした。相談件数が増え、解決に至ることで、障害者の芸術文化活動の裾野が県内で拡大することを期待した。特に昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、計画していた事業を中止と

したこともあり、相談件数が著しく少なかった。そこで今年度は、いかに実績を積み重ねていくかが重要な課題であった。こうした課題に対応するため今年度は出張相談会の開催に注力し、より長期間にわたり相談の受付を行う体制を整備した。

今年度の成果と展望

今年度の相談件数は17件だった。2017（平成29）年度13件、2018（平成30）年度13件、2019（令和元）年度18件、2020（令和2）年度7件という推移を踏まえれば、目標に対する成果は上げられたと考えている。一方、他都道府県の支援センターと比較すると件数が少なく、ニーズ等の掘り起こしが必要な状況である。今年度は

「紀の国わかやま文化祭2021（第36回国民文化祭・わかやま2021、第21回全国障害者芸術・文化祭わかやま大会）」が開催され、来年度からは、同文化祭での経験や体験を生かし活動を継続するために「きのくに文化月間」が創設される。このような機会を生かし、一層の普及・啓発を図っていく。

令和3年度に登録有形文化財に登録された活動拠点
「ぎやらりーござがわ」

活動拠点「ぎやらりー なかがわ」



活動拠点「はへとぎやらりー」

実施一覧

●相談支援 [出張相談会、10/31～11/7、11/5～11/14、12/4～12/4、1/18]

支援センター運営団体

社会福祉法人和歌山県福祉事業団

法人理念に「普通（ノーマライゼーション）の社会づくり」を掲げ、和歌山県内の3ヶ所にアートギャラリーを開設し、毎年、企画展を開催している。当法人では、より一層の芸術文化活動の発展を目的として、ネットワークの構築、作者・作品の発掘、作品の発信を図りつつ相談支援に取り組んでいる。

ゆめ・やりたいこと実現センター(人材育成のみ)

〒649-6531 紀の川市粉河853-3

TEL：0736-60-8233 FAX：0736-60-8233

E-mail：yumeyaritaikoto.center@gmail.com URL：http://yume-yaritaikoto.jpn.org/



Pick Up! 人材育成研修「一人ひとりのこころの表現を引き出すには？」



紀の川市生涯学習センターの研修会の会場風景

ねらい 人材育成研修会として2回にわたり実施した。1回目のオンラインセミナーでは、先進的な芸術文化活動の実践を行う障害者福祉事業所を招き、その経験や好事例等を紹介していただいた。オンライン開催にすることで、ふだんは遠距離で出向くことができない人も参加できるようにし、コロナ禍でも気軽に参加・交流することで障害のある人の芸術文化活動への関心を高め、今

内容 オンラインセミナーの事例報告では、文部科学省障害者学習支援推進室係長の井口啓太郎氏、「障害をこえてともに自立する会」会長の大久保芽衣氏、身体表現ワークショップの講師・アーティストの大川あじさい氏、社会福祉法人みぬま福祉会「工房集」の宮本恵美氏を講師に招き、お話をうかがった。その後「和歌山県内で

後活動を創出していくための啓発の機会とした。2回目の書道ワークショップでは、障害のある人と一緒に大きな筆を使い、のびのびと書を楽しむ活動をされている書道家を招いた。支援者がワークショップを体験することで、障害のある人と芸術文化活動に取り組む際に大切にする点などを学ぶ機会とした。

芸術文化活動をどう進めていくか」をテーマに、和歌山大学教授の山崎由可里氏と共にそれぞれの報告を踏まえたうえで議論を深めた。書道ワークショップでは、講師として書道家の名倉くみ子氏を招き、これまでの作品や活動風景を写真等で紹介していただいた後、大きな筆で書道体験を行った。

今年度の課題と目標

障害のある人が学校を卒業してからも芸術文化活動に取り組むことは権利であり、多様な個性や価値観を開放し表現していくことも権利である。多様性を認め合い、他者との相互理解を進めるという重要な役割を果たす芸術文化活動を発信させることにより、障害のある人の社会参加を促進し、障害に対する理解促進につなげる。今年度は、全国で芸術文化活動の先進的な実践を行う障害者福祉事業所を招き、その経験や好事例等を紹介していただいた。オンライン開催により、コロナ禍でも気軽に参加や交流をすることで、障害のある人の芸術文化活動への関心を高め、今後活動を創出していくための啓発の機会とした。

今年度の成果と展望

オンラインセミナー（11月30日）の参加者は48名（10名／会場、37名／オンライン、1名別日視聴）だった。参加者アンケートでは、89%の人が「今後、事業所等で活用できる内容や部分はあった」と回答があった。書道ワークショップ（12月3日）の参加者は8名だった。参加者アンケートでは「障害のある人がサポート側になって活動するのは初めてだった。書くときに励ましてくれてとても嬉しかったし、素晴らしかった。一緒に活動できて楽しかった」と障害のある人との活動に前向きな意見が多数寄せられた。全国の芸術文化活動の好事例を学び、ワークショップを一緒に行ったことで、相互理解を進めるための一歩になった。



書道家の名倉くみ子氏を招いての書道ワークショップの様子

実施一覧

●**人材育成** [人材育成研修 オンラインセミナー「一人ひとりのこころの表現を引き出すには？」、11/30] [人材育成研修 書道ワークショップ「一人ひとりのこころの表現を引き出すには？」、12/3]

支援センター運営団体

社会福祉法人一麦会(麦の郷)

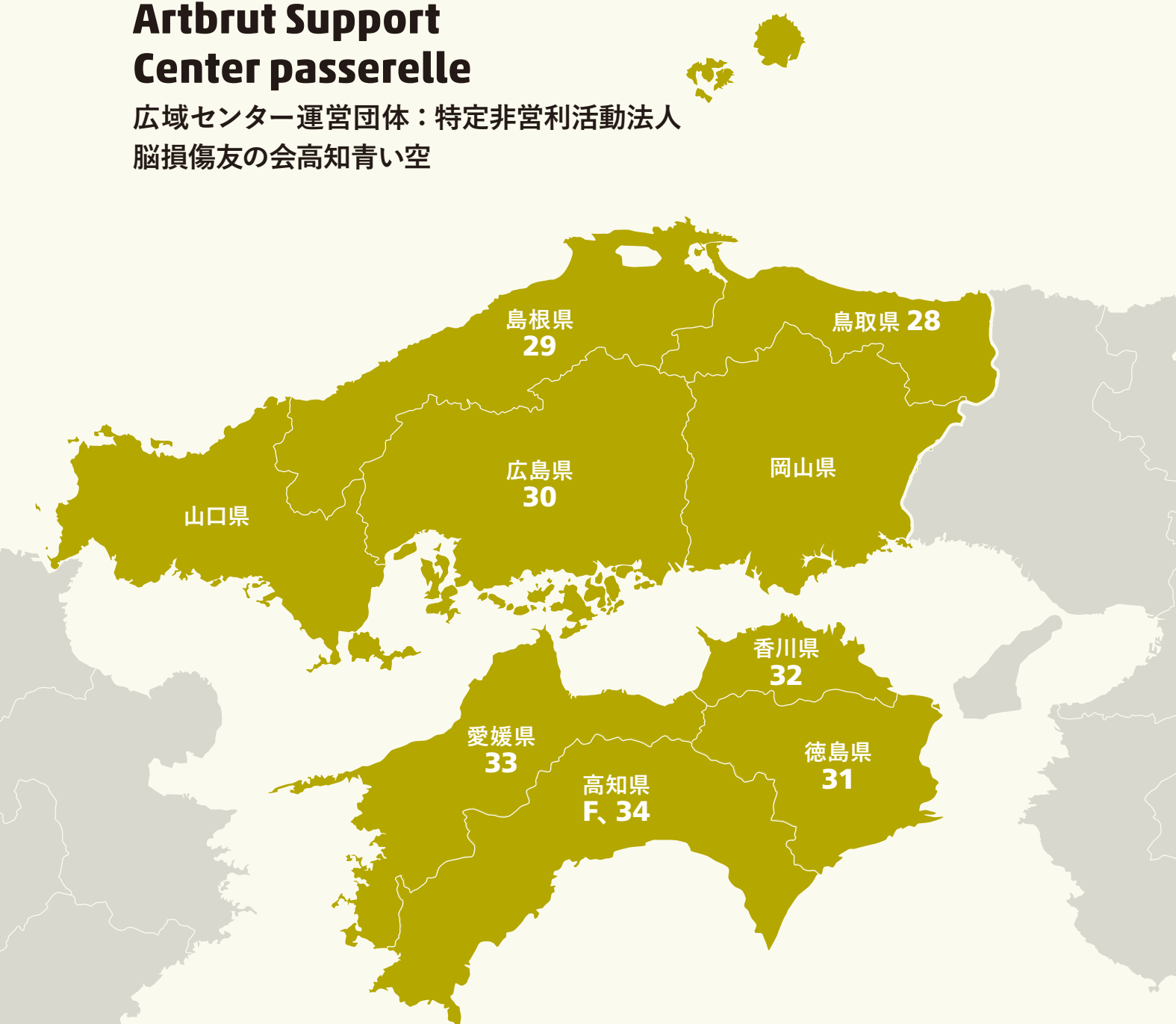
2021(令和3)年度より、文部科学省「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」を受託し、障害のある人が学校を卒業してからも、好きなことや得意なことを新しく見つけ、さまざまな障害のある当事者が自分の人生の主人公になるよう、それぞれの「ゆめ」や「やりたいこと」を実現できるようにサポートをして活動している。

中国・四国ブロック

F 中国・四国

Artbrut Support Center passerelle

広域センター運営団体：特定非営利活動法人
脳損傷友の会高知青い空



ブロック内の状況

新設の香川県を含め、鳥取県、島根県、広島県、徳島県、愛媛県、高知県の7県に支援センターが設置されており、岡山県と山口県は未実施である。広域センターは高知県に設置されている。鳥取県では、県内の芸術団体との連携が進んでいる。島根県の提案で、広域センター会議では合理的配慮がテーマの研修が行われた。広島

県は、舞台芸術にも挑戦するなど意欲的に取り組んでいる。センターが立ち上がった香川県は、資金調達が課題である。徳島県は、県外の作品紹介にも注力している。愛媛県は、舞台芸術の情報保障にも取り組んだ。高知県は、演劇公演等を通じて鑑賞と創作に注力した。岡山県と山口県は、県独自の取り組みを続けている。

鳥取県

担当課：福祉保健部ささえあい福祉局障がい福祉課社会参加推進室

28 あいサポート・アートセンター

支援センター運営団体：特定非営利活動法人アートピアとっとり

岡山県

担当課：保健福祉部障害福祉課障害福祉企画班

島根県

担当課：健康福祉局障害者支援課

29 島根県障がい者文化芸術活動支援センター アートベースしまねいろ

支援センター運営団体：社会福祉法人いわみ福祉会

広島県

担当課：健康福祉局障害者支援課

30 広島県アートサポートセンター

支援センター運営団体：認定特定非営利活動法人コミュニティリーダーひゅーるぼん

山口県

担当課：健康福祉部障害者支援課

徳島県

担当課：未来創生文化部ダイバーシティ推進課

31 徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

支援センター運営団体：社会福祉法人徳島県社会福祉事業団

香川県

担当課：健康福祉部障害福祉課

32 香川みんなのアート活動センター KAGAWA MOVES

支援センター運営団体：NPO 法人音楽療法グループ WALKS

愛媛県

担当課：保健福祉部生きがい推進局障がい福祉課

33 愛媛県障がい者アートサポートセンター

支援センター運営団体：社会福祉法人愛媛県社会福祉事業団

高知県

担当課：子ども・福祉政策部障害福祉課

34 藁工ミュージアム 分室

支援センター運営団体：特定非営利活動法人ワークスみらい高知

中国・四国 Artbrut Support Center passerelle

〒780-8014 高知県高知市塩屋崎町2-12-42
TEL: 088-803-4100 FAX: 088-803-4420
E-mail: passerelle@blue-sky-kochi.com URL: https://asc-passerelle.com/



Pick Up! 「イマココ」を発信できる、ビデオ技術「ビデオ・プリゼント」



「ビデオ・プリゼント」のホームページ

ねらい コロナ禍においても継続できる発表形態の開発と、障害者に関わる機会の多い支援者に記録や編集に関わるメディアリテラシーを伝え、障害の有無にかかわらず撮影・編集・発信することをめざした。講師に会田大也氏（山口情報芸術センター YCAM）を迎え、支援者等が一方的に難しいと考えてしまっている映像制作に関する技

術を実践的に伝えた。参加者は学んだ技術により、自己表現を実現する、日常を発信する、社会との接点を増やせるようになることをめざした。さらに、障害の有無に関係なく社会参加できる機会を多方面に創出し、誰もがさまざまなチャンスにつながることをねらいとした。

内容 障害のある当事者及びその支援者（保護者や施設の職員）に対して、最もシンプルな映像作成手法を用いて短編ビデオ作品を作成する方法を伝えた。参加者は、自身のスマホやタブレットを使って「身の回りにある日常の何気ない風景」や「つつい注目してしまうものごと」を撮影し、ビデオ作品を制作した。さらに制作されたビ

デオ作品を発表する専用ウェブサイトを作成し、一般の方も閲覧できるようにYCAMの特設サイトにて公開している。今後の展望として「ビデオプリゼント」の企画を足がかりに「障害者による障害者のための映画カルチャーのエビデンスを構築するための事業」を例年の事業と並行して開始させることを企画している。

今年度の課題と目標

芸術文化活動の意義が周知されることを主目的とし、事業を実施した。芸術文化活動は、狭義の美術品制作・舞台芸術発表にとどまらず、ふれる人の世界を広げるもの全てを指すと考えている。これらはふだんの生活の中にも数多く存在し、特に障害のある人の生活の中には多くの不思議な行為や面白い行為が存在する。それらの行

為に対して新たな価値を見出すことは、生産性や効率性だけでは説明できない、その人自身にある価値を分かりやすく説明することにつながると考えるため、共生社会実現に向けての大きな足掛かりとなることを目標として取り組んだ。

今年度の成果と展望

コロナ禍によりブロック内の連携が取りづらい状況であったが、広域センターが中国・四国ブロックに設置されてから2年が経過し、各県の状況の詳細が把握できつつある。また、各支援センターとの意思疎通が円滑にとれるようになった。成果としては、2020（令和2）年度には相談のなかった支援センターからも本事業における相談

をしてもらえるようになった。引き続き、障害者芸術文化活動に関わる障害当事者及び支援者への支援を効果的に届けることができる広域センターをめざす。また、各支援センター同士が情報交換できやすい環境設定の構築を目標とする。



辻野さんが作成したカッター机

「なんでそなんエキスポ VOL.2」に会場した辻野さんとキュレーター滝沢さん

実施一覧

●芸術文化活動に関するブロック研修〔講義（オンライン）「記録の仕方（写真の撮り方について）、8/3」●ブロック内の連携の推進〔ふらっと FLAT（定期的に zoom を開設。自由に出入りができる連携の場を構築）、10/15 ～ 2/21（合計3回）〕●各支援センターに対する支援〔講義（オンライン）「なんでそなん講座（支援の新機軸の獲得について）、11/8」〔講座（オンライン）「文化芸術における情報保障について」講師：山上庄子、3/14〕●発表の機会の確保〔ビデオプリゼント（障害を持つ参加者、そしてその保護者や支援者のみなさんへ、映像制作の技術を手渡すプログラム）、1/12 ～ HP 継続中〕

支援センター運営団体

特定非営利活動法人 脳損傷友の会高知 青い空
脳損傷で高次脳機能障害を持つ者及びその家族に対して、高次脳機能障害についての正しい知識の普及、さらに当事者の社会参加を促進するための事業等を実施するとともに社会への理解を広めるための活動を行うことにより、高次脳機能障害者が安心して生活できる社会環境づくりに寄与することを目的としている。

あいサポート・アートセンター

〒682-0821 鳥取県倉吉市魚町2563

TEL：0858-33-5151 FAX：0858-33-4114

E-mail：info.artcenter@ncn-k.net URL：https://art-infocenter.jimdofree.com/



Pick Up! 鳥取県は一とふるアートギャラリー合同作品展「は一とをふるわせて」 関連トークイベント「ゆるり〜と〜く」



鳥取県は一とふるアートギャラリー合同作品展「は一とをふるわせて」西部地区展示会場

ねらい 「鳥取県は一とふるアートギャラリー」とは、障がいのある人のアート作品を県民が気軽に鑑賞できる県認定のアートギャラリーである。本事業は、この認定制度や鳥取県内における障がいのある人の文化芸術活動に対する認知度向上、県内作家が制作した優れたアート作品の魅力の発信、認定ギャラリー同士のつながりの強

化を目標として実施した。鳥取県は横に長く、認定されているギャラリー同士が東西に離れているため、情報交換の機会が少ない、ギャラリー同士の連携が取りづらいといった課題点もあることから、そのような課題を解消することも事業のねらいとした。

内容 4つの認定ギャラリーで活躍するアーティストの作品80点程度を、県西部、東部、中部へと巡回展示した。展示会の広報は、鳥取県が開催する「あいサポート・アートとっとり祭」や鳥取市と商店街等が開催する「フクシ×アートWEEK」と連携して行うなど集客に努めた。アンケートでは「とてもいいアートで元気が出ました」「大変良好な雰囲気に感動しました」等の感想が寄せら

れた。また、展示会の関連企画として意見交換会「ゆるり〜と〜く」を開催した。一般参加者の課題解決につながただけでなく、各ギャラリーの方々も熱心に情報交換される姿が印象的だった。併せてこの意見交換会の様子与各ギャラリーを紹介したフリーペーパーを作成し、広く県民の方々に活動を伝えた。

今年度の課題と目標

当センターは、2023（令和5）年度までに展示会の年間来場者数7,000人を目標としている。これまでは県内外の作品を紹介する企画展を開催し、障がいのある人の優れた芸術性にふれる機会を継続的に提供することに力を入れてきた。しかし、コロナ禍で県外作品を紹介する展示会の企画が困難となり、集客も大きな課題となった。そ

今年度の成果と展望

今年度は県内作家の展示会を3回、県外作家の展示会を1回開催し、巡回展を含め約1,700人の来場があった。来場者数は昨年度より減少したが、アンケートの9割以上に肯定的な評価が見られ、来場者の大半が県内だったことから、県民の活動への関心・理解が一定程度促進されたと考える。また、相談支援事業の課題を解決する

こで今年度は、県内の作家と作品を紹介する展示会を中心に企画し、県内における障がいのある人の文化芸術活動に対する関心がより高まることを目標とした。相談支援事業では、県内で活動を行う人たちの横のつながりが希薄で、悩み等を共有できる場がないという課題を踏まえた企画を立案し、各々の困り事の解決をめざした。

ために「鳥取県は一とふるアートギャラリー」と連携し、日々の困り事等を参加者が気軽に相談できる意見交換会を開催した。実施後のアンケートから、参加者の困り事の解決のきっかけになったことが分かり、一定の成果があったと判断している。今後も各ギャラリーと連携をして事業内容の充実を図っていきたい。



とりぎん文化会館での「東部地区巡回展」展示風景

当センター運営の美術館「くらしアートミュージアム無心」での展示風景

実施一覧

●**情報収集・発信** [企画展「れもん徳島アートスタジオ作品展 カモン！ イエス！ レモン！」、4/17～6/24] [企画展「特定非営利活動法人 十人十色作品展 再生可能だ！ アートの奇跡!! ～SDGs 捨てられる物たちに命を吹き込んで～」、7/10～8/9] [企画展「鳥取県は一とふるアートギャラリー合同作品展 は一とをふるわせて」、10/15～1/16] [企画展「鳥取県立倉吉養護学校作品展 宇宙の惑星のように輝け」、10/23～11/14] ●**人材育成** [鳥取県立倉吉養護学校ワークショップ「プロから学ぼう」、7/13、※オンライン、10/1] [フクシ×アートWEBフォーラム 福祉を変えるアート化セミナー「異彩を、放て。」、11/14] [貸館展示「I know 才能展 vol.03」、11/23～11/29] ●**相談支援** [鳥取県は一とふるアートギャラリー合同作品展 関連トークイベント「ゆるり〜と〜く」、11/3]

支援センター運営団体

特定非営利活動法人アートピアとっとり

あたかなまちづくりをテーマに、地域と共に多様な文化・芸術活動及び福祉活動に関する事業を行い、社会全体の利益の増進に寄与することを目的として活動している。障がいのある方の文化芸術活動の拠点である支援センターを運営するとともに、障がい者アートの美術館「くらしアートミュージアム無心」の運営も行っている。

島根県障がい者文化芸術活動支援センター アートベースしまねいろ

〒695-0024 島根県江津市二宮町神主1964番地31

TEL: 080-5756-3225 / 0855-54-3100 FAX: 0855-54-3101

E-mail: artbase@shimaneiro.jp URL: https://shimaneiro.jp/



Pick Up! ①令和3年度 島根県障がい者アート作品展 WEB展2021 ②令和2年度 島根県障がい者アート作品巡回展 in グラントワ



初めての巡回展「令和2年度 島根県障がい者アート作品巡回展 in グラントワ」の展示風景。
障がい者アートと県内アールブリュットとの展示を行った

ねらい ①毎年、障害者週間に開催してきたアート作品展だが、今年度は会場の改修工事のため使用できないこと、コロナ禍が続いていることを考慮し、開催の可否・開催方法・審査の有無など根本から企画を考える必要があった。協議を重ね、コロナ禍でも創作意欲や機会を失うことなく表現する喜びを感じ合うことをテーマとし、ホームページ上でWEB展覧会を行った。「障がい者アート作品展」は専門家らによる審査を行い、受賞者や応募

内容 ①「令和3年度 島根県障がい者アート作品展 WEB展2021」は応募作品数が350点あり、WEB展最優秀賞5作品、優秀賞15作品、奨励賞20作品を選出し、ホームページ内で全作品と審査員講評を公開した。

者らに講評やメッセージを発信した。主催者としては、審査を取り入れたWEB展覧会を行い続けることをねらいとした。
②「障がい者アート作品展」を見に行くことができない遠方の人にも作品を見ていただく機会として、前年度の受賞作品を中心とした巡回展を行い、巡回展を毎年、アート作品展と付随する事業に位置づけることをねらいとした。

②「令和2年度 島根県障がい者アート作品展 in グラントワ」では、令和2年度 of 受賞作品35点と、島根県のアールブリュット作品13点を展示した。本展の巡回展を県西部で初開催し、次年度以降の本展と巡回展のモデルとした。

今年度の課題と目標

今年度の課題と目標は次の5点。①コロナ禍でも島根県障がい者アート作品展を開催する。②障がい者アート作品展の一部を巡回展として開催することで、主会場より離れている地域でも鑑賞できる機会を確保する。③当事者の発表や展示機会を確保し、地域における障がい者の文化芸術活動を知ってもらう機会とする。④県内

今年度の成果と展望

課題と目標の①では、WEB展覧会を通して応募者の自由な発想と豊かな表現力を多くの人に知ってもらう機会となった。②では、展覧会に足を運びづらい遠方の人には作品を見る機会を提供できた。今後も毎年、巡回展を行うことで、より障がい者アートを知っていただく機会として事業を位置づけることが期待できる。③と⑤では、当

の障がい者による舞台芸術活動や鑑賞支援の状況について、障害福祉サービス事業所や特別支援学校、コミュニティ施設、文化施設を対象にアンケート調査を行い、集計分析及び考察を行う。⑤相談対応や企画を通して、障がいのある人の文化芸術活動を支援する関係者とのネットワークを構築する。

支援センターと文化施設が連携し、独自の舞台芸術の発表や参加体験型の企画を実施できた。出演者や関係者とのネットワークの広がりが期待でき、毎年実施することで市民が関心を寄せるきっかけとなる事業としたい。④のアンケート調査を通して、より地域レベルに着目した支援活動を行う必要性を認識できた。



障がい者とのテーマトークを通して体験した講座「表現するよろこび」(講師：坂本文江氏)

イベント「にぎやかな日々」では、地域の障がい児・者のアート作品展示と支援者らによる物品販売を行った

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●発表の機会の確保 [江津市障がい児・者アート作品展、4/28～6/21] [音楽祭「にぎやかな日々」、5/23] [島根県障がい者アート作品展2020巡回展 in グラントワ、11/5～11/7] [島根県総合美術展との連携企画・障がい者アート作品の展示、11/22～11/27] [令和3年度島根県障がい者アート作品展WEB展、12/1～12/31] ●情報収集・発信 [島根県立図書館とのタイアップ事業、9/3～10/6] [令和2年度島根県障がい者アート作品展作品集刊行、合計1回] [障がいのある人の舞台芸術活動と鑑賞支援に関するアンケート、合計1回] ●人材育成 [島根県立図書館とのタイアップ事業「テーマトーク」表現するよろこび、] ●関係者のネットワークづくり [専門家アドバイザー定期相談会の実施] [島根県障がい者ア

ト作品展実行委員会の実施] [県障がい者文化芸術活動推進連絡協議会の実施] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [専門家アドバイザー定期相談会、合計2回] [島根県障がい者文化芸術活動推進連絡協議会、合計2回]

支援センター運営団体 社会福祉法人いわみ福祉会

島根県西部に位置する本福祉会は、知的障がい者を主とする障害者支援施設 桑の木園を中心に運営を開始した。現在では障がい種別を問わず、児童から高齢まで幅広く障害福祉サービスや介護サービス事業を展開している。伝統芸能である石見神楽が盛んな地域であり、いわみ福祉会芸能クラブは、当事者の生涯学習の一つとして活動している。

広島県アートサポートセンター

〒731-0102 広島県広島市安佐南区川内6-28-15

TEL：070-5671-8668 FAX：082-831-6889

E-mail：hululu@hullpong.jp URL：https://hululu.jp/



Pick Up! 新たな出会いセミナー&ワークショップ



「身体表現セミナー&ワークショップ」の様子

ねらい 舞台芸術分野において、障がいのある人が参加できる現場が少ないことから、各現場で障がいのある人が多様な文化芸術活動に取り組めるようになることをめざし、福祉施設・事業所のスタッフや障がいのある人の生活を支える支援者、表現活動に興味のある方を対象に、演劇表現や身体表現の取り組みを紹介し、多様な表

内容 身体表現セミナー&ワークショップでは、講師に玖島雅子氏（ART COMPLEX HIROSHIMA代表）を招いた。ART COMPLEX HIROSHIMAの活動や身体表現に取り組む意義、効果について説明いただき、身体で自分の気持ちを表現すること、道具を通して他者とコミュニケーションすることを楽しんだ。演劇セミナー&ワークショップでは、岩崎さえ氏と坂田光平氏（ともに一般社団法人舞台芸術制作室無

現活動を通しての変化や効果について学ぶ機会を提供した。その後、障がいの有無にかかわらず、自主的に表現活動に参加できる場を設け、作品制作の楽しさや発表後の達成感を感じるとともに、現場で多様な表現に取り組むイメージや可能性に気づき、各現場の今後の取り組みにつながるヒントを得た。

色透明)をファシリテーターとして招き、セミナーとワークショップを実施した。他者対話するときの心地よい視線を探し、福祉現場の一部をエピソードとして演じることで、一つの作品を他者とつくりあげていく過程の楽しさや作品発表後の達成感を体験した。また、支援する側、される側の気持ちも知ることができ、福祉現場に演劇を取り入れる一つの効果を感じた。

今年度の課題と目標

舞台芸術分野については、体験したことがないゆえに「どんなものかわからない」「どのように支援していいか想像できない」という福祉施設・事業所や団体がある。こうした状況から、舞台表現分野の多様な芸術活動とその取り組みを広く紹介するとともに、活動をインキュベートすることを通して広島県における芸術の多様性を広げ

今年度の成果と展望

舞台表現分野では、「発表」という目標に向かい、参加者一人ひとりの表現や考えを共有しながら作品をつくりあげていく楽しさや作品を表現し終えたときの達成感を体験できた。発表後、「職場でも取り組んでいきたい」「また参加したい」という発言があり、個性と能力の発揮と同時に、芸術活動の多様な効果や現場に生かせる可



演劇セミナー&ワークショップ「演劇×福祉でできること みえること」

た。美術分野については、支援、取り組みに対するニーズが多い。そこで、支援を引き続き行い、環境ゆえに情報や支援が届きにくい方への情報提供と支援協力、支援者のネットワークづくり、鑑賞支援のあり方の検討など従来の取り組みを深化させ、より一層、表現活動への参加を促進した。

能性を感じてもらえたと考えている。この気持ちの高まりを次の支援につなげていきたい。美術分野では、福祉施設・事業所50ヶ所に画材支援を実施した。創作活動を始める施設・事業所24ヶ所からの申し込みもあり、報告書から裾野の広がりを知ることができた。今後も社会と現場のニーズを読み取りながら支援を続けたい。



「演劇ワークショップ」実施風景。高齢者施設を題材に作品を制作した

実施一覧

●**人材育成** [アートセミナー「ここだけは押さえておこう 作品撮影の基本のき」、7/31「ここだけは押さえておこう 紙、水彩絵具の基本のき」、8/7] [オンラインセミナー「アートとフクシのコラボーション〜ときどきキョーイク」、11/27「障がいのある方の意思決定支援を考える〜あなたの『やりたい』を真ん中に〜」、1/22] ●**発表の機会の確保** [助成事業「アートの巣箱」、8/1～3/31（合計3回）] [オンラインギャラリー「1枚の絵をきっかけに〜はじまることば〜はじまる写真」、2/3～3/31] ●**相談支援** [福祉施設への専門家派遣、8/5・12/8] ●**その他** [みんなで楽しむおしゃべり鑑賞会〜君の見方で絵をみよう、10/16] [身体表現セミナー&ワークショップ「ほぐすつながる 表現あそび」、11/20・12/11] [遠隔ロボットを使った鑑賞ワークショップ、3/10] [福祉施設・事業所への画材支援プログラム、3/14～3/31] [演劇セミナー

&ワークショップ「演劇×福祉でできること みえること」、3/17・3/18] ●**関係者のネットワークづくり** [おしゃべり座談会（オンライン）、合計4回] ●**情報収集・発信** [ウェブサイト・SNS等による情報発信]

支援センター運営団体

認定特定非営利活動法人コミュニティリーダーひゅーるぽん 1981年に任意団体として発足。2001年よりNPO法人になり、2018年3月には認定NPO法人として活動。児童福祉施設児童発達支援センターの運営、就労継続支援B型事業所の運営を行うほか、障がい者アートによる街づくりの事業、ボランティアの育成事業（福祉教育の一環としてのボランティアの受け入れ・育成事業等）を行っている。

徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

〒770-0005 徳島県徳島市南矢三町2-1-59 徳島県立障がい者交流プラザ1階

TEL：088-631-1200 FAX：088-631-1300

E-mail：t-geibun@kouryu-plaza.jp URL：http://kouryu-plaza.jp/gb-center/



Pick Up! 全国公募「Tシャツデザイン展」～夏の空をTシャツで彩ろう～



「Tシャツデザイン展」での展示の様子（徳島県立障がい者交流プラザ）

ねらい 2020（令和2）年、徳島県立障がい者交流プラザに、障がい者の制作した作品を常設展示するための「プラザギャラリー」が開設され、その記念として、県内の障がいのある人たちの制作した記念作品を展示した。今年度は、その第2弾として、全国公募「Tシャツデザイン展～夏の空をTシャツで彩ろう～」をテーマに、全国か

内容 ホームページ・SNSで募集情報を発信するとともに、徳島県内の福祉事業所、特別支援学校、全国の支援センターに作品募集の案内を送付した。その結果、全国各地より425点の応募があった。全応募作品を徳島県立障がい者交流プラザ内のプラザギャラリーの玄関ホール及び階段室に、8月13日から9月29日まで展示をし

ら作品を募集し、展示することを企画した。県内外から広く作品を募集し展示することで、プラザギャラリーの利用と周知を目的とした。また、他会場で巡回展を開催することにより、障がい者芸術の素晴らしさを広く知ってもらい、障がい者の社会参加の一助になるように計画した。

た。また大学教授、県立美術館学芸員による審査を行い優秀賞を選出した。選出された5作品については、Tシャツにプリントして展示するとともに、賞に選ばれた作家には表彰状と記念品を贈呈した。さらに徳島県立総合福祉センターにおいて、10月12日から10月24日まで巡回展を開催した。

今年度の課題と目標

障がい者芸術文化の振興は、活躍の場の創出や社会参加の意欲向上につながるとともに、芸術文化活動を通じた障がいのある人となない人の交流による障がい者理解の促進など、社会的にも大きな意義がある。特に、現在のコロナ禍の状況では、多くの方々が気兼ねなく参加できる新たな方策を企画・実行することが大切になっている。今

今年度の成果と展望

障がい者の活躍・作品発表の場として、全国公募「Tシャツデザイン展」と「障がい者アーティストの卵発掘展」で作品を募集し、展覧会を開催した。多くの方に参加・観覧していただき、障がい者芸術への理解を促進することができた。また、センターのホームページ上で展覧会を閲覧できるように工夫するとともに、SNSでの情報発信

東京2020パラリンピック聖火フェスティバル
「出立式」(徳島県教育会館)

実施一覧

●相談支援 [相談記録簿の作成、4/1～3/31（合計17回）] ●情報収集・発信 [ホームページ・SNSによる情報発信、4/1～3/31（合計112回）] [アンケート調査 ※対象：県内福祉事業所・特別支援学校、5/1～7/30] [PICFA「アートの仕事展」、2/10～2/27 徳島県立近代美術館学芸員による展示解説、2/11 ゲスト・トーク、2/19] ●発表の機会の確保 [プラザギャラリー貸出、4/1～3/31（合計3回）] [東京2020パラリンピック聖火フェスティバル「出立式」、5/29～8/14] [全国公募「Tシャツデザイン展」、8/13・10/24] [第7回「障がい者アーティストの卵」発掘展、9/1～9/5 同展受賞作品展、10/9～1/10] [コーヒークップ絵付けワークショップ、10/27] [数学・美術・福祉のコラボ企画「タンграмで絵本をつくろう」、3/13（合計2回）※延期] ●関係者のネットワークづくり [訪問調査、5/6～3/8（合計26回）] [企画委員会、10/5・3/29（合計2回）] ●人材育成 [障がい者アート活動支援のためのワークショップ「視察研修」、11/10「ボディランゲージ遊

年度は福祉施設の行事等の実施状況についてアンケート調査をした結果をもとに、「展覧会」と「障がい者アート活動支援のためのワークショップ」においてWEBの活用を図った。さらに、本事業における目標の達成をめざすとともに、徳島県の障がい者芸術文化活動のさらなる振興を図り、障がい者の自立と社会参加を推進した。

も行った結果、より多くの方々に見ていただくことが可能となった。また「障がい者アート活動支援のためのワークショップ」では、県内外の福祉施設関係者や利用者の方々に参加していただき、多くの成果を上げることができた。今後もWEBの活用を積極的に進めていきたい。

「美術館を体験しよう!ユニバーサル美術館展見学」
(徳島県立近代美術館展示室)

学のススメ)(オンライン)講師：庄崎隆志氏、11/12「身近な材料で楽しむ染色」講師：亀井幸子氏、11/20・11/24「美術館を体験しよう!ユニバーサル美術館展見学」講師：竹内利夫氏、12/25] ●その他 [子ども向けの音楽活動の研修「音楽ミーティング」、12/10～3/4（合計4回）] [音楽講座「音のシャワー」、12/19～3/23（合計5回）]

支援センター運営団体

社会福祉法人徳島県社会福祉事業団

1972（昭和47）年の設立以来、福祉施設の経営とともに福祉ニーズに応じた専門的なサービスを提供するとともに、障がい者のスポーツ、芸術・文化活動の事務局を担うなど多彩な事業も積極的に展開している。これまで積み上げてきた信頼を財産とし、地域共生社会の実現に向け牽引役をはたしていく。また、県施設の指定管理業務等も行っている。

香川みんなのアート活動センター KAGAWA MOVES

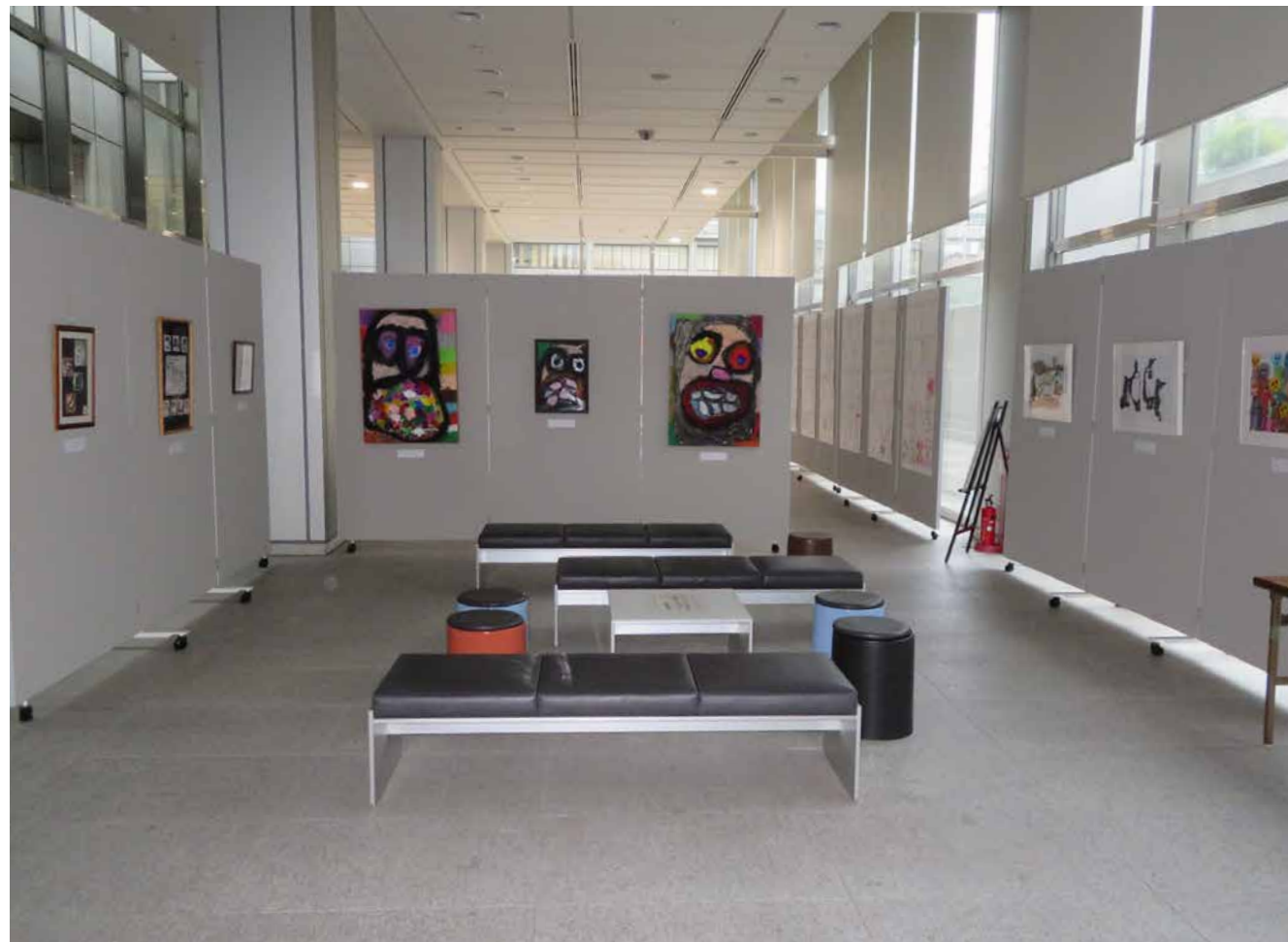
〒761-1703 香川県高松市香川町浅野1032-6

TEL：087-880-1559 FAX：087-880-1559

E-mail：kagawamoves@mc.pikara.ne.jp URL：https://www.kagawamoves.com/



Pick Up! 巡回展「香川県障害者芸術祭2019受賞者作品展」 巡回展「みんなの《あまり》知らない世界」展



「第1回巡回展（香川県庁ロビー）」で「香川県障害者芸術祭2019受賞者作品展」を開催

ねらい 2021（令和3）年4月に香川県の障害者芸術文化活動支援センターとして、香川みんなのアート活動センター KAGAWAMOVESを設置し、障害者の文化芸術に対する支援を開始した。KAGAWAMOVESの認知度の向上

内容 巡回展「みんなの《あまり》知らない世界」展は、3月15日～4月10日の約4週間にわたり、香川県立図書館の1階閲覧室展示コーナーで開催した。県民が多く利用する県立図書館の展示コーナーで、「香川県障害者芸術祭2019」の手芸部門受賞作品を中心にさをり織りのポーチ等の小物やフェルトでつくった子ども向けおも

と障害者の制作した作品の発表を通じて障害への理解を促すことを目的に、巡回展「香川障害者芸術祭2019受賞者作品展」及び巡回展「みんなの《あまり》知らない世界」展を開催した。

まごとセット等を展示した。今回の巡回展は、香川県発達障害者支援センター「アルプスカガわ」と合同主催としたことから、発達障害についての書籍や補助具等の各種資料も併せて展示した。巡回展の開催により、障害のある人の作品発表の場をつくるとともに、幅広く県民にその素晴らしさを伝えることができた。

今年度の課題と目標

KAGAWAMOVES設置の初年度にあたる今年度は、令和2年度に地域に応じた障害者の文化芸術活動の支援体制を検討するために開催した障害者芸術文化活動支援体制検討委員会が出された、「相談するところがない」「障害者の文化芸術活動の情報が少ない」「作品を制作する機会や展示する機会及び場所がない」等の意見を一

今年度の成果と展望

KAGAWAMOVESのホームページには障害者本人や支援者からの相談が寄せられ対応した。また県内外の文化芸術活動に関する情報の収集と発信を通して、作品の発表の機会や鑑賞の機会を提供することができた。また、巡回展を2回にわたり実施したことで、作品の発表の機会を創出した。そのほか、美術館で鑑賞会を開催

つひとつ丁寧に検討することを課題とした。障害者等の文化芸術活動を支援するために、相談窓口の設置、県内外の文化芸術活動に関する情報の収集・発信、障害者の文化芸術活動支援団体等とのネットワークづくり等を目標に、運営を進めた。

し、障害者が芸術にふれる機会の確保に努めた。さらに関係者のネットワークづくりを推進するために会議を4回開催し、関係機関の連携強化を行った。こうした活動を通じて、今後とも県内の障害者の文化芸術活動の促進を図っていく。



ことなみ未来館で「山の小さな展覧会」を鑑賞

「第2回巡回展（香川県立図書館）」で「みんなの《あまり》知らない世界」を開催

実施一覧

●**発表の機会の確保**〔巡回展「香川障害者芸術祭2019受賞者作品展」、8/16～8/27〕〔巡回展「みんなの《あまり》知らない世界」、3/15～4/10〕●**その他**〔文化芸術作品の鑑賞会in香川県立ミュージアム、12/16〕〔「文化芸術作品の鑑賞会inことなみ未来館、3/18」〕●**関係者のネットワークづくり**〔香川みんなのアート活動センター運営委員会（通年、合計4回）〕●**相談支援**〔相談事業（オンライン）、通年〕●**事業評価及び成果報告のとりまとめ**〔令和3年度事業報告書〕●**情報収集・発信**〔障害者の文化芸術活動状況個別調査、通年〕〔ホームページ上で県内外の表現活動に関する情報の収集・発信、合計74回〕

支援センター運営団体

NPO法人音楽療法グループ WALKS

ハンディのある人が参加している音楽グループ。結成は1992（平成4）年で、香川県内をはじめ西日本を中心に公演等の活動をしてきた。2015（平成27）年にNPO法人を取得し、生活介護や就労継続支援B型の障害福祉サービス事業所を運営するなど活動の幅を広げている。

愛媛県障がい者アートサポートセンター

〒790-0843 愛媛県松山市道後町2-12-11（愛媛県身体障がい者福祉センター内）
 TEL：089-924-2170 FAX：089-923-3717
 E-mail：art-support@ehime-swc.or.jp
 URL：https://www.ehime-swc.or.jp/facility/art-support/index.html



Pick Up! 障がい者アートデザインコンペ



「障がい者アートデザインコンペ」ワークショップ風景
 障がいのあるアーティスト、デザイナー、協賛企業が参加しアイデアを練った

ねらい 障がい者やその関係者は作品が収入に結びつくことを願い、障がい者アートを活用した商品を自主ブランドとして製造・販売している。しかしその多くは、バザー等において福祉的な協力の意味合いで販売・購入されるに留まっており、製造・販売のノウハウを持たない方々も大勢おられた。そこで協賛企業（以下、企業）の協

内容 今治タオル工業組合からタオル部門3企業、クッキー部門1企業、アーティスト35人、デザイナー10人の応募があり、タオル部門18チーム、クッキー部門17チームを編成した。デザイナーは2部門及び複数のアーティストを担当した。事前説明会、ワークショップ、審査会を行い、タオル部門から3つ、クッキー部門から1つのアイデアが採用された。各々が企業と契約し、ブラッ

力のもと、障がい者アートを活用した商品化及び一般市場での販売をめざすこととし、企業の設定した課題（企業が扱っている商品等）に対して障がい者とデザイナーがチームを組み、ワークショップでアイデアを創出し、企業等が審査・評価を行う障がい者アートデザインコンペを新たに開催した。

シュアッスを重ね、6つの商品が一般市場で販売された。企業からは「来年度以降も契約したい」、デザイナーからは「障がい者アートがたんなる材料としてではなく、才能として世の中に気づいてもらえ、きちんと収益にもつながる仕組みになることを強く願う」等の感想が寄せられた。

今年度の課題と目標

障がい者アートを活用した商品化をめざし、障がい者とデザイナーがチームを組み、商品開発をするワークショップ「48時間デザインマラソン」を2017（平成30）年から開催してきた。デザイナーが障がい者アートと出会い、障がい者アートが二次利用され収入に結びつく事例も生じている。しかし、参加チームが2017（平成30）年か

今年度の成果と展望

人材育成事業では、講演会（講師：中津川浩章氏）の参加者から「表現に至るプロセスは人それぞれ違い、アートは生きる意欲、豊かさにつながる。これからの支援に取り入れていく」等の感想があった。外部指導者派遣事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により参加数は4団体、個人4名だったが、障がい者と指導者の共創による創作

ら2019（令和元）年までは7チームだったのに対し、2020（令和2）年は4チームだった。その理由として、アイデアの創出に留まり、商品化に直接つながっていないことが考えられた。そこで今年度は、支援者の育成と活動支援だけでなく、商品化支援として企業の協力のもと2つの商品化をめざした。

劇2作品を演じた事業所もあった。商品化支援事業では、企業4社、障がい者35名、デザイナー10名の参加があり、4つのアイデアが採用され、6つの商品が企業により販売された。次年度もより多くの障がい者が芸術文化活動に取り組めるための基盤づくりと障がい者の自立と社会参加の促進を図るための支援を積み重ねていく。



「外部指導者派遣」創作劇
 （原作：事業所利用者、脚本：外部指導者）の舞台風景

合唱や演奏等のステージ発表を撮影し、YouTubeで配信した「障がい者芸術文化祭～こころ集まれ2021～」

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●発表の機会の確保 [身体障がい者福祉センター作品展示、4/1～3/31（合計7回）] [テクスポート今治 作品展示、6/3～3/31（合計2回）] [障がい者芸術文化祭～愛顔（えがお）ひろがる えひめの障がい者アート展～]、12/2～12/12 [障がい者芸術文化祭～こころ集まれ2021～（YouTube配信）、12/15～3/31] ●人材育成 [「障がい者アートデザインコンペ」事前説明会、6/8 ワークショップ、6/14 審査会、7/5 表彰式・報告会、10/22] [外部指導者派遣事業（個人を対象に絵画教室の実施）、10/14～12/20（合計3回）] [外部指導者派遣事業 ※舞台芸術分野、11/16～12/14（合計3回） ※美術分野、11/18・12/9、12/3～12/15（合計3回）] [講演会「障がい者アートの可能性」講師：中津川浩章、11/9] [作品展示研修、11/27～11/28] ●情報収集・発信 [ウェブサイト・SNS等による情報発信]

支援センター運営団体

社会福祉法人愛媛県社会福祉事業団

愛媛県の100%出資により設立された公共性の高い社会福祉法人で、障がい者支援施設をはじめとする7つの直営施設、4つの県営施設、3つの公益事業所を運営している。障がい者等が自立した生活を営むことができるよう生活支援や訓練、就労・自立に向けた相談・支援や障がい者のスポーツ・芸術文化の振興等に取り組んでいる。

薬工ミュージアム 分室

〒781-0074 高知県高知市南金田28 アートゾーン薬工倉庫

TEL：088-879-6800 FAX：088-879-6800

E-mail：info@warakoh.com URL：https://warakoh-museum.com/



Pick Up! 演劇公演「祝祭 音楽劇 小さな星の王子さま」



演劇公演「祝祭 音楽劇 小さな星の王子さま」の舞台風景 撮影：前田実津

ねらい 本事業は「障がいのある人が舞台芸術の作品づくりに関わる機会を創出すること」「障がいの有無にかかわらず誰もが舞台芸術にふれ楽しめる土壌をつくっていくこと」「作品づくりや演劇公演を通じ、障害者＝「支援される人」、健常者＝「支援する人」ではなく、皆が対

内容 障がいのある人を含むさまざまな個性を持つ人や多様な立場の人々が、協働して演劇作品をつくり上演する「いろいろを楽しむ演劇Project」として、2017（平成29）年から準備を進めた事業である。日常では出会わないかもしれない年齢や職業・環境等、十人十色の公募出演者たちによって、障がいの有無にかかわらず個人が持つ個性や特性を生かしながら「星の王子さま」をお芝居

今年度の課題と目標

高知県は障がいのある人による美術活動は比較的活発だが、創作活動の目的が公募展参加に限定されがちで、日頃の活動成果として創作物を施設外展示することは非

等に「その人」として個性や特性を認め、互いの違いやその個性・特性を許容して面白がり、皆が刺激し合い楽しむことができる寛容な社会を形成していくこと」「美術と舞台芸術をつなぐこと」をねらいとした。

にして上演した。同時に、公演に連動した事前イベントや展覧会も開催した。公演鑑賞者にはさまざまな気づきをもたらし、このような演劇公演が恒常的に行われることを願う声もあった。また事業を通じ、出演者・スタッフ陣には目には見えない壁を乗り越えたり、創作の仕方に変化が生まれたりするなどよい変化をもたらした。ここで生まれた自発的な交流は事業終了後も続いている。

常に少ない。また、展示物の装丁等が作品を傷める手法となっている場合も多い。そうした課題に対し、展示機会の増加と作品保全のため、交流機会等も取り入れた人材

育成事業に取り組んだ。舞台芸術においては障がいのある人に配慮した公演がほとんどなく、鑑賞・創作ともに機会が少ない。そこで、鑑賞と創作にかかわる機会の創

今年度の成果と展望

障がいの有無にかかわらず誰もが参加できるアンデパンダン展は、作品・作家発掘、発表機会創出、人材育成、交流・ネットワークづくりなど、さまざまな事業項目を狙い企画した。作家同士や作家の支援者だけでなく、鑑賞者等の空間を共有した誰もが相互に刺激し合う場となった。来年度以降も改善しながら継続し、当事者や施



「第1回薬工アンパン アートバザール」展示風景

実施一覧

●**相談支援** [相談窓口、4/1～3/31] ●**情報収集・発信** [作品・作家調査、4/7～10/17（合計5回）] [県内の芸術文化活動の情報収集、6/18～12/26（合計4回）] [第1回薬工アンパン アートバザール、11/19～12/3] [展覧会「カレンダーと展覧会 - ころに平和を実行委員会の活動 1997-2012」、1/5～1/23] [「なんでそんなんエキスポ2022 高知巡回展」、2/27～3/13] ●**発表の機会の確保** [展覧会「あなたの星の王子さま」関連事前出張ワークショップ、4/14 事前ワークショップ、8/8 展覧会「あなたの星の王子さま」、8/11～10/31] [展覧会「WARAKOH think & feel 東北 vol.4 10年目の今考える」、3/1～5/9] [演劇公演「祝祭 音楽劇 小さな星の王子さま」、7/30・7/31] ●**関係者のネットワークづくり** [展覧会「WARAKOH think & feel 東北 vol.4 10年目の今考える」関連企画トークカフェ、5/7] [演劇公演「祝祭 音楽劇 小さな星の王子さま」連動トークイベント、7/22 関連企画、10/17] [「第1回薬工アンパン アートバザール」交流会、11/20] [A→Zで考えるトークイベント「世界をちょっと広げてみる」、12/10] [「なんでそんなんエキスポ2022」関連イベント、3/5・3/12] ●**人材育成** [勉強会「作品展示方法等について」、8/5・8/7] [「障害者の文化芸術創造拠点形成プロジェクト DANCE

出事業に取り組んだ。また、障がいのある人の特性を魅力と捉え、その魅力を生かした作品づくりに携わるアーティスト、サポーター等の人材育成にも取り組んだ。

設の自主的な展示機会や作品保全の取り組みにつなげ、美術活動をより豊かなものにしていきたい。演劇公演では、創作に関わった人と鑑賞者の双方により体験を生み出すことができたが、鑑賞サポートを十分に行うことができなかった。今後は公共施設も巻き込みながら、鑑賞、創作ともに環境の整備に取り組んでいきたい。



A→Z（アートゾーン）で考えるトークイベント「世界をちょっと広げてみる」実施風景

DRAMA『Breakthrough Journey』舞台公演上映会＆トークセッション、9/12] [展覧会「あなたの星の王子さま」関連演劇ワークショップ、10/28] [「第1回薬工アンパン アートバザール」音楽ワークショップ、11/21] [to R mansion ワークショップ、12/4 パフォーマンス公演「The SHOW」、12/5（合計2回）] [身体ワークショップ「自分の身体と身体の動きを知ろう」、1/22～2/13（合計6回）] [映画「地蔵とリビドー」上映会＋トークイベント、3/5～3/6（合計4回）] [「なんでそんなんエキスポ2022」関連トークイベント、3/13] ●**その他** [展覧会「あなたの星の王子さま」関連イベント、10/9・10/23] [展覧会「カレンダーと展覧会」関連ワークショップ、1/16]

支援センター運営団体

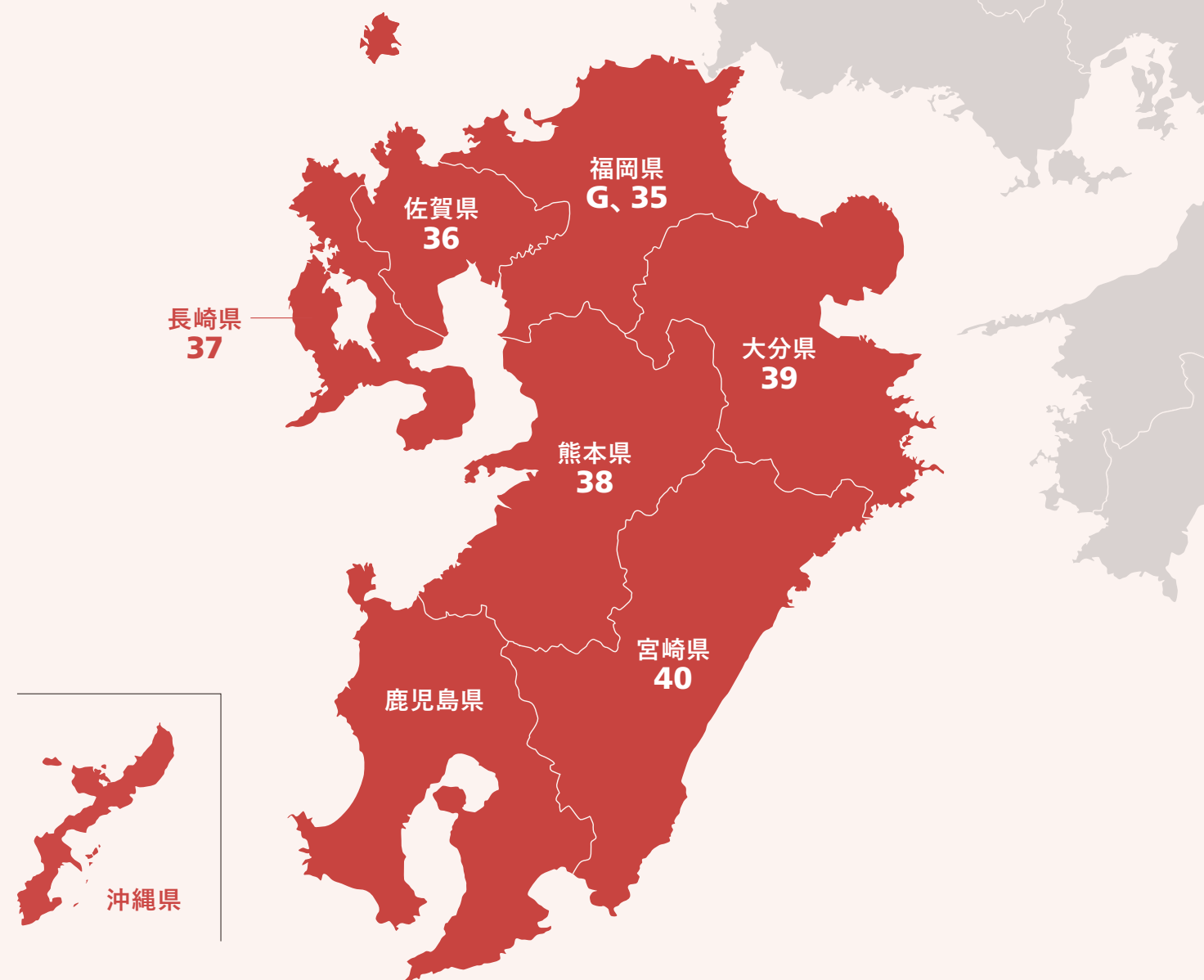
特定非営利活動法人ワークスみらい高知

従来の障害者就労の枠組みを超えるさまざまな取り組みを行う団体。運営する小さな美術館「薬工ミュージアム」は、福祉とアート、地域とアートをつなぎ、誰もが多様なものとつながり、多様なものの存在を楽しむことができる創造的かつフラットな場となることをめざした活動を行い、障がいのある方の表現に関わる調査・研究・公開・サポート等は「分室」を設置し実施している。

九州ブロック

G 九州障害者 アートサポートセンター

広域センター運営団体：特定非営利活動法人まる



ブロック内の状況

8県のうち、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県に支援センターが設置されており、鹿児島県と沖縄県は未実施である。広域センターは福岡県に置かれている。福岡県は、レクチャーや相談会に注力した。佐賀県は、舞台芸術分野にも活動を広げている。長崎県は、調査から活動を進めているが資金調達が課題である。熊本県は、巡回展をメインにしながら、県内の劇場

との連携を試みている。大分県は、人材が豊富で、文化施設のネットワークも充実している。宮崎県は、所管が文化セクションに移り、近隣の美術館との連携もスムーズである。鹿児島県と沖縄県は、ネットワークづくりから事業の開始をめざす。2021年度は宮崎県で全国障害者芸術・文化祭が開催された。

福岡県

担当課：人づくり・県民生活部文化振興課

35 FACT（福岡県障がい者文化芸術活動支援センター）
支援センター運営団体：特定非営利活動法人まる

佐賀県

担当課：文化・スポーツ交流局文化課

36 佐賀県障がい者芸術文化活動支援センター SANC
支援センター運営団体：社会福祉法人はる

長崎県

担当課：福祉保健部障害福祉課

37 長崎県障害者芸術文化活動支援センター
支援センター運営団体：長崎県障害者社会参加推進センター

熊本県

担当課：健康福祉部子ども・障がい福祉局障がい者支援課

38 障害者芸術文化活動支援センター@熊本 愛隣館
支援センター運営団体：社会福祉法人愛隣園

大分県

担当課：福祉保健部障害者社会参加推進室

39 おおいた障がい者芸術文化支援センター
支援センター運営団体：公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団

宮崎県

担当課：総合政策部みやざき文化振興課文化振興担当

40 宮崎県障がい者芸術文化支援センター
支援センター運営団体：社会福祉法人ゆくり（アートステーションどんこや）

鹿児島県

担当課：くらし保健福祉部障害福祉課障害者支援室

沖縄県

担当課：子ども生活福祉部障害福祉課

九州障害者アートサポートセンター

〒815-0041 福岡県福岡市南区野間1-13-1 グレイスビル602号

TEL：092-516-0677 FAX：092-516-0677

E-mail：info@kda-support.org URL：http://kda-support.org/



Pick Up! 未設置県へのレクチャー&相談会、支援センター設立サポート



鹿児島県で開催した「レクチャー&相談会鹿児島」

ねらい 広域センターを設立し、未設置県の自治体へのヒアリング、障害当事者等からの相談窓口の設置、支援者育成の研修の実施、事業所への訪問調査等さまざまなサポートを行ってきた。現在、未設置県の鹿児島県と沖縄県においては、障害のある人たちの芸術活動に取り組んでいる団体は少ないのが現状である。しかし、芸

術活動を行っている、または行いたいと思っている個人や団体は、この事業へ大きな期待を寄せていると同時に、センター設立により県内の障害のある人たちの表現する選択肢が増え、地域に新たな可能性を広げたいと願っている。そのような声を自治体へ届け、支援センター設立に向けてサポートを行った。

内容 未設置県への支援センター設立サポートとして、鹿児島県と沖縄県の自治体と面会し、過去に訪問調査や研修に参加した各県の事業所や障害当事者の声を届けてヒアリング調査を行った。未設置県の障害当事者、支援者育成のサポートとしては、12月に両県に佐賀県、大分県、厚生労働省の推進官を講師に招き、支援センター

設立に向けての意見交換や相談を交えた研修会を開催した。次年度、鹿児島県では支援センターの運営バックアップや他県の支援センターとのネットワーク構築を図る。また沖縄県では、活動に関心の高い個人や団体の継続的なネットワーク構築と、定期的な情報交換と研修会の開催を行う。

今年度の課題と目標

九州ブロック広域センターの課題としては、「未設置県のセンター設立に向けた自治体や地元団体へのフォローアップ」と「未設置県の障害当事者、支援者育成のサポート」がある。そこで「未設置県の支援センター設立サポート」と「未設置県の障害当事者、支援者育成のサ

ポート」の2つを大きな目標とした。さらに、九州の各支援センターのサポートとして、「九州各支援センターの地域での認知度アップ」と「各支援センターが他分野の団体と協働できるネットワークの構築」も目標として加えた。以上により、今年度は4つの目標を掲げた。

今年度の成果と展望

鹿児島県と沖縄県の自治体へのヒアリング調査、芸術活動を行っている団体への訪問調査等を行った。その結果、鹿児島県では2022（令和4）年度の支援センター設立が決定した。沖縄県は未設置のため次年度も引き続きサポートを続ける。また、両県でレクチャー&相談会を開催し、参加者との意見交換や相談を行った。継続的

な開催希望が8割以上あるため、今後も各地区で芸術活動が継続的に行える環境を整備する。さらに「各県の支援センターと文化施設のネットワーク会議」「障害のある子どもたちを招待したコンサート」の開催により、各支援センターが地元の文化施設と協働で事業を行えるネットワークを構築できた。



沖縄県で開催した「レクチャー&相談会鹿児島」実施風景

障害のある子どもたちを招待した「劇場体験プログラム」実施風景

実施一覧

●**発表の機会の確保** [表現クリエイション（地元アーティストを派遣してワークショップを重ね、舞台作品を制作）、8/21～3/18（合計16回）] ●**ブロック内の連携の推進** [文化と福祉のネットワーク会議（障害のある人たちが参加可能な劇場プログラムを考える）、10/26～2/15（合計4回）] [劇場体験プログラム（障害のある子どもたちがコンサートを体験する）、3/12] ●**都道府県の支援センターに対する支援** [九州ブロック会議の開催] [各支援センターへのヒアリング調査] [各支援センター事業への参加・視察での意見交換] ●**センター未設置都道府県の事業所等への支援** [レクチャー&相談会 @鹿児島、12/3 @沖縄、12/10] [支援センター設立に向けた調査] [未設置県の当事者、支援者への相談窓口]

支援センター運営団体 NPO 法人まる

1997年に無認可の福祉作業所として開設し、2007（平成19）年にNPO法人化。当初から障害のある人たちが自分らしく生活できる環境を構築することを目的に、創作・表現活動を中心に行っている。現在、施設運営事業では3ヶ所の事業所を運営し、コミュニケーション創造事業では、行政や地元企業との協働事業等を展開している。

FACT（福岡県障がい者文化芸術活動支援センター）

〒815-0041 福岡県福岡市南区野間1-13-1 グレイスビル602号

TEL：092-516-0677 FAX：092-516-0677

E-mail：fact@maruworks.org URL：https://fact.or.jp/



Pick Up! レクチャー&相談会、施設視察



筑豊地区で開催した「レクチャー & 相談会」の様子

ねらい 福岡県には福岡、北九州、筑豊、筑後の4地区があり、筑豊地区と筑後地区では障がいのある人たちの芸術活動が行える環境や発表の場が少ないことが以前から課題としてあった。また、研修やワークショップ等の前例も少なかった。そこで、各地区で障がいのある人たちの芸術活動に関心のある事業所や当事者・家族、

内容 筑豊・筑後地区それぞれで先駆的に活動している福祉施設担当者を講師に招き、「レクチャー&相談会」を開催した。新型コロナウイルス感染症の影響で、対面とリモートによるハイブリッド形式で開催したが、施設のアトリエをリアルタイムで撮影し案内することを試みた。また、講師から芸術活動に取り組むための意義や環境づく

福祉以外の分野の方を集め、先進事例から学び合うと同時に、意見交換や相談等ができる場をつくることを目的とした。さらに、集まった参加者同士の横断的なネットワークを構築することで、それぞれの地区で継続的な活動が行える環境を整えていくことを目的に実施した。

り、作品の発表方法等について事例報告をしていただいた。さらに、参加者との意見交換や相談を行った。参加者アンケートでは、引き続きこのような研修を開催してほしいとの声が8割以上あった。今後は応用的なワークショップへの展開を図り、各地区で芸術活動が継続的に行える環境を整備していきたい。

| 今年度の課題と目標

福岡県の支援センターの課題としては「支援センターの認知度向上」と「筑後・筑豊地区での活動環境の整備」がある。そこで「支援センターの認知度向上及び相談件数の向上」と「筑後・筑豊地区での継続的な表現活動ができる場の構築」の2つを大きな目標とした。さらに、そうした課題を具体的に解決していくために、県内

| 今年度の成果と展望

支援センターのパンフレットを作成し県内の公共施設に設置したことで、相談件数の向上については、目標の150%アップを大きく上回る件数となった。ネットワーク構築については、筑豊・筑後地区で研修を行った以外では、北九州の団体と2回の情報交換を行ったが、定期的にネットワーク会議ができる環境の構築までには至らな

のネットワークを構築していくことをめざし、「県内4地区の団体との継続的なネットワーク構築」と「県内の文化施設とのネットワーク構築及び連携事業構築」の2つの目標を加えた。以上により、今年度は4つの目標を掲げた。

かった。次年度は支援団体との連携を強化し、当事者や支援団体のニーズにあった場を構築していきたい。一方、複数の相談会やワークショップの実施により、県内5ヶ所の文化施設関係者の参加があった。関係者とその後もSNSを通して継続的に情報交換を行った結果、次年度の県内文化施設との共同事業へと発展した。



「ふくおかFOOD&CRAFT&ART マルシェ」での展示風景



文化施設で開催した「現場体験ワークショップ」実施風景

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●関係者のネットワークづくり [文化と福祉のマッチング相談会、8/17] [文化と福祉のネットワーク会議、10/26～2/15 (合計4回)] ●人材育成 [レクチャー&相談会@筑豊、9/23 @筑後、10/10] [現場体験ワークショップ、10/28] ●発表の機会の確保 [「ふくおかFOOD&CRAFT&ART マルシェ」の会場に作品展示、10/8～3/18 (合計5回)] [舞台公演「people Art performance 2021-2022」(会場ロビーに作品展示)、3/12] ●情報収集・発信 [ウェブサイト・SNS等による情報発信] [パンフレットの作成]

支援センター運営団体
NPO 法人まる

1997年に無認可の福祉作業所として開設し、2007(平成19)年にNPO法人化。当初から障害のある人たちが自分らしく生活できる環境を構築することを目的に、創作・表現活動を中心に行っている。現在、施設運営事業では3ヶ所の事業所を運営し、コミュニケーション創造事業では、行政や地元企業との協働事業等を展開している。

佐賀県障がい者芸術文化活動支援センター SANC

事務所：〒849-0917 佐賀市高木瀬町長瀬1168-1 アトリエ：〒849-0934 佐賀市開成4-5-4

TEL：080-2794-6195 FAX：0952-34-1024

E-mail：info@s-brut.net URL：http://s-brut.net/



Pick Up! 県内各地で実施した「アート体感プログラム」



アート体感プログラム「みんなでつくる なんでもステージ」の様子

ねらい 例年、事業実施地域が佐賀市周辺に集中しがちであること、前年度のオンライン化の影響により佐賀市以外の県内各地域からの参加が半減したことなどを受け、今年度は事業対象地域である「佐賀県全域」にあらかじめ焦点を当て、「県内全域へ向けた普及支援」をテーマとして掲げた。参加を希望する方が県内のどの

内容 県内の障がいのある人やその支援者等が、芸術活動の第一歩を踏み出すための「アート体感プログラム」を県内各地で実施した。美術分野では、さまざまな画材や道具の使い方や触り心地を確かめながら実際に創作に取り組んでみる「創作体験ワークショップ」、舞台芸術分野では身体を動かすゲームや、小さなステージ発表

地域に住んでいても、またオンライン環境や知識がなくとも気軽にアクセスし参加できるよう、事業内容や実施方法を見直した。県内において芸術活動に関心のある多くの方に創作活動やパフォーマンスの楽しさにふれてもらい、所属する事業所等において芸術活動に取り組んでもらうためのきっかけとなる事業をめざした。

を楽しみながらパフォーマンスの魅力にふれる「みんなでつくる なんでもステージ」を、それぞれ県内4地域の4つの公共施設で開催した。また、芸術活動に関心のある4ヶ所の障害福祉事業所に講師と共に訪問し、同様のワークショップを事業所に通われている利用者やスタッフに向けて実施した。

今年度の課題と目標

佐賀県では、芸術活動に関心のある人が支援者・当事者ともに増加しており、そうした方たちに芸術活動の第一歩を踏み出してもらうためのきっかけづくりが課題となっている。また例年、佐賀市周辺に集中しがちな事業の実施を県内全域に広げ、各地域からの参加を増やすことも課題となっている。そこで、県内の北西部・南部・中部・

今年度の成果と展望

県内各地の公共施設を会場に、美術分野と舞台芸術分野のワークショップを1回ずつ開催し、一部地域を除いて目標の参加者数を達成することができた。また、芸術活動に関心のある県内の4ヶ所の事業所を訪問し、事業所に通われている利用者や職員に向けて、芸術活動のワークショップを開催することができた。今後は、県



展覧会「がばいアーティストたち vol.4」展示風景

東部の4地域の公共施設を会場に、芸術活動に関心のある障がいのある人や支援者を対象としたイベントを開催し、各回、障害者3名以上、支援者3名以上の参加を受けることを目標にした。また、県内の4ヶ所以上の事業所を訪問し、事業所スタッフと利用者に同様の企画を実施することも目標とした。

内の地域ごとの課題と向き合いながら、県内全域での普及活動を進めていく。また、芸術活動に取り組むことの意義を広く県内に伝えながら、事業所に講師を派遣する訪問型ワークショップの開催に努め、県内の事業所等での継続的な芸術活動の実現をめざす。



パフォーマンス発表「第5回 スター発掘プロジェクト in 佐賀」

実施一覧

●**相談支援** [相談対応、4/1～3/31 (合計280回)] ●**その他** [アトリエ・サンク「ゆっつらアートデイ」、4/17～3/19 (合計10回)] ●**関係者のネットワークづくり** [SANC協力委員会 (オンライン)、8/2～3/17 (合計3回)] [県内全地区の市・町の役場担当部署訪問、8/4～11/15 (合計14回)] ●**人材育成** [展覧会実行委員会「がばいアーティストたち展を一緒に作りませんか?」、9/10～11/19 (合計4回)] [アート体感プログラム「創作体験ワークショップ」、9/26～11/28 (合計6回)] [アート体感プログラム「みんなでつくる なんでもステージ」、10/8～12/4 (合計6回)] [セミナー＆相談会「障がいのある方の創作活動にまつわる権利擁護について」、2/25] ●**発表の機会の確保** [展覧会「がばいアーティストたち これだれが描いたの? vol.4」、1/19～1/23]

[第5回スター発掘プロジェクト in 佐賀 ステージの部、2/6 動画上映会の部、2/27] ●**情報収集・発信** [ウェブサイト・SNS等による情報発信]

支援センター運営団体 社会福祉法人はる

「障がいのある人たちが、ひとりひとりかけがえのない人生の主人公として、その命が尊重され、生涯を通して地域とともに幸せに暮らしてもらうこと」という理念の下、福祉支援サービスの創造と展開、整備を積み上げてきました。子どもから大人まで、仕事や活動を通して、地域の方々と触れ合い協働することで、障がいのある人たちの生活が豊かになり、地域の理解が深まることをめざした活動に力を入れています。

長崎県障害者芸術文化活動支援センター

〒852-8104 長崎市茂里町3-24 総合福祉センター内

TEL：095-842-8178 FAX：095-849-4703

E-mail：hdcps-suishin@mbn.nifty.com URL：https://nagasaki-artsupport.com/



Pick Up! 障がいのある人の芸術文化活動 支援のためのセミナー&フォーラム



「障がいのある人の芸術文化活動支援のためのセミナー&フォーラム」
グループディスカッションの様子

ねらい 昨年度に取り組んだ県内の福祉事業所等へのアンケート調査の分析結果から、県内における課題として依然、芸術文化活動に対する関心・認知度が低いこと、また、事業所において芸術文化活動＝利用者の支援として捉えられづらいことが分かった。そこで芸術活動を支援することが「利用者の自己実現や日常生活の質の向

上」につながることを知ってもらい、事業所での取り組みを後押しすること、そのうえで当事業を活用できるということを伝えたいと考え実施した。また、アンケートだけでは分からない県内事業所の取り組み状況や支援者のニーズを知る機会として、意見交換の場を設けた。

内容 「普及支援事業とは？長崎県の現状を知ろう」と題し、支援センターから事業紹介を、次に「アート支援で人生を豊かにする取り組みの話を聞いてみよう」と題し、県内で先進的にアート活動に取り組む事業所から事例の発表をしていただいた。さらに「芸術活動に取り組むうえで知っておくべき権利の知識」をテーマに、弁護士と滋賀県の支援センターを講師に迎え、ケーススタディ

形式で権利問題について講演いただいた。最後にグループディスカッションを行い、「アート支援で難しいと感じていること」「アイデアや発想の転換でこんなことができたらいいな」をテーマに自由に意見交換をした。支援センターとしても参加者から多くのアイデアをもらう機会となった。

今年度の課題と目標

県内の福祉事業所等における芸術文化活動に対する関心・認知度の低さ、その意義が伝わっていないことを課題と捉えた。そこでまず、普及支援事業について知り活用してもらうこと、現場の支援者の声を聴く場をつくり、事

業をより充実させるための課題を見つけていくことを目標とした。また、個人的な余暇として取り組んでいる方も多く、そういった個人に情報を届け活用してもらうこともこの事業の大切な役割の一つと考えた。

今年度の成果と展望

当事業の活用推進・芸術文化活動支援の意義を伝えるセミナーと、現場の声を聴く機会としてのフォーラムを開催した。県下から約45事業所の参加があり、事業所における芸術文化活動支援の意義等を感じていただき、相談窓口の活用につながった案件もあった。今後はフォーラムで得た意見を生かし、事業所の種類や取り組み内容に合わせ、もう一步掘り下げたセミナー開催に取

り組み、事業所でのさらなる活動活性化につなげたい。また、相談窓口とウェブでの作品紹介に取り組み、在宅で創作活動に取り組む方へ情報を届け公募展への参加等も支援することができた。しかし活用数はまだ少ないため、今後は具体的な活用方法を示し広報していく必要がある。



ハイブリッド式で開催したセミナー

別事業で開催している作品展に
普及事業相談窓口を設置し参加を促進

実施一覧

●相談支援 [相談窓口の運営、4/1～3/31] ●発表の機会の確保 [ウェブサイトでの作品紹介、4/1～3/31] ●情報収集・発信 [ウェブサイト情報発信、4/1～3/31] ●人材育成 [障がいのある人の芸術文化活動支援のためのセミナー&フォーラム、7/27～8/31 (合計4回)] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [事業報告ニュースの発行、3/24] ●関係者のネットワークづくり [協力委員会 (オンライン)、3/25]

支援センター運営団体

長崎県障害者社会参加推進センター

視覚・聴覚・内部の各協会と市町協会からなる県身体障害者福祉協会連合会に事務局を置き、県手をつなぐ育成会、県精神障害者家族連合会、県精神障害者団体連合会、県知的障がい者福祉協会、県精神障がい者福祉協会といった県下の障害福祉団体と連携しながら、障害者の社会参加を進めるための事業に取り組んでいる。

障害者芸術文化活動支援センター@熊本 愛隣館

〒861-0551 熊本県山鹿市津留2022

TEL：0968-43-2771 FAX：0968-43-2793

E-mail：ailinkan@magma.jp URL：http://www.aileans.com/art/



Pick Up! 常設展のできるギャラリーウォールの開設



伝統工芸「山鹿灯籠」とのコラジ展示の様子

ねらい これまで県立美術館で年1回開催する展覧会、県内でオファーのある会場で展示をする「移動美術館」、県人権フェスティバル等のイベントと協力して行う展示等を行ってきたが、1年を通していつでも作品にふれられる場所の創出が望まれた。この課題解決に向け、常設のギャラリー運営に取り組んだ。これは、障害のある作家らの作品発表機会の創出、地域住民が作品にふれる

内容 作品と作家をより身近な存在にするため、山鹿市の中心部ビル内に常設のギャラリーを開設した。ギャラリーは障害のある人や地域のサロン内にあり、基幹相談支援センターが隣設している。SNSでの発信や行政・新聞社への積極的な広報活動により、多くの来場者が訪れる交流の場となった。展示、チラシ作成、広報、物販等

場の創出、事務局スタッフの展示スキルの向上をねらったものである。場所は、ショッピングモール内にある地域活動支援センターの壁面をギャラリーに改修し確保した。この取り組みをきっかけに、新たなネットワークの広がりや教育的効果、地域の活性化等を期待しており、今後はこの場所を生かした事業展開を図る。

は、事務局スタッフで支援を行い、企画展を11回開催した。個展開催についても、利用料が安価なこととスタッフが常駐する安心感から、障害の有無を問わず利用されている。ギャラリーを通して新しい作家発掘の機会が生まれるなど、地域にアートを受発信できる場として効果がみられた。

今年度の課題と目標

7回目を迎えるアール・ブリュット展覧会等によって障害のある人々の芸術にふれる機会が増え、障害のある人と支援者の芸術に対する関心が高まっている。また、生の芸術 Art Brut展覧会 vol.6が県芸術文化祭奨励賞を受賞したことで、県民のなかで作品に対する芸術的評価と共感が生まれつつあるという手応えも感じている。今年度の課

今年度の成果と展望

県立美術館・県・企業等のバックアップにより、県立美術館のメイン展示室で展覧会を開催した。展覧会では福祉施設等とオンラインで協議を重ね、初めてアートグッズの販売を行った。蔓延防止期間中にもかかわらず、来場数は12日間で1,650名を数え、さらに美術館ボランティアの協力も得られ新たな連携につながった。人

題は、コロナ禍において日常的に障害のある人々と社会の接点を安全につくり続けられるかであった。福祉施設等利用者の外出制限や在宅作家らの外出自粛下において、こつこつと創作されている独自の表現を可視化し、この時代ならではの励ましにつながるような発表の場の創出に向けて、体制と基盤を構築することを目標とした。

材育成事業では、生まれつき全盲の女性が陶芸講師となりワークショップを実施した。受講者に「手で見る」経験と気づきが生まれ、視覚、触覚への認知が深まった。また、障害のある人々の作品を常設で鑑賞できるギャラリーウォールを開設した。



熊本県立美術館で開催した「生の芸術 Art Brut vol.7」の会場風景

熊本県立美術館でのワークショップ実施風景。全盲の方が講師となり粘土で牛の置物を作成

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●発表の機会の確保 [松本寛庸展、4/1～5/7] [野尻三正展、5/13～6/10] [山品聡美展、6/11～7/9] [松本寛庸×山鹿灯籠展、7/13～8/16] [中山正一郎 木工展、8/18～8/31] [服部秋彦 卒寿記念展、9/3～9/17] [中山颯良展、9/20～10/3] [榊達盛 山鹿温泉灯籠イラスト展、10/9～10/27] [やまがアートin 鶴城、10/30～11/3] [松本寛庸 画集出版記念展、11/10～11/29] [アール・ブリュット移動美術館 人権フェスティバル、11/27 荒尾第三中学校、12/6～12/10 緑ヶ丘小学校、12/10～12/18 熊本県庁、12/21～1/14] [ゆうあい園 さをり織り展、12/1～12/15] [生の芸術 ArtBrut展覧会 vol.7、1/25～2/6] [曲棍智恵美展、2/15～3/12] ●人材育成 [人権啓発WEB講座(動画配信)「アール・ブリュット～芸術でつながる地域共生社会」、7/21～3/31] [全盲

のおばあちゃんと牛をつくろう!、1/29] [オンラインギャラリーツアー、2/1～3/31(合計25回)] ●情報収集・発信 [ウェブサイト・SNS等による情報発信] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [事業報告書の作成]

支援センター運営団体 社会福祉法人愛隣園

1950(昭和25)年創設の児童養護施設、軽費老人ホーム、特別養護老人ホーム、障害者支援施設と在宅サービス16事業を行う法人である。障害者支援施設愛隣館は、熊本県全域で異業種連携による障害者の芸術活動支援ネットワークを築くため、2014(平成26)年市民団体アール・ブリュット パートナース熊本の創立を図り、事務局を担っている。

おおいた障がい者芸術文化支援センター

〒870-0029 大分市高砂町2-33 iichiko 総合文化センター内

TEL：097-533-4505 FAX：097-533-4013

E-mail：artbrut-oita@emo.or.jp URL：https://artbrut-oita.com/



Pick Up! 創作ダンスワークショップ in OPAM

「宇宙までとどけ!!生きるチカラ、わたしのダンス」



大分県立美術館でのダンス発表「宇宙までとどけ!!生きるチカラ、わたしのダンス」

ねらい いろいろな芸術文化活動があるなかでも、美術は障がい者福祉施設も比較的に取り入れやすく、個人でも活動しやすいが、身体表現であるダンスについては障がいのある人に対応できる講師や、活動の機会は美術ほど多くはない。そこで本事業では、障がいの有無にかか

わらず、ダンスを通して共に表現し合う場を提供した。同時に、県内のダンス教室の講師が、障がいのある人とのダンス創作への新たなアプローチを学ぶことで、障がいのある人が身近な地域でダンスを楽しむことができる環境を整えた。

内容 障がいの有無やダンス経験、年齢、性別の違いにかかわらず、多様な人々と共にコミュニティダンス作品を多数制作した経験を持つ、振付家・ダンサーの北村成美氏をメイン講師に迎えた。参加者それぞれの個性を大切にしながら、みんなで一つの表現（ダンス）をつくりあげていくことを目的に、創作ダンスワークショップを開催した。参加者のほかに、県内のダンス教室の講師がダン

スリーダーとして加わり、活動ごとに各々の気づきや学びを共有し合う振り返り会を行った。さらに、iichiko 総合文化センターのリハーサル室で活動を重ね、完成したダンス作品は、大分県立美術館OPAMで開催した「おおいた障がい者芸術文化支援センター企画展 vol.3 生きるチカラ」の会場で発表した。

今年度の課題と目標

大分県では、2018（平成30）年に「第33回国民文化祭・おおいた2018／第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」が開催され、その後3年にわたって「国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭市町村レガシー事業」が各地域で行われたことから、近年、県民が障がいのある人の芸術文化活動にふれる機会が増えた。しかし一方

で、障がい者福祉施設や自治体等による主体的な取り組みは十分とはいえない。その背景には、財源不足や人材不足が考えられる。そこで今年度は、障がいのある人の表現を生かした企画の立案や運営を担える人材の育成に向けて、支援者等が学ぶ機会を増やすことを目標とした。

今年度の成果と展望

創作ダンスワークショップやアウトリーチ事業では、県内のダンス講師と協働で活動を実施した。また、視覚障がい者による彫刻鑑賞についてのワークショップやシンポジウムを行った。さらに、視覚障がい者やデザイナーと共に絵画を鑑賞する対話型ワークショップや、著作権について学ぶセミナーも開催した。新型コロナウイルス

感染症の影響により、オンラインでの開催も多かったが、県外からも参加しやすくなったことで、それぞれのテーマに関心を持つ人がさまざまな地域から参加できた。この他、昨年度の課題の一つであった「オープンアトリエ」の地域開催にも取り組んだ。今後は、対面開催等により実践的な支援者の学びの場を設けたい。



盲学校の生徒を対象にした「彫刻鑑賞ワークショップ」実施風景

企画展「生きるチカラ」の会場風景。鹿児島島の「しょうぶ学園」と大分県内のアート作品を紹介した

実施一覧

●相談支援 [相談支援、4/1～3/31（合計217回）] ●情報収集・発信 [情報発信、4/1～3/31（合計187回）] [調査発掘、7/4～2/7（合計8件）] ●発表の機会の確保 [展示「ギャラリー MAPO（マポ）」、4/29～3/31（合計5回）] [おおいた障がい者芸術文化支援センター企画展「vol.3 生きるチカラ」、10/27～11/7] [創作ダンスワークショップ in OPAM「宇宙までとどけ!!生きるチカラ、わたしのダンス」、11/3～11/6（合計4回）] ●その他 [鑑賞支援つきオペラ「リタ」、5/29] [JAGDAつながりの展覧会 Part3「フレフレハンカチ おおいた巡回展」、6/18～6/28] [オープンアトリエ in コトブキヤ駅南、6/27～2/27（合計10回）] [アウトリーチ、8/17～3/16（合計6回）] [オープンアトリエ in たけた、9/26～11/28（合計3回）] [交流事業「アートを感じるワークショップ」、9/29・3/12] [5つのアトリエ、10/2～12/18（合計4回）] [彫刻を触る時間、10/6・10/7] ●人材育成 [講演会（オンライン）「デザイン×

福祉が生み出す新たな可能性」、6/19] [対話型アート鑑賞（オンライン）、6/19] [ワークショップ（オンライン）「みえる+みえない∞（無限大）～みんなで美術作品を鑑賞しよう～Vol.3、9/25] [シンポジウム（オンライン）「彫刻をさわる時間」、10/6] [障がいのある人たちの表現活動を守る 著作権セミナー（オンライン）、2/26] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [事業報告書の作成]

支援センター運営団体

公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団

大分県立総合文化センター及び大分県立美術館を拠点として、県民の幅広い欲求に応えられる多様な文化事業やスポーツの振興に関する事業を実施するとともに、県民と外国人の相互理解と友好親善の増進に努め、もって潤いのある県民生活の創造と健やかで個性ある地域づくりに寄与することを目的として、さまざまな事業を行っている。

宮崎県障がい者芸術文化支援センター

〒880-0825 宮崎県宮崎市東大宮4-23-1

TEL：0985-27-2823 FAX：0985-89-6000

E-mail：donkoya@jl.moo.jp URL：https://donkoya.moo.jp/artistic-culture-centre/



Pick Up! まちなかアート化@TSUTAYA @みやはく



「まちなかアート化」における蔦屋書店での展示風景

ねらい 障がいのある人ない人が共にふれあう場を街中につくることを目的とした。具体的には、多くの人に芸術文化活動の魅力を知ってもらうため、人が多く集まる文化施設や商業施設等で作品展や支援センターの活動紹介、出張相談を行った。「障がいのある人が文化施設や商業施設に向かうことで、外出の機会を増やすこと」

内容 4月～10月の期間で、蔦屋書店のレジ前で障がい者芸術の作品展示を行った。障がい福祉サービス事業所3ヶ所と個人2名の絵画・書・写真48点、及び事業所の活動紹介を展示した。また「国文祭・芸文祭みやざき2020（以下、芸文祭）」に合わせ、県内障がい者アート作品展等のチラシやポスターを掲示し広報活動も行った。書店に来たお客さんが足を止めて作品を見たり、問い

「アートの持つ力を通して障がいのある人ない人が表現および創作活動にふれるような交流の機会をつくること」「地域の文化施設における障がいのある人への鑑賞の環境づくりをすること」が、共生社会の実現につながることをねらいとした。さらに、当支援センターの活動内容や普及支援事業を多くの人に知ってもらうことも目標とした。

合わせがあったという報告を受けた。3月には宮崎県総合博物館において、重度障がい福祉3施設が、配達されたアートBOXで創作した作品と活動の様子を写した写真パネルを展示した。新聞を見て来られた方や、当事者と支援員の方の「3回も見に来ました!」という嬉しい声もあった。

今年度の課題と目標

今年度の課題は「障がいのある人の芸術文化活動ができる環境整備の普及」と「継続的な相談支援や当支援センターの認知度向上」であった。そこで①視覚障がい者が芸術文化を鑑賞する選択肢を持てるよう、また鑑賞できる環境をつくる。②障がいのある人ない人が共にふれあう場をつくり、地域の障がい者に関する芸術文化

今年度の成果と展望

芸文祭がきっかけとなり、障がいのあるなし関係なく、特別支援学校から地域の児童クラブまで多くの方とつながる機会を持てた。またワークショップの方法を変更し、アートBOXを配達するなど工夫をしたことで、コロナ禍でも作品展の開催ができたのは大きな成果である。しかし、支援センターの存在や活動内容はまだ知られていな

活動の現状が正しく理解されるよう、街中での普及活動（作品展や出張相談）を行う。③芸文祭にて作品展や関連事業を行うことで、障がいの種別を問わず、発表の機会を創出し、当事者の社会との接点の機会を創出する、という3つの目標を立てた。

い現状があり、障がい者芸術文化活動の魅力を伝えて普及していかなければならないことも再確認した。芸文祭後に障がい福祉サービス事業所に向けて行った芸術文化活動に関するアンケートで、2019（令和元）年度より多くの回答を得られたことは一つの大きな成果であり、来年度からの普及支援につなげたい。



作品の前で喜ぶ当事者と支援員

視覚障がいのある人が
作品に触って鑑賞する様子

実施一覧

●相談支援 [相談窓口、4/1～3/31] ●発表の機会の確保 [まちなかアート化@TSUTAYA、4/1～10/17（合計4回）] [ココロノイロ～県内障がい者アート作品展～ワークショップ、7/13～9/23（合計5回）、作品展10/9～10/17] [まちなかアート化@みやはく、3/9～3/21] ●関係者のネットワークづくり [ココロノイロ～県内障がい者アート作品展開催までの調整・協議等、4/11～10/1（合計21回）] [視覚障がいと鑑賞について（実行委員との打ち合わせ等）、4/16～2/17（合計3回）] ●人材育成 [ココロノイロ～県内障がい者アート作品展～セミナー「作品展から考える権利のこと」におけるギャラリートツアー・知財セミナー、10/10 シンポジウム「ちょっとお邪魔します!!ココロノイロツアー」におけるアトリエ見学・トークイベント、10/16] [視覚障がいと鑑賞について（参加者と作品鑑賞）、10/15・1/21] ●情報収集・発信 [施設訪問・

アーティスト取材、7/16～9/28（合計4回）] [障がい福祉サービス事業所における芸術文化活動についてのアンケート調査、2/1～2/28] [出張!みやはく芸術文化相談、3/9～3/19（合計3回）] ●事業評価及び成果報告のとりまとめ [令和3年度宮崎県障がい者芸術文化活動普及支援事業成果取りまとめ、3/1～3/31]

支援センター運営団体

社会福祉法人 ゆくり（アートステーションどんこや）

身体に障がいのある人々が集まり、1994（平成6）年に「障害者芸術村」という名称でスタートした。多様な福祉サービスを、利用者の意向を尊重して総合的に提供できるよう創意工夫することにより、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的に活動している。



連携事務局の取り組み

連携事務局

E-mail: welfare@arts-npo.org URL: https://arts.mhlw.go.jp/



支援センター、広域センターを横断的にサポートする事務局として、連携事務局が設置されている。令和3年度

は、特定非営利活動法人アートNPOリンク（美術分野）、株式会社precog（舞台芸術分野）が協働で運営した。

今年度の課題と目標

全国7ブロック全てに広域センターが設置され、37都道府県に支援センターが設置された。障害者による合同展の開催、オンラインによる舞台芸術作品の発表など多様な文化活動が実施され、地域の民間企業や公立文化施設との協業による商品や研修プログラムの開発など、全国の見本となるモデル事業も多く実施されているが、

そのノウハウの共有ができていない。また、地域ごとにさまざまな特色があり、各センターが地域資源を把握し、つむいでいくことが求められている。そのため、今年度は「障害者芸術文化活動普及支援事業の社会的な価値を言語化し発信する」「広域センター、支援センターの活動を共有する」ということを目標に活動を行った。

今年度の成果と展望

各事業を通して、障害者の芸術文化活動にかかわる者が自らの状況や課題にあった取り組みを選び取れるような発信や共有を行った。ウェブサイトにおいては、事例紹介を特集記事として一覧化することにより、今後もモデルとなるような全国の取り組みを記録としていつでも参照できるようになった。全国連絡会議、広域センター

ミーティングでは、文化芸術団体や中間支援団体などと支援・広域センターが会合う場を創出した。本事業及びそれ以外の障害者の芸術文化活動の収集及び発信を行い、さまざまな分野での取り組みを可視化することで、障害者を含む多様な人たちが芸術文化活動に参加できる基盤整備を引き続き行っていく。

事業概要	
1. 広域センター等に対する支援	6. 広域センターミーティング（年5回）
2. 全国連絡会議の実施	7. 全国連絡会議（年2回）
3. 全国の情報収集・発信	8. ウェブサイトリニューアル
4. 全国のネットワーク体制の構築、成果のとりまとめ、公表等	9. 報告書作成
5. 障害者団体、芸術団体等との連携	10. プレスリリースの発信と広報企画

広域センターミーティング

広域センターを対象にしたオンラインミーティングを開催した。各ブロックでの近況報告や、特徴的な活動の紹介、情報不足やノウハウ不足の補完、事業の連携や協

働の促進など、双方向・多方向の全国ネットワークの構築をめざした。

回	日にち	参加人数	内容
1	2021年7月13、14、15日	30人	各広域センターからの自己紹介及び年間事業計画の共有
2	2021年8月4日	26人	連携事務局より年間事業計画の共有及び意見交換
3	2021年9月14日	27人	NPO法人ドネルモによる「障害福祉分野の行政職員等を対象とした障害者による文化芸術活動に関する研修ツールの研究」のためのグループインタビュー／相談支援についての意見交換
4	2021年11月16日	23人	障害者芸術文化活動普及支援事業ウェブサイト改修、情報共有・広報についての意見交換
5	2022年1月21日	23人	今年度の活動報告及び今後の障害者芸術文化についての意見交換

全国連絡会議

支援センター、広域センター、都道府県担当者が集まり、本事業の実施に必要な基礎知識や専門的知見を全体で共有する講義・研修プログラムを企画、開催した。オンラインにて行い、前半を全体会、後半を分科会としてグ

ループに分けて開催した。また、第1回の評価ガイドライン、第2回の障害者の生涯学習については、事前に収録した動画の配信を行った。当日の欠席者に対しては、記録動画を公開した。



第1回全国連絡会議分科会1の様子



第2回全国連絡会議分科会2の様子

第1回

日にち：2021年10月18日　参加者：当日参加者70人・視聴回数328回

- **厚生労働省、文化庁からの情報共有**
障害者による文化芸術活動に関する調査研究について
令和4年度概算要求について
地方公共団体における計画策定の状況について
- **分科会：障害のある人たちの表現や作品のとらえ方をあらためて考える**
〈分科会1〉障害のある人の表現のとらえ方
話題提供者：久保田翠（認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ・理事長）
〈分科会2〉ろう者・難聴者の表現や感覚を知る
話題提供者：牧原依里（育成×手話×芸術プロジェクト／映画作家）
〈分科会3〉言葉からつむぐ表現、精神障害者の視点から
話題提供者：森本しげみ（NPO法人シアターネットワークえひめ代表理事）
- **障害者芸術文化活動普及支援事業**
評価ガイドラインについて ※映像配信
認定特定非営利活動法人 日本ファンドレイジング協会 清水潤子
社会福祉法人グロー 松井裕紀

障害福祉、芸術文化の両分野にまたがる本事業において、厚生労働省、文化庁からの情報共有を行った。分科会では、障害のある人たちの表現や作品について、とらえ方や受け止め方について、あらためて考えを深める機会とするため、文化庁「障害者等による文化芸術活動推進事業」の採択団体のうち、知的障害、身体障害、精神障害それぞれで特徴的な活動を行っている団体から話題提供を行い、表現とは何か、作品とは何かを考えるきっかけとした。評価ガイドラインについては、活用に向けてのレクチャーを行った。

第2回

日にち：2021年12月23日　参加者：当日参加者62人・視聴回数188回

- **モデル研修「障害福祉分野の行政職員等を対象とした障害者による文化芸術活動に関する研修ツールの研究」**
特定非営利活動法人 ドネルモ
- **分科会：芸術文化分野での社会的包摂の取り組み**
〈分科会1〉アーティストと表現から考える
話題提供者：森井健太郎、山本玲子
（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 広報・ACYグループ）
〈分科会2〉相談を広げる、深める
話題提供者：奥山理子
（一般社団法人 HAPS Social Work / Art Conference ディレクター）
〈分科会3〉地域と協働する
話題提供者：山森達也
（アーツカウンシルみやぎき プログラムオフィサー）
- **文部科学省による障害者の生涯学習に関する取り組みにおける文化芸術活動について** ※映像配信
文部科学省 総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課 障害者学習支援推進室 障害者学習支援第一係 係長 井口啓太郎
神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 教授 津田英二

障害者総合福祉推進事業「障害福祉分野の行政職員等を対象とした障害者による文化芸術活動に関する研修ツールの研究」と連動するかたちで、特定非営利活動法人ドネルモのモデル研修を実施した。分科会では、地域において芸術文化活動を支援しているアーツカウンシルなどの中間支援組織の視点から、地域における障害者と芸術文化のかかわりについて、話題提供を行った。芸術文化と地域社会をつなぐ中間支援組織の活動は、支援センターの役割と重なる部分も多く、地域への波及や関わり方について考えを深めた。本事業とも重なる部分も多い、障害者の生涯学習についての話題提供も行った。

ウェブサイトリニューアル

本事業事業の幅広い認知をめざし、ウェブサイトが事業を知らない層への入り口となるよう部分的なリニューアルを行った。リニューアルにあたってはヒアリングや

ワークショップを経て、ウェブサイトの課題やめざすべきビジョンを明らかにした。
リニューアルリサーチ設計：篠田栞（編集者、ライター）



ウェブサイトリニューアル



ウェブサイトリニューアル_特集記事

ヒアリング

本事業と連携し、障害者支援のネットワークを広げるステークホルダーとなり得る障害福祉分野・芸術文化分野で活動する関係者をメインターゲットユーザーに据え、ヒアリングを実施。「厚生労働省が障害者芸術文化活動を

支援することの立場と課題」「支援センターの課題」「普及支援事業に期待すること」など第三者からの事業の印象・課題等を伺い、本事業のウェブサイトで得たい情報の抽出を行った。

障害福祉分野

又村あおい（全国手をつなぐ育成会連合会）
鈴木励滋（生活介護事業所カブカブ）
和田剛（障害者スポーツ文化センター横浜ラボール）

芸術文化分野

岸正人（全国公立文化施設協会）
山森達也（アーツカウンシルみやぎき）
藤川悠（茅ヶ崎美術館 学芸員）

ヒアリング結果抜粋

- 障害福祉施設の職員に対し、作品そのものだけでなく、形に残らないものや日常のアートなど多層的なアートが福祉の現場で活きるものであるということを、実感を持って感じられる機会や事例の発信が求められている。
- 障害福祉施設によって求める情報や課題が多様であり、施設内の役職によっても受けるべき研修が違う。また、自らの課題を意識化できていない場合もある。
- 本事業の意義の一つとして「福祉における芸術」「芸術における福祉」を適切に言語化し、事業関係者が自分ごと化できるビジョンの発信が重要である。

改修方針策定ワークショップ

ユーザーリサーチを経て厚生労働省及び連携事務局スタッフにてディスカッションワークショップを行い、

改修方針

- 事業の旗印をつくる
- 「自分と同じ立場の人が、どのように課題を克服したのか」という軸からの事例の発信
- ユーザーが自分ごと化しやすいようなウェブサイトの入り口設計
- 各支援センターの現場事例の再編集。連携事務局の顔の見える発信

ウェブサイトリニューアル

ユーザーリサーチ、改修方針ワークショップを経て、以下の通りウェブサイトをリニューアルした。

1. ロゴマークの作成

- デザイナー原田祐馬氏にロゴ作成を依頼。一枚の面が重なり合って、サポートのSが浮かび上がり、支援することで未来がひろがることを想起させるデザインとした。

2. トップページ改修

- ユーザーが自分ごと化しやすいよう、ユーザーの関心に近く共感できる問いを表示し、情報を紹介するように導線整備を行った。

特集ページ

特集ページで取り上げたインタビューは以下の通り。

※記事制作協力：特定非営利活動法人ドネルモ

制度のスキマをつなぎなおす広報発信

—障害者芸術活動支援センター @宮城（愛称：SOUP）
エイブル・アート・ジャパン 柴崎由美子

美しい体験がバリアそのものを融解させる—茅ヶ崎市美術館

茅ヶ崎市美術館 担当学芸員 藤川悠

福祉現場の課題解決に大学のリソースと知見を活用する

—アーツセンターあきた

NPO法人アーツセンターあきた 田村剛

アートかどうかではなく、愛ある「発見」のプロセスに光をあてる

—中国・四国ArtbrutSupportCenterpasserelle
美術家 土谷享

変わりゆく社会における課題を、美術鑑賞から考える

—ボーダレス・アートミュージアム NO-MA
社会福祉法人グロー（GLOW）芸術文化部 山田創

文化と福祉。両者の特性を活かし、社会の見方を

変えていく—岐阜県障がい者芸術文化支援センター

TASC ぎふ業務総括 土屋明之、二村元子、岐阜県障害福祉課職員 櫻田智志

本事業のビジョン策定・ウェブサイト／広報発信の方針を策定した。

開催日時：2021年10月25日（月）

場所：株式会社precog 会議室

ワークショップ参加：大塚千枝（厚生労働省）、

小川智紀、田中真実（アートNPOリンク）、

兵藤茉衣、野崎美樹、林芽生（precog）

ワークショップ設計・進行：篠田菜

3. ABOUTページ（事業紹介ページ）の改修

- ビジョンの掲載：本事業がめざすビジョンを制作し掲載した。
- ABOUTページの内容を抜粋し、事業関係者がダウンロードして配布資料として活用できるパンフレット（PDFデータ）を作成した。
- 連携事務局のスタッフ紹介：連携事務局の熱意や役割が具体的に伝わり、支援センターや広域センターとコミュニケーションするきっかけになるよう連携事務局の顔の見える発信を行った。

さまざまな人の力を借りて事業を進めることを大事に

—島根県民会館

しまね文化振興財団 島根県民会館文化事業課 主任 門脇永

日常のケアの延長で、アーティストとのシナジーをつくる

—NPO法人シアターネットワークえひめ／

愛媛県障がい者アートサポートセンター風のねこ

NPO法人シアターネットワークえひめ 森本しげみ、

愛媛県障がい者アートサポートセンター 天野真紀子

相談支援を起点にして有機的な支援の循環がおこる

—東海・北陸ブロック広域センター

社会福祉法人みんなでいきる 坂野健一郎

ビジョンを共有して、工夫や気づきを蓄積する

—三重県立美術館

三重県立美術館学芸員 鈴村麻里子

オンライン“だからこそ”にチャレンジする

—神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター

認定NPO法人STスポット横浜 田中真実、川村美紗

『あなたがあなたのままで魅力的』という舞台をつくる

—たんぼの家 アートセンター HANA

たんぼの家 アートセンター HANA 佐藤拓道

プレスリリースの発信と広報企画

- ウェブサイトのリニューアルに合わせプレスリリースを発信し、本事業の全国的な認知度の向上を測った（プレスリリースページビュー：835、プレスリリース転載数：19）。

- 本事業のFacebookアカウントでは、各支援センターの情報や全国で行われている福祉×アートのイベントなど、障害者団体、芸術団体等が障害者の芸術活動普及のヒントになる情報を発信した。また、広告の出稿を行い、公式ウェブサイトへの流入

を促し、事業の認知度向上を測った（Facebook投稿の宣伝によるリンククリック数：835、ウェブサイトリニューアルのお知らせ投稿：114、ウェブページ自体の宣伝投稿：208）。

- 福祉ウェブメディア「こここ」や大手ウェブメディア「ハフポスト」と協働し、本事業の認知向上を目的としたメディアタイアップ記事を展開した。

連携事務局運営団体について

特定非営利活動法人 アートNPOリンク（美術分野）

〒220-0004

神奈川県横浜市西区北幸1-11-15 横浜STビル208

TEL：045-325-0414 FAX：045-325-0414

E-mail：info@arts-npo.org

URL：https://arts-npo.org/



株式会社precog （舞台芸術分野）

〒152-0022

東京都目黒区柿の木坂1-24-15

TEL：03-6825-1223 FAX：03-6421-2744

E-mail：info@precog-jp.net

URL：https://precog-jp.net/



アートNPOが多様な価値を創造し、社会を動かす力を持つ社会的な存在であるとの認識をもとに、この力を広く社会にアピールするための中間支援組織。市民自治の理念にもとづき、アートと社会の橋渡しを通して、幅広く領域をこえたNPOと連携し豊かな市民社会を創出する役割を担う。社会に向けて提言、他のセクターとのパートナーシップ、情報収集・発信・研究調査、地域密着型のミニフォーラム開催等を行っている。

国内外で実施されるさまざまな「イベント」を成功に導くための企画や運営を行う制作会社。観客やアーティストとともにワクワクするような化学反応を起こし、日々更新される“同時代”の面白さを伝える。作品やワークショップ、配信や、鑑賞等のためのアクセシビリティの質を上げ、プロジェクトの同時代性や事業の展開を追求している。日常にある“表現”に価値を見出し、国際的なシーンや地域コミュニティとつながり、教育や福祉を視野に入れて、“表現”の未来をつくる。

数値で見る実績

「令和3年度障害者芸術文化活動普及支援事業」において、支援センター 47ヶ所、広域センター 7ヶ所で行った地域の障害者の芸術文化活動に関する支援の実績を数値にまとめた。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機に新たに始まった「オンラインでの取り組み」も含めている。

相談件数

障害のある当事者や支援者、家族などから寄せられた芸術文化活動に関する相談件数は、以下の通り。美術分野は43のセンター、舞台芸術分野は27のセンターが相談対応した。

2021（令和3）年度	4,183件（美術分野 2,414件／舞台芸術分野 475件／その他 1,294件）
2020（令和2）年度	3,175件（美術分野 2,033件／舞台芸術分野 325件／その他 817件）
2019（令和元）年度	4,941件（美術分野 4,193件／舞台芸術分野 370件／その他 378件）
2018（平成30）年度	3,892件（美術分野 3,495件／舞台芸術分野 397件）
2017（平成29）年度	3,644件（美術分野 2,853件／舞台芸術分野 791件）

※2019年度までは回数を報告していた場合もあった

研修会の件数

支援に必要な知識や技術、著作権と権利保護関連などのハイブリッド形式、対面での研修会を申込者に後日配信といった方法でのオンライン研修を、36のセンターが行った。オンライン会議ツールを利用した研修や対面とオンライ

	実施回数	参加者数
2021（令和3）年度	253回（うち、オンライン187回）	8,950人（うち、オンライン7,888人）
2020（令和2）年度	175回（うち、オンライン108回）	10,539人（うち、オンライン9,315人）
2019（令和元）年度	197回	4,501人
2018（平成30）年度	162回	4,173人
2017（平成29）年度	175回	3,601人

展覧会などの美術企画

展覧会や美術活動を体験するワークショップといった美術企画を、42のセンターが開催した。ウェブサイトでの作家・作品紹介や無観客展覧会の動画配信、オンライン会議ツールを利用した美術活動を体験するワークショップといったオンライン企画に、32のセンターが取り組んだ。

	出展もしくはワークショップに参加した障害のある人	来場者数
2021（令和3）年度	7,176人（うち、オンライン1,782人）	116,691人（うち、オンライン23,451人）
2020（令和2）年度	4,944人（うち、オンライン448人）	48,464人（うち、オンライン6,927人）
2019（令和元）年度	2,852人	173,468人
2018（平成30）年度	1,621人	108,979人
2017（平成29）年度	1,122人	48,604人

公演などの舞台芸術企画

舞台公演や舞台芸術活動を体験するワークショップといった舞台芸術企画を、22のセンターが開催した。自宅・施設などからオンライン会議ツールで出演・参加、事前に撮影した映像や会場でのパフォーマンスを配信する等のオンライン企画に、16のセンターが取り組んだ。

	出展もしくはワークショップに参加した障害のある人	来場者数
2021（令和3）年度	653人（うち、オンライン398人）	13,493人（うち、オンライン7,210人）
2020（令和2）年度	1,065人（うち、オンライン410人）	9,257人（うち、オンライン7,350人）
2019（令和元）年度	1,218人	5,645人
2018（平成30）年度	622人	5,799人
2017（平成29）年度	904人	7,472人

情報発信

テレビ、新聞などのメディアへの掲載、ウェブサイトやSNSなどに関する情報発信の取り組みである。40のセンターのウェブサイトで、本事業に関する記事が3,535件投稿された。新聞や雑誌、テレビ、ラジオなどに本事業が取り上げられた件数は446件であった。

	ウェブサイト 投稿数	ウェブサイト アクセス数	メディア掲載・報道数
2021（令和3）年度	3,535件	1,606,647件	446件
2020（令和2）年度	2,756件	1,072,695件	393件
2019（令和元）年度	2,392件	948,993件	332件
2018（平成30）年度	1,560件	379,073件	313件
2017（平成29）年度	582件	173,941件	161件

※SNSの投稿数を含めているセンターあり

令和3年度
障害者芸術文化活動普及支援事業 報告書

2022年3月31日

企画・発行

令和3年度障害者芸術文化活動普及支援事業 連携事務局
<https://arts.mhlw.go.jp/>

特定非営利活動法人アートNPOリンク（美術分野）
〒220-0004
神奈川県横浜市西区北幸1-11-15 横浜STビル208
E-mail：info@arts-npo.org TEL：045-325-0414

株式会社 precog（舞台芸術分野）
〒152-0022
東京都目黒区柿の木坂1-24-15
E-mail：info@precog-jp.net TEL：03-6825-1223

連携事務局

大澤寅雄、小川智紀
田中真実、千田優太（特定非営利活動法人アートNPOリンク）
中村茜、金森香
兵藤茉衣、野崎美樹
林芽衣、小仲やすえ
小野寺研斗（株式会社 precog）

デザイン

岡本健+

編集

大谷薫子、小野田由実子

印刷・製本

共進印刷

厚生労働省
「令和3年度障害者芸術文化活動普及支援事業」の
補助を受けて作成しました。

